

ちがさき未来会議

結果報告書

平成 30 年 9 月

1. 概要

1.1. 開催概要

目的	次期総合計画の策定にあたり、市民が考える「茅ヶ崎市の将来」を明らかにするとともに、「市民の想い」を反映した計画とするための基礎資料とする。
日時	第1回：平成30年7月15日（日）10：00～12：30 第2回：平成30年8月12日（日）10：00～12：30 第3回：平成30年8月25日（土）10：00～12：30 第4回：平成30年9月8日（土）9：30～12：00
場所	市役所本庁舎4階会議室
参加者	公募市民（HP等での公募）（32名） 市職員（各回10名、計20名） 計51名
内容	連続性のある4回のワークショップで、市民対話により茅ヶ崎市の未来像を描く。 はじめに、茅ヶ崎市のよいところや魅力などのポジティブな面で“次の茅ヶ崎”にどんな魅力を残し、どんな強みを伸ばし、どんな弱みを改善するかを検討するとともに、茅ヶ崎市の「財産・ポテンシャル」とは何か考えてみる。次に縮小社会を見据えた上で（資源制約を意識して）、茅ヶ崎市にとって大切なこと、譲れないことなど茅ヶ崎市の未来を考えるポイントを考える。続いて、これまでの検討を踏まえ、茅ヶ崎市の「目指す豊かさ」とは何かについて検討し未来像のストーリーづくりを行う。最後に、資源制約などの茅ヶ崎市が乗り越えなければならない課題等を抽出し、これからの茅ヶ崎市を作り上げる道筋を考える。

プログラム概要	第1回	<p>テーマ：ちがさきってどんなまち？—茅ヶ崎市の良さを見つめ直す— <ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強みと弱みの確認 ・ まちづくりの原動力となる良さ・ポテンシャルの再認識 <p>①市挨拶（服部信明 市長） ②まちづくりワークショップの役割・進め方について ③ミニ講座（話題提供）～茅ヶ崎市を考える視点 ④ワークショップ（1）茅ヶ崎市の良いところ・強み／悪いところ・弱みは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介（アイスブレイク） ・ワールドカフェ（25分×2ラウンド） <p>休憩</p> <p>⑤ワークショップ（2）“次の茅ヶ崎”で、「30年後も大切に残したいこと」「伸ばしていきたいこと」、「改善したいこと」を考える。</p> <p style="padding-left: 40px;">（3）茅ヶ崎市の「財産・ポテンシャル」とは何か考えてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・発表（全体で共有） <p>⑥振り返り、次回に向けて</p>
	第2回	<p>テーマ：これから、ちがさきに起こること—茅ヶ崎市を取り巻く変化を予測する— <ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口・財政・・・マクロの視点からの予測（これから起こること、起こりそうなこと） ・ 地域や暮らし・・・ミクロの視点からの予測（これから起こること、起こりそうなこと） ・ 資源が縮小していく中での、政策立案や資源配分のシミュレーション <p>①ミニ講座（話題提供）～15年後・30年後の茅ヶ崎市 ②ワークショップ：バーチャル市長（資源配分シミュレーション）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縮小社会を見据え、人口、財政等の制約下で、グループごとに、市長に政策（事業）と予算配分の案を作成するシミュレーション <p>休憩</p> <p>③ワークショップ：茅ヶ崎市の未来を考えるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②を通じて感じたこと、グループで話し合ったことなどから、茅ヶ崎市民にとって大切なこと、譲れない願望、茅ヶ崎市の未来を考えるポイントを出し合うグループワーク <p>④振り返り、次回に向けて</p>

	<p>テーマ：次のちがさをどう描く？—茅ヶ崎市がめざす未来像を考える—</p> <p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資源が縮小し、社会が成熟していく中で「目指す豊かさ」とは？ ・ 大切にしたいこと、拠り所になる価値観、譲れない願望 ・ 茅ヶ崎市のポテンシャルを生かし、どんな未来を展望するか？ 10～20年後の未来像を描く <p>第3回</p> <p>①ワークショップ：茅ヶ崎市の「目指す豊かさ」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回ワークショップ結果や第2回ワークショップ結果を振り返り、茅ヶ崎市の「目指す豊かさ」について検討する。 <p>②ワークショップ：未来像のストーリーづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①や、これまでのワークショップで考えてきた「強み」「制約」等を念頭に置き、未来の暮らし、まちのありようの「断片」を出し合う ・ その断片をつなぎ、イメージが膨らむストーリーを描く <p>③発表・共有</p>
	<p>テーマ：未来に続く地図を描こう！—未来像実現への道筋を考える—</p> <p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未来像実現に向けた道筋を考える ・ 未来から現在の振り返り：バックキャスト 乗り越えなければならない課題、チャレンジするテーマ <p>第4回</p> <p>①ワークショップ：未来像実現に向けた道筋を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回の②で考えてきた未来像の実現に向けて、未来から現在を振り返り、取り組むべきこと、想定される障壁に対する解決策を考え、これからの茅ヶ崎市を作り上げる道筋を、グループワークで掘り下げ <p>②発表・共有</p> <p>③全体振り返り、将来都市像の設定に向けて（キーワード出し）</p> <p>④市挨拶（御礼）</p>

1.2. 当日の写真







2. 結果

2.1. 市民意見まとめ（各グループ）

グループ番号：A

【未来像実現を阻む障壁・問題】

行政	【障壁・問題】 <ul style="list-style-type: none"> 計画だおれ 異なった意見を受け入れない職員 オープンにしない 市民のためのPDCAがない 	【解決策】 <ul style="list-style-type: none"> 総合計画を策定しない。個別計画で。 市民と双方向のコミュニケーションする職員（過程の議論） 行政の組織改革（もっと連携） マイナス点、課題の公開 議会の完全ボランティア化 成果主義（管理職試験） 年功序列、終身雇用の廃止
社会状況	【障壁・問題】 <ul style="list-style-type: none"> 若い人の教育、ハード重視 若者の雇用 茅産の衰退（後継者問題） 	【解決策】 <ul style="list-style-type: none"> ITリテラシー 一次産業の充実、茅産の継承

茅ヶ崎市の未来

【ちがさきの未来を考えるポイント】

安全・安心に暮らす	<ul style="list-style-type: none"> インフラ、生命・健康に関わるものは市が担う。
地域で豊かに暮らす	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流、かかわりの創出により人を豊かにする。 多様な主体の関わり、多様な力を活かす。 未来を創る人が育つ。
未来を創る	<ul style="list-style-type: none"> 未来の子どもたちのための持続可能な地域を創る。 住みたい場所であり、人間らしく暮らせる地域を創る。

【未来像のショートストーリー】

【2050年頃】

40代/子ども2人夫婦

朝タブレット端末にきた情報をチェックし、地域の課題について意見を発信。子どもは学校に行き、祖父母も学校で教えたり、企業や市民の交流の場として機能している。いろいろな人が交流でき、意見を言え、未来について考えることで持続可能な茅ヶ崎になる。

【未来像のストーリーづくりの発表の中で出てきたキーワード】

- 今までどおりの暮らしを見直す
- 世代や仕事、生活の場の垣根を越えて一つの茅ヶ崎市民として出会える場づくり

茅ヶ崎市の現在

【残したいこと】

自然が豊かであるところ、伝統をもとにした人のつながりが豊かであるところ

【伸ばしたいこと】

市民の交流（地域の世代を越えた交流、全員参加型の交流）、市民力の向上

【改善したいこと】

情報発信力の向上

市民自治・市民参加

【障壁・問題】

- 市政に対する市民の意識
- 市民への市からのアプローチ
- 参加のメリットがわからない
- 参加の結果がイメージできない

【解決策】

- 参加結果の見える化（本当の姿）
- 教育（小さいころから市政に関わっていることを知る）
- 広報（様々な手段、人づて）

【持続可能なまちづくりのための事業選択で出てきたキーワード】

- 民間活力・市民活力の活用
- 選択、統合による効率化

【茅ヶ崎市の財産・ポテンシャル】

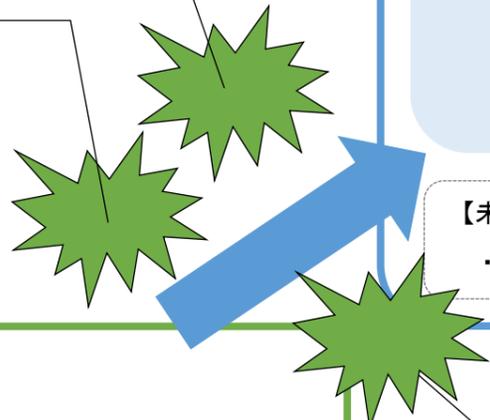
「自然につつまれた人のつながり」

グループ番号：B

【未来像実現を阻む障壁・問題】

【障壁・問題】 財源の確保	【解決策】 ・ 株式会社茅ヶ崎／路上パーキング ・ シニアが活躍／ベンチャーサポート
------------------	--

【障壁・問題】 集客	【解決策】 ・ イベントの量産
---------------	--------------------



茅ヶ崎市の未来

【ちがさきの未来を考えるポイント】

将来への投資(子どもへ)	・ 新旧混合 ・ 一緒に学ぶ ・ 歳入を増やす
人生100年への備え (シニアへ)	・ その日が楽しくなるような
茅ヶ崎のインフラ整備 (ソフト・ハード)	・ 民間でできないことを市が実施する ・ 茅ヶ崎のインフラ整備を行うことで、古き良き茅ヶ崎を残していく

【未来像のショートストーリー】

【22世紀の茅ヶ崎シニアの1日】

朝 5:00 自宅の ICT 情報をチェック

AM シャトルバスで海岸まで(北から南へ)

正午 ふれあい食堂では知り合いの店でお金を使う→人が動くことでお金と知識が循環
→せまい道を安心しててくてく歩く(一方通行)

PM 民家でシニアが子供に伝える→シニアは稼ぎ子供は学ぶ→子供を持つ親が引っ越してくる

夜 快樂食堂で勉強 (ICT 情報) →シニアのスキルUP

寝る 翌日の情報をチェック。

毎日楽しい。(平日) 大人がうろうろしている街、交流する街

【未来像のストーリーづくりの発表の中で出てきたキーワード】

・ 人と人との繋がり、挨拶できるようなまちづくり ・ 人・知識・情報の循環・交流

茅ヶ崎市の現在

【残したいこと】

狭い道(人との距離感が近くなり、挨拶や人の心の温かさなどに気づくことができる)

【伸ばしたいこと】

サザンビーチ(有名な海の魅力を伸ばす事業を続け、観光地を増やす)

【改善したいこと】

人と自転車とのトラブル(歩道と自転車道の区別などによる解決策)

【障壁・問題】

人材の確保

【解決策】

・ 語ってもらえるようなまちづくり

【持続可能なまちづくりのための事業選択で出てきたキーワード】

- ・ 民間活力の活用
- ・ 個人負担
- ・ 施設更新と合わせた他施設機能の統合、代替

【茅ヶ崎市の財産・ポテンシャル】

「古き良きを残す！！」

グループ番号：C

【未来像実現を阻む障壁・問題】

【障壁・問題】 人口減への対策	【解決策】 ・ 茅ヶ崎応援団を作り、都心から戻ってこれるしきみを作る。 ・ 外国人への優遇。地域住民と外国人との相互利益のしきみを作る。 ・ ボランティア活動支援と昼間の人口増への取り組み。
【障壁・問題】 他人への気遣い・マナーの向上	【解決策】 ・ 住民誰でも登録、利用できるHP等を作成し、様々な分野でスポンサーを募り、地域から発信し、お互いで理解し合える関係性を作る。

茅ヶ崎市の未来

【ちがさきの未来を考えるポイント】

暮らしやすい街づくり	・ インフラ整備 ・ 市民活動の充実 ・ 教育の向上
未来に向け、人への投資	・ 縮小・削減だけでなく「稼ぐ」ために何をしなければならないか
良いもの（自然環境・住環境）／観光化アピール／異世代交流できる空間	

【未来像のショートストーリー】

茅ヶ崎市には、異世代交流できる空間がある。そこは、研修・教育の場で、高齢者は遊び方や教育を若い者へ伝え、働き手の世代では各地から人材が集まり成功スキルの伝承が行われている。各地から人が集まる理由は、海・山・キャンプ場など自然豊かで、夜の遊び場があるからだ。多世代が輝ける土壌があるので、まちには「茅ヶ崎スマイル」はあふれている。一方、まちのインフラでは道路・交通機関網が整備され、また、ディスプレイ等ごみが少なくなる仕組みが取り入れられ、「茅ヶ崎スマイル」を促進している。

【未来像のストーリーづくりの発表の中で出てきたキーワード】

・ セカンドライフ・セカンドチャンス ・ 世代を問わず茅ヶ崎スマイルが見られるまち

茅ヶ崎市の現在

【残したいこと】 海や丘陵地があり、しっかりとコンパクトにまとめられたまち
【伸ばしたいこと】 古い文化を新しい人々と融合させ、新しい価値観を生み出していける茅ヶ崎のあり方
【改善したいこと】 都市構造の改善（住宅街・商店街の位置、空き家・空き地の活用、移動手段の整備） 地域経営の改善（住民自治の実効性、行政の全面見通し、自主的な取組の促進）

【障壁・問題】 身の丈に合ったまちづくり	【解決策】 ・ 住民からのサービス発信。行政だけのサービス提供を見直し、住民の力を表現できる体制を構築し、茅ヶ崎市に見合ったサービスを提供する。
-------------------------	---

【持続可能なまちづくりのための事業選択で出てきたキーワード】

・ 民間委託の可能性 ・ 近隣自治体との統一化
・ 複数事業（類似、関連事業間）の複合化

【茅ヶ崎市の財産・ポテンシャル】

「自然・環境」「新しい価値観を生み出す」

グループ番号：D

【未来像実現を阻む障壁・問題】

【障壁・問題】 <ul style="list-style-type: none">公園が活用されていない。観光（デート）スポットがない。観光資源をPRできていない。	【解決策】 <ul style="list-style-type: none">野球場、公園の再開発を民間にお金を落としてもらおう仕組みを茅ヶ崎異人館カフェ海岸線の有効活用
--	--

【障壁・問題】 <ul style="list-style-type: none">情報発信情報が集約されていない地域の情報がわからない（ボランティア、市民団体の活動、シルバーの活用）	【解決策】 <ul style="list-style-type: none">リンクを貼る。市のHPをハブにする。項目を増やすのではなく、見やすさを重視。地域のページを作る。
---	---

茅ヶ崎市の現在

【残したいこと】

海の近くで環境的に恵まれ、それを背景として色々な文化が根付いているまち

【伸ばしたいこと】

他のまちに比べてシニアが気持ち的に若いこと

世代を超えたコミュニケーション（文化的な活動が世代で分かれているところを改善）

【改善したいこと】

公園が少ないことや道が狭いなどの問題、世代間コミュニケーションの不足

茅ヶ崎市の未来

【ちがさきの未来を考えるポイント】

文化・地域・住みやすさの融合	<ul style="list-style-type: none">コミュニティの形成神社の多さ（祭り）
豊かな自然環境	<ul style="list-style-type: none">江の島、里山、えぼし岩、富士山、海が同時に見える
動きやすいまち	<ul style="list-style-type: none">自転車中心人口もまちもちょうどよいコンパクト
コミュニティの形成	<ul style="list-style-type: none">地域でできることは地域で

【未来像のショートストーリー】

私の10年後は75歳。今日は海を見ながらcaféで朝食。えぼし岩を写真に撮りインスタに投稿。みんな「いいね！」を押してくれる。これからスポーツジムで身体を調整。健康長寿でいるために運動は欠かせない。午後は、小・中学生に学習のボランティア。勉強だけでなく、昔遊びや読み聞かせも行っている。明日は、茅ヶ崎のまち歩きだ。らちえん通りを中心に文化を感じるツアーだ。そこには、シニアだけでなく子育てママもやってくる。茅ヶ崎のあんなこと、こんなことを話す情報交換の場だ。最近、茅ヶ崎に住みはじめた人が参加することも多くなってきた。もうすぐ浜降祭。担ぎ手にならないかと声をかけ、地域の伝統文化を知ってもらい、たくさんの人に参加してもらおうことで、コミュニティを充実させていきたいと思う今日この頃だ。

【未来像のストーリーづくりの発表の中で出てきたキーワード】

・自然環境の良さ ・茅ヶ崎独特のゆるさ

【障壁・問題】

防災情報が乏しい

【解決策】

- 詳細な情報→対話を増やす
- ラジオ防災
- ITを活用して発信
- 意識づけ、イベント（防災、yahoo、Google等と連携。→防災、観光等
- 観光と防災をリンク

【持続可能なまちづくりのための事業選択で出てきたキーワード】

- 民間委託
- 人口縮小を見据えたお金の使い方
- 事業の代替検討

【茅ヶ崎市の財産・ポテンシャル】

「文化が根付く住みやすい環境」

グループ番号：E

【未来像実現を阻む障壁・問題】

【障壁・問題】 情報を知る機会	【解決策】 ・ テーマを絞った話し合いの場 ・ 市の情報発信方法の工夫 ・ こどもが知れる機会（例：こども用の冊子）
--------------------	---

【障壁・問題】 市民参加のあり方	【解決策】 ・ 気軽に参加できる場 若者も！ ・ 市民の意見が反映されている実感
---------------------	--

【障壁・問題】 どこに空き家があるのか？	【解決策】 ・ 場所が知れる ・ マッチング
-------------------------	------------------------------

茅ヶ崎市の現在

【残したいこと】

茅ヶ崎や湘南全体の特徴である、「自然」「文化」「イベント」

【伸ばしたいこと】

（改善したいことが伸ばしたいことにつながる。）

【改善したいこと】

地元産業の漁業、農業、畜産業

情報発信（説明会、セミナーなど）

茅ヶ崎市の未来

【ちがさきの未来を考えるポイント】

地域コミュニティの再創出	・ 大きな事業を行うのではなく、既存もの（空き家など）を活用してコミュニティを創出する。
安心した暮らし	・ 行政でないとできない事業。
健康な生活	・ 安心した暮らしを行うための基本。

【未来像のショートストーリー】

- 【3世代家族の一日（おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、お兄ちゃん、お姉ちゃん、ボク（主人公）、弟）
- ・ おじいちゃんとおばあちゃんは近所にできた空き家を活用したコミュニティで集まった人たちに農業を教えている。
 - ・ お兄ちゃんは片道2時間通勤の父を見て、茅ヶ崎市内で誰でも活躍できるような仕事を創出できるような起業を考えている。
 - ・ お母さんとおばあちゃんは、おじいちゃんの農園で採れた野菜を使って昼ごはんを作っている。
 - ・ お姉ちゃんは、整備された道路で安心して自転車通学をしている。
 - ・ ボクと弟は近所の緑豊かな公園で遊んでいる。
 - ・ お母さんが午後に地域のみんなで防災について話している。

【未来像のストーリーづくりの発表の中で出てきたキーワード】

- ・ 道路面のハードの整備
- ・ 空き家を活用したコミュニティ
- ・ 遊べる公園を確保すると同時に緑を保全
- ・ 茅ヶ崎で快適に暮らしながら仕事ができる環境
- ・ 農業の文化も守りながら生活

【障壁・問題】

コミュニケーション

【解決策】

- ・ 「困ってる」と「助けられるよ！」のマッチング
（例：市民の掲示板）

【持続可能なまちづくりのための事業選択で出てきたキーワード】

- ・ 民間活力や知識の活用
- ・ 事業の代替検討（類似事業間の代替、地域コミュニティの促進による代替）

【茅ヶ崎市の財産・ポテンシャル】

「私たち、市民」

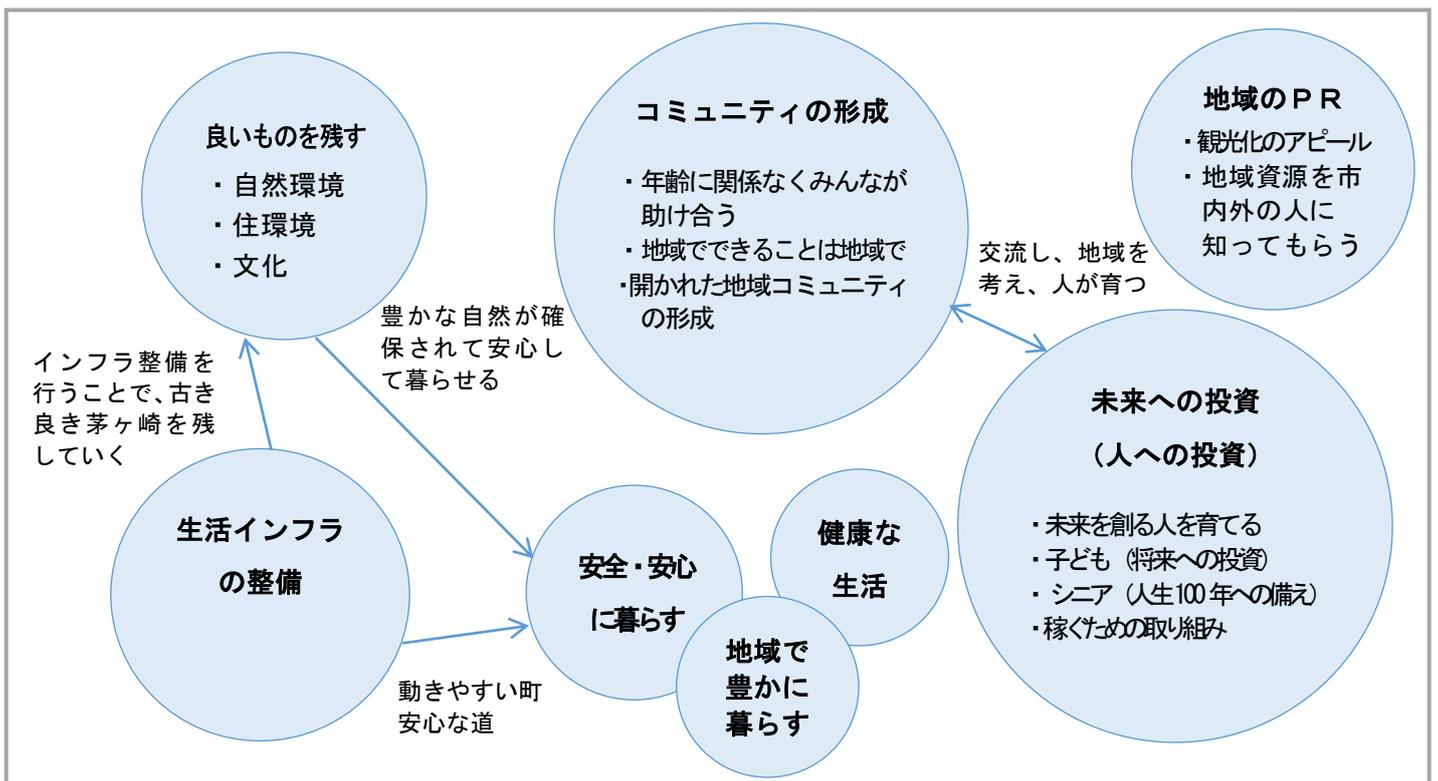
2.2. 市民意見まとめ（全体）

◆ちがさきの未来を考えるポイント

全てのグループで共通して出された視点は、「ヒト」の視点である。「開かれた地域コミュニティを形成し、地域課題に取り組むこと」と、「未来をつくる人を育てていくこと」が挙げられ、それらが一体となって好循環を作っていくことが重要である。

また、茅ヶ崎市の発展の背景となってきた自然環境や住環境、そしてそこから生まれた文化など、茅ヶ崎らしい良いものを残していきたいという意見も多くあり、それらを守るために、生活インフラの整備は、行政の役割として重要である。そして、それらが実現する中で、いつまでも、地域で安全に、そして豊かに暮らしていただける茅ヶ崎市を形成していくことが求められている。

茅ヶ崎市の発展には、観光化のアピールや地域資源の情報発信などが挙げられたが、観光化は生活環境の悪化につながるとの意見も見られた。



◆未来像実現を阻む障壁・問題と解決方法

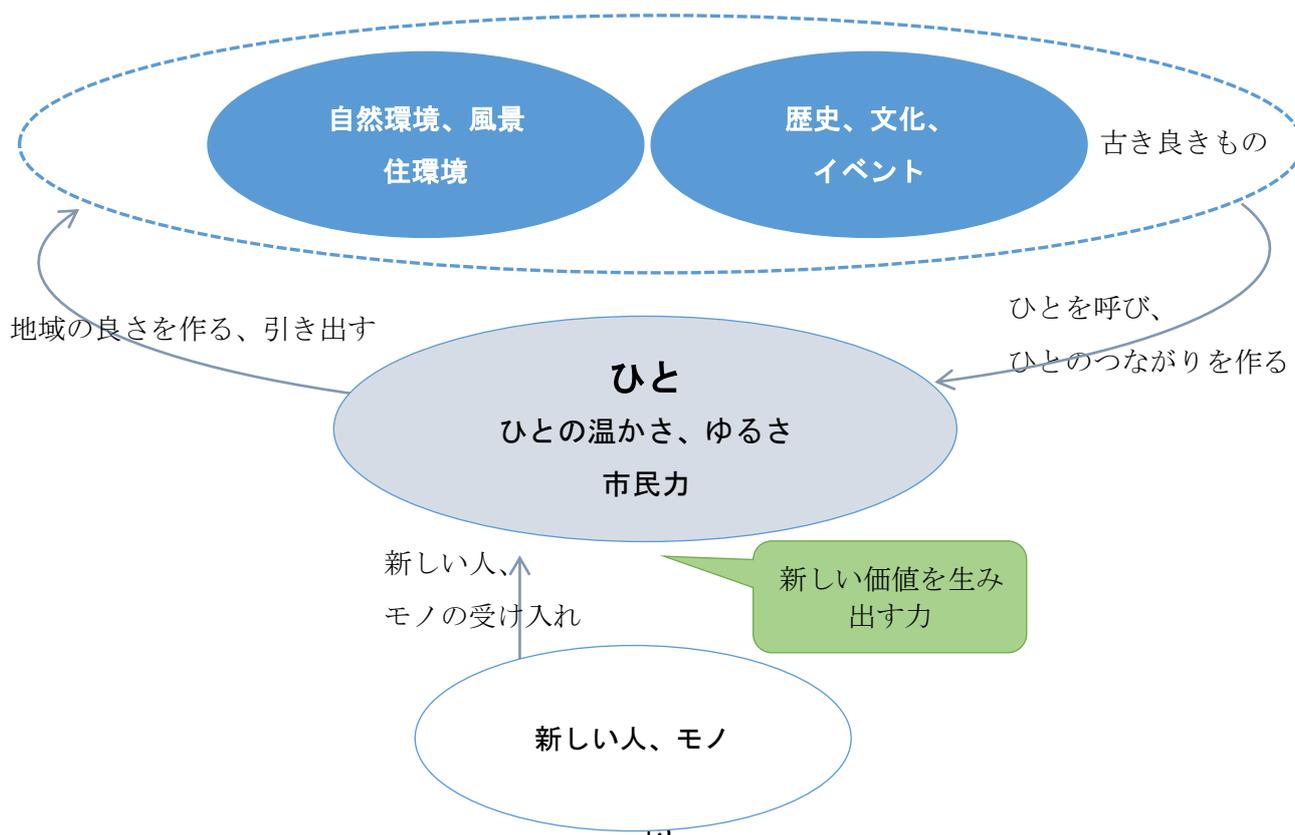
障壁・問題		解決策
市民自治・市民参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市政に対する市民の意識 ・ 市民への市からのアプローチ ・ 参加への納得感がない（メリットが不明確、結果が不明確） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加結果の見える化（本当の姿）、市民意見反映の実感 ・ 教育（子どもも地域を知り、一主体であることに気づく） ・ 気軽に参加できる場 ・ 住民からのサービス発信。行政だけのサービス提供を見直し、住民の力を表現できる体制を構築し、茅ヶ崎市に見合ったサービスを提供する
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画倒れ、策定疲れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合計画を策定せず、個別計画で対応 ・ 行政の組織改革（さらなる連携の推進） ・ 議会の完全ボランティア化 ・ 成果主義（管理職試験）、年功序列、終身雇用の廃止
人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少への対策 ・ 若者の教育 ・ 若者の雇用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茅ヶ崎応援団を作り、都心から戻ってこれるしゅきみを作る ・ 外国人への優遇。地域住民と外国人との相互利益のしゅきみを作る ・ ボランティア活動支援と昼間の人口増への取り組み
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を知る機会 ・ 情報が集約されていない ・ 情報収集方法がわからない ・ 防災情報の不足 ・ 空き家情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマを絞った話し合いの場 ・ 見やすくわかりやすい情報発信の工夫（リンク、地域ページ） ・ ITを活用した発信 ・ ITリテラシー
コミュニケーション	<p><市民と市のコミュニケーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異なった意見を受け入れない職員 ・ 市の情報がオープンになっていない ・ 市民のためのPDCA不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民と双方向のコミュニケーションする職員（過程の議論） ・ マイナス点、課題の公開
	<p><市民間のコミュニケーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題のマッチングがうまくいっていない。 ・ 他人への気遣い・マナーの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民間の「困ってる」と「助けられるよ！」のマッチングの仕組み（市民掲示板など） ・ 住民誰でも登録、利用できるHP等を作成し、様々な分野でスポンサーを募り、地域から発信し、お互いで理解し合える関係性を作る
財源の確保・稼げる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源が活用されていない（公園など）。 ・ 観光（デート）スポットがない。 ・ 観光資源をPRできていない。 ・ 集客 ・ 茅産の衰退（後継者問題） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間活力の活用 ・ 海岸線の有効活用 ・ イベントの量産 ・ 株式会社茅ヶ崎／路上パーキング ・ シニアが活躍／ベンチャーサポート ・ 一次産業の充実、茅産の継承 ・ お金を落としてもらう仕組みづくり（カフェなど）

◆持続可能なまちづくりのための事業選択で出てきたキーワード

サービス提供主体の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・民間活力・市民活力の活用 ・受益者負担
複合化・統合化	<ul style="list-style-type: none"> ・複数事業（類似、関連事業間）の複合化、統合化 ・施設更新と合わせた他施設機能の複合化・統合化 ・広域連携（近隣自治体との事業統合）
代替	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の代替検討（類似事業間の代替、地域コミュニティの促進による代替） ・施設の代替検討
取捨選択	<ul style="list-style-type: none"> ・人口縮小に合わせたまちづくりの推進（拡大抑制、縮小推進、新規投資の取捨選択）

◆茅ヶ崎市の財産・ポテンシャル

茅ヶ崎市の強みとして、人があたたかい、外の人も受け入れてくれるなど、「ひと」の魅力が全てのグループから挙げられた。その背景となっているのが、茅ヶ崎市の魅力的な自然環境や住環境であり、人が集まることによって歴史や文化が形成され、人がつながり、さらに地域の良さが高まっていくという好循環を作っている。また、外から来た人や新しいものを受け入れる柔軟で、あたたかく、良いゆるさを持った地域のありようが、新しい価値を生み出し、地域の魅力を一層高めている。

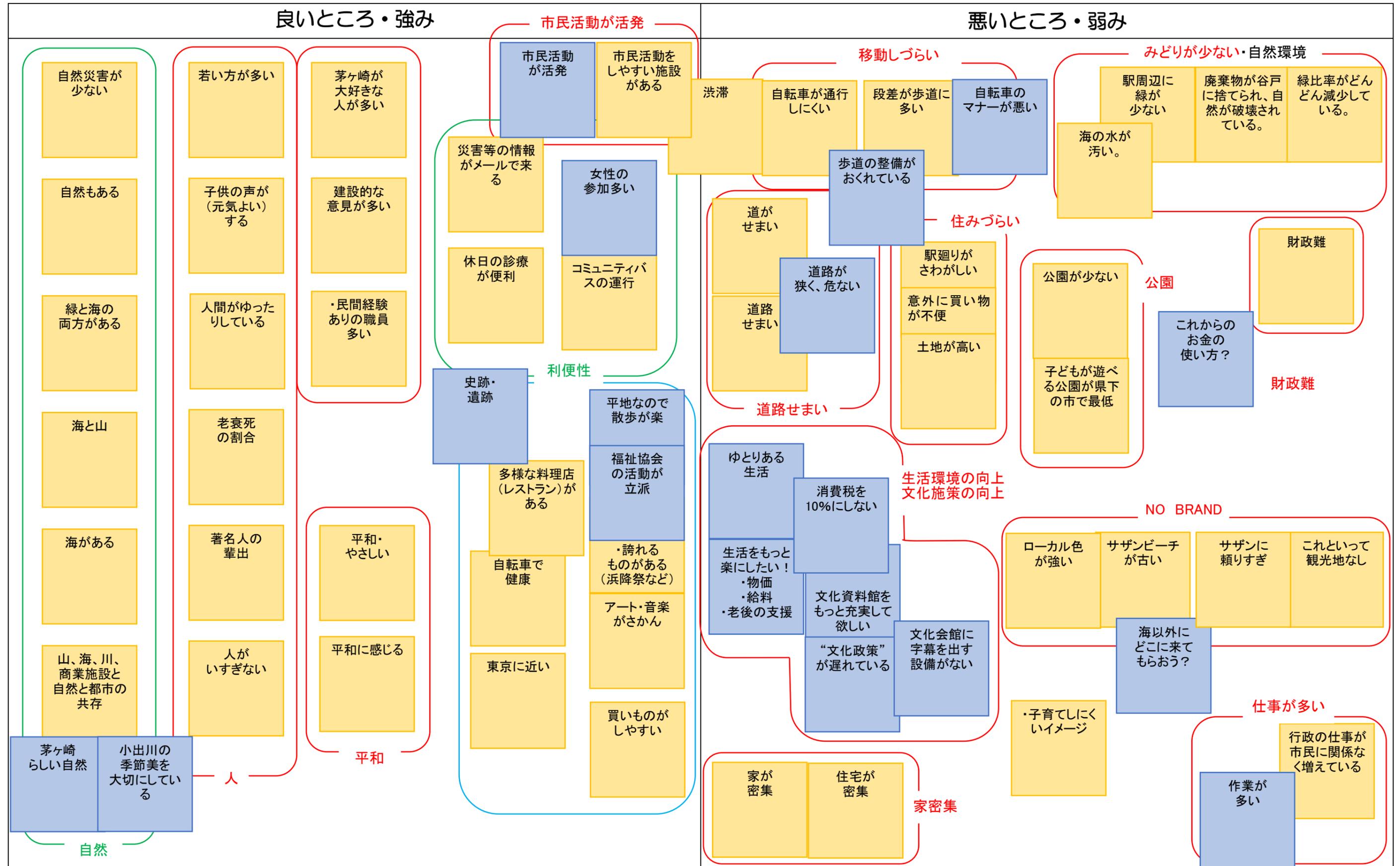


2.3. 各回検討

■ 第1回ちがさき未来会議

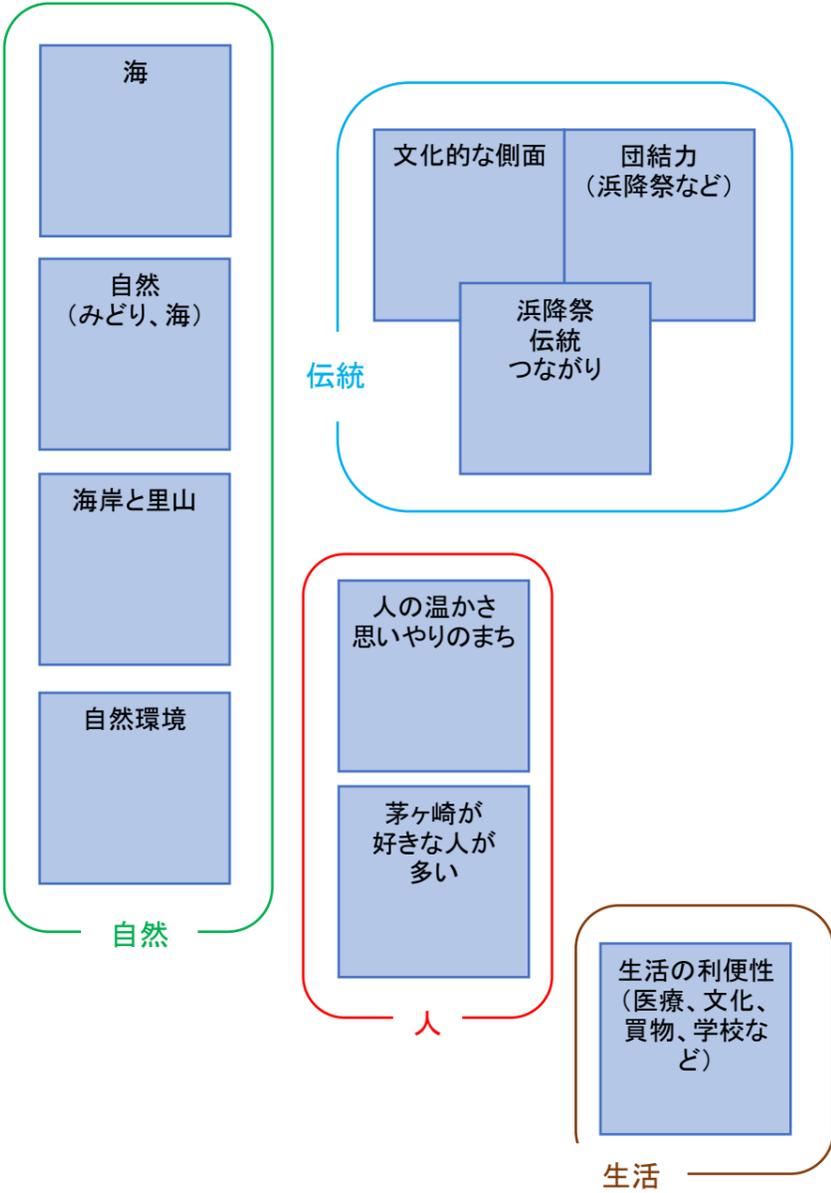
ワークショップ① 茅ヶ崎市の良いところ・強み／悪いところ・弱みは？

Aグループ

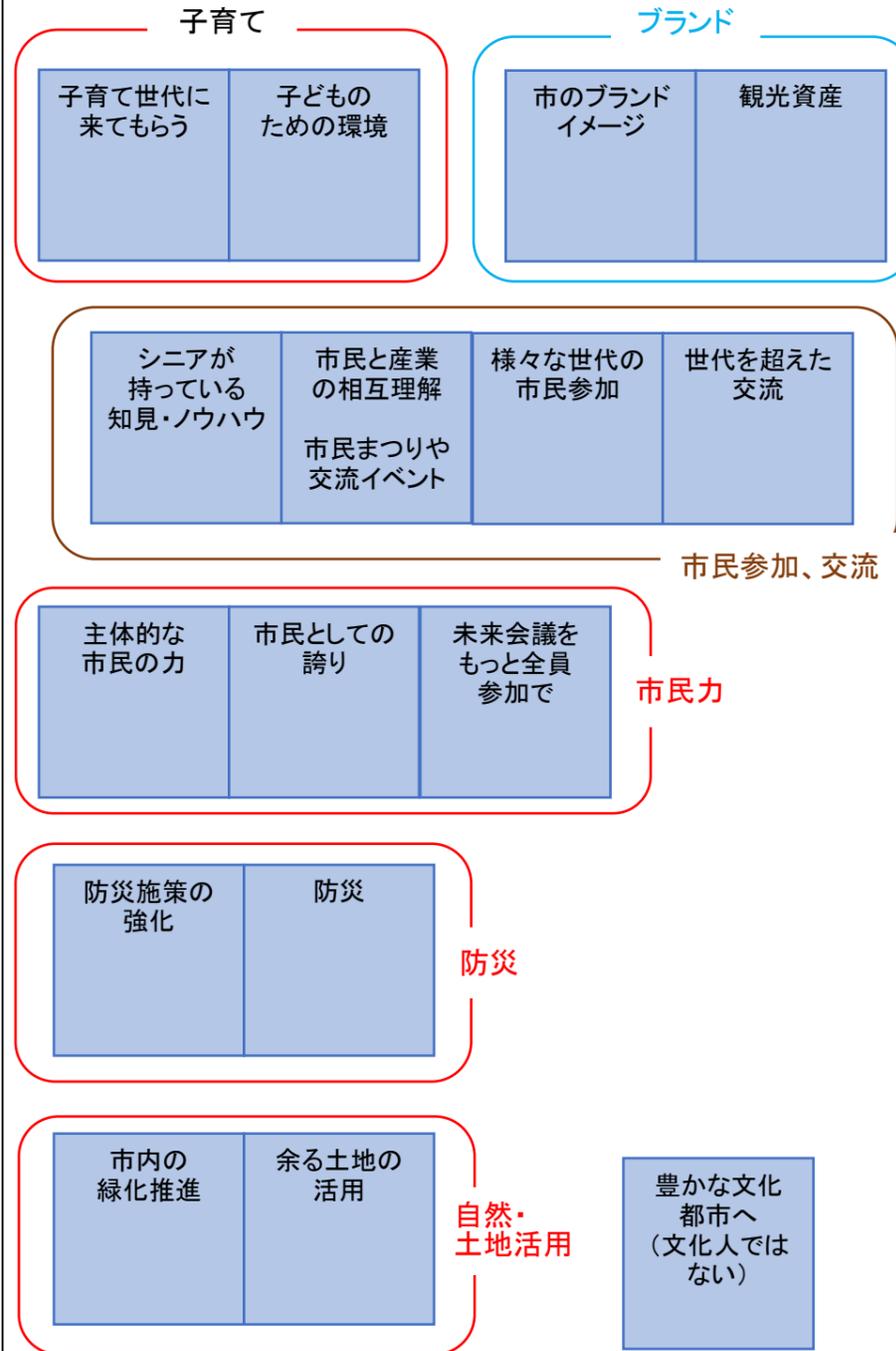


“次の茅ヶ崎” に・・・

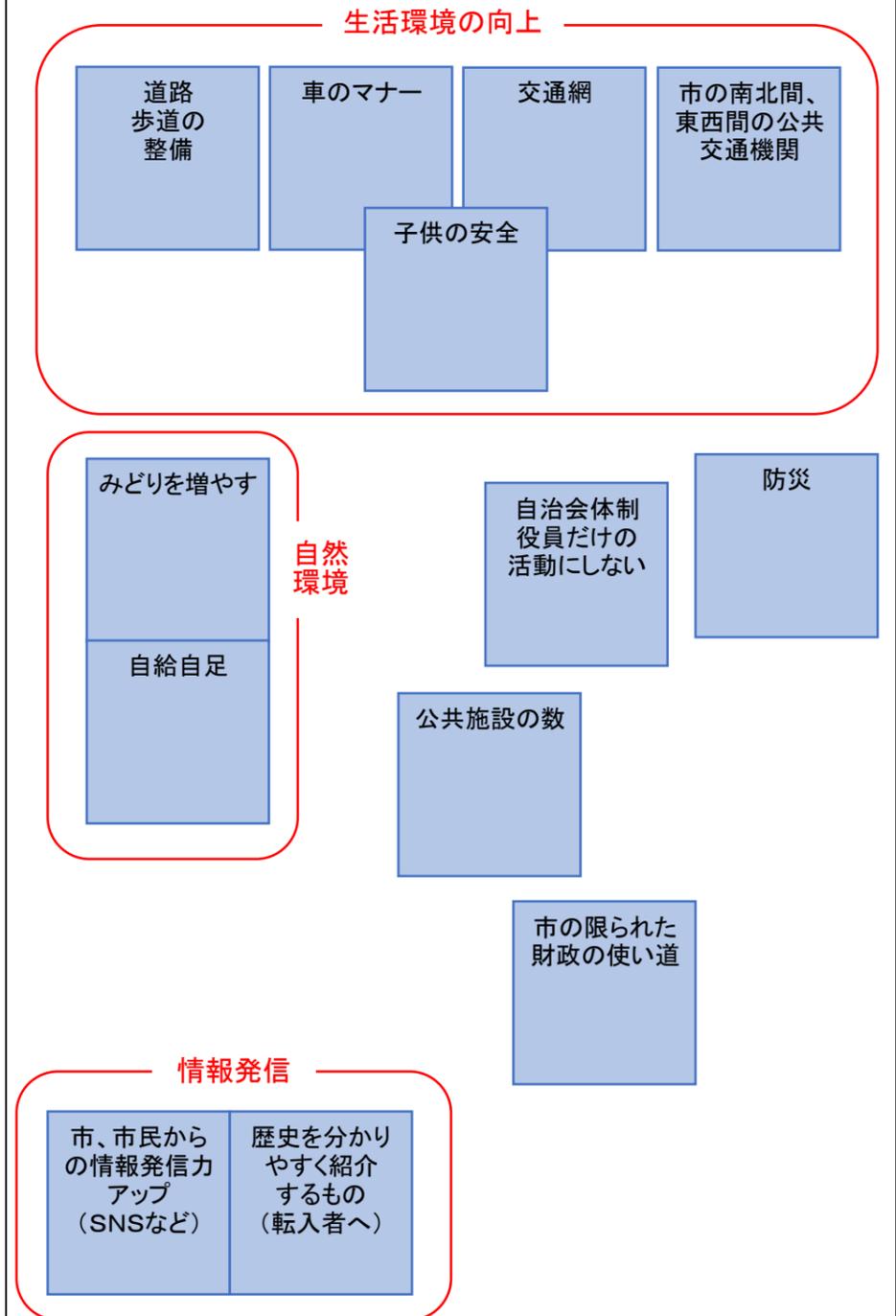
残すべき



伸ばしたい



改善したい



茅ヶ崎市の財産・ポテンシャルとは、

自然につつまれた人のつながり

です。

ワークショップ① 「茅ヶ崎市の良いところ・強み／悪いところ・弱みは？」発表記録

「良いところ、強み」は、自然環境がよい、住んでいる人がよい、あまり人がいすぎない、平和である、色々な利便性がよいなどです。利便性という点では、コミバスが通っている、休日の診療もやっているなどです。その他には市民活動が活発であることです。施設もある、されている方も多い。更に、そこには女性も多く参加しています。文化的なもの、浜降祭などの市民が誇れるものをきちんと持っています。自転車を使った生活で皆健康であり、文化的なものも誇れるものがあるということが「良いところ、強み」の主な部分です。逆に「悪いところ、弱み」としては移動しづらいことです。自転車が沢山走っている、歩道に段差が多いなどや道路が狭いなど。生活環境を向上させたいなどもあります。「良いところ」で文化が良いという話もでしたが、施設の整理の問題など、見直しの点があるのではないのでしょうか。住宅が密集している、緑や公園が少ないなどもあります。「NO BRAND」と一言で言っていますが、サザンに頼りすぎであるなど、海以外にどこを案内すればよいのかすぐ思い浮かびません。行政の中の話では、作業的なものが多すぎて市民の皆さんに向けた仕事が完全にはできていない状況なのではないのでしょうか。こういったところが A グループの「良いところ」「悪いところ」です。

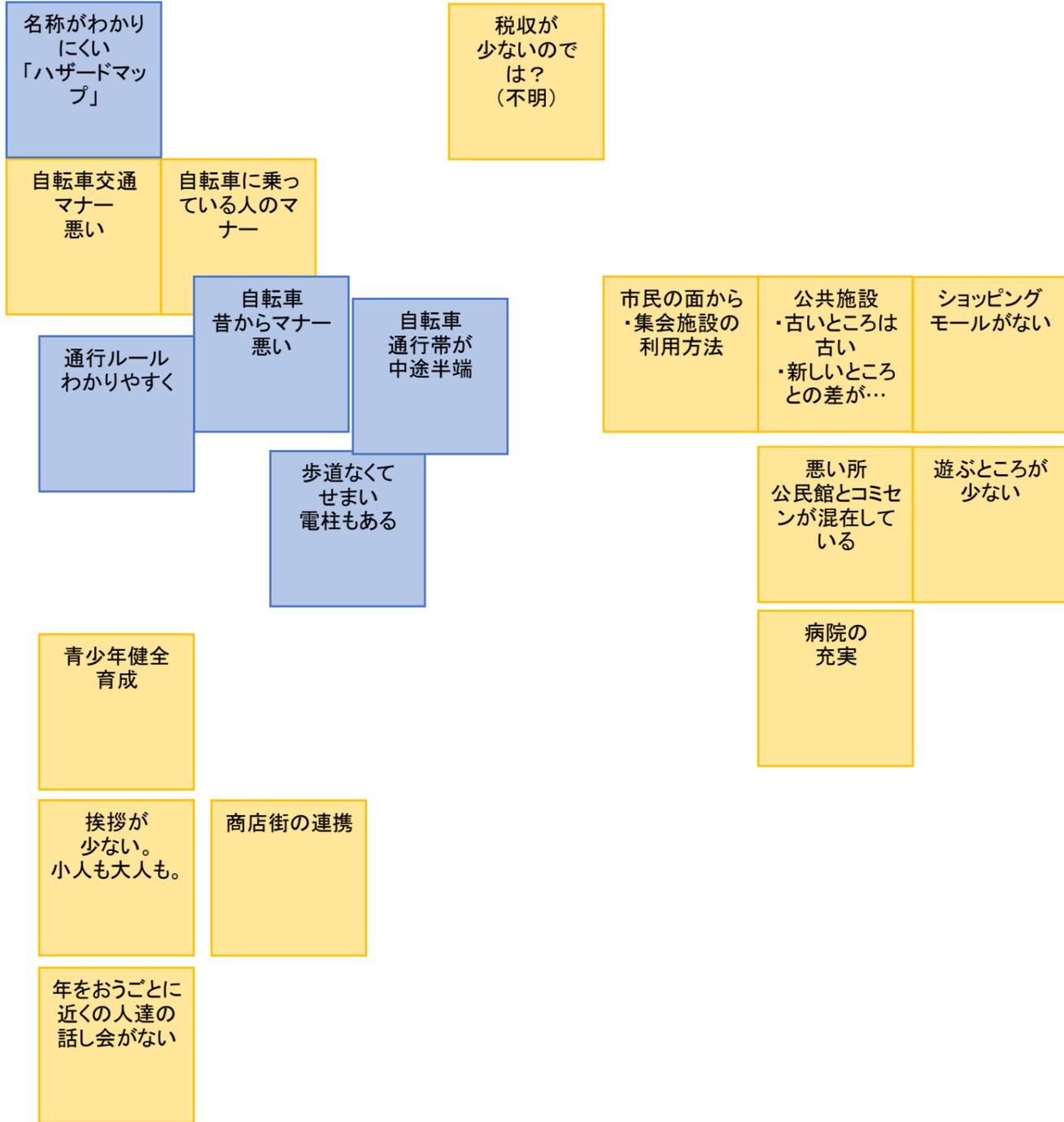
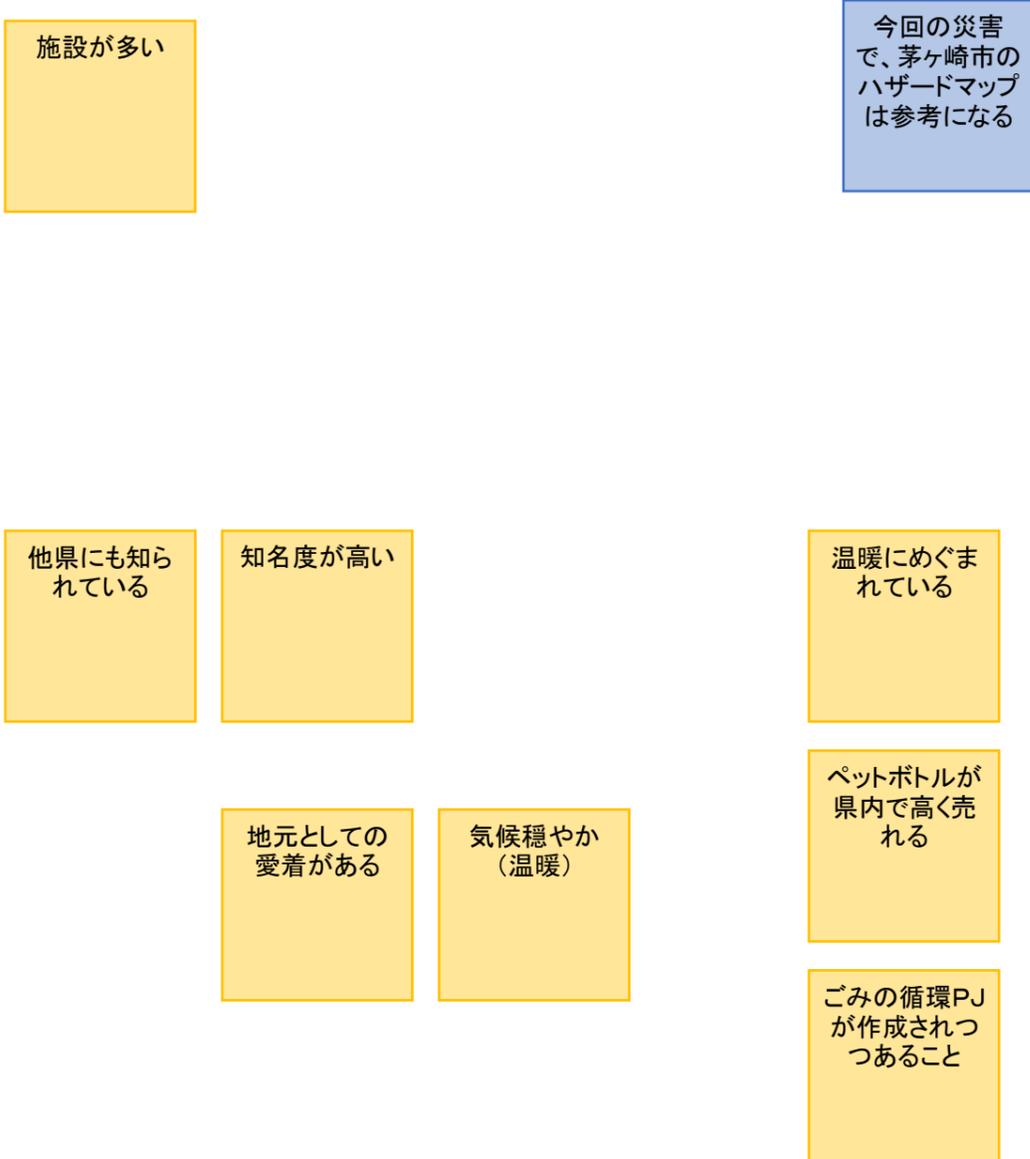
ワークショップ② 「“次の茅ヶ崎”で、「30年後も大切に残したいこと」「伸ばしていきたいこと」、「改善したいこと」」発表記録

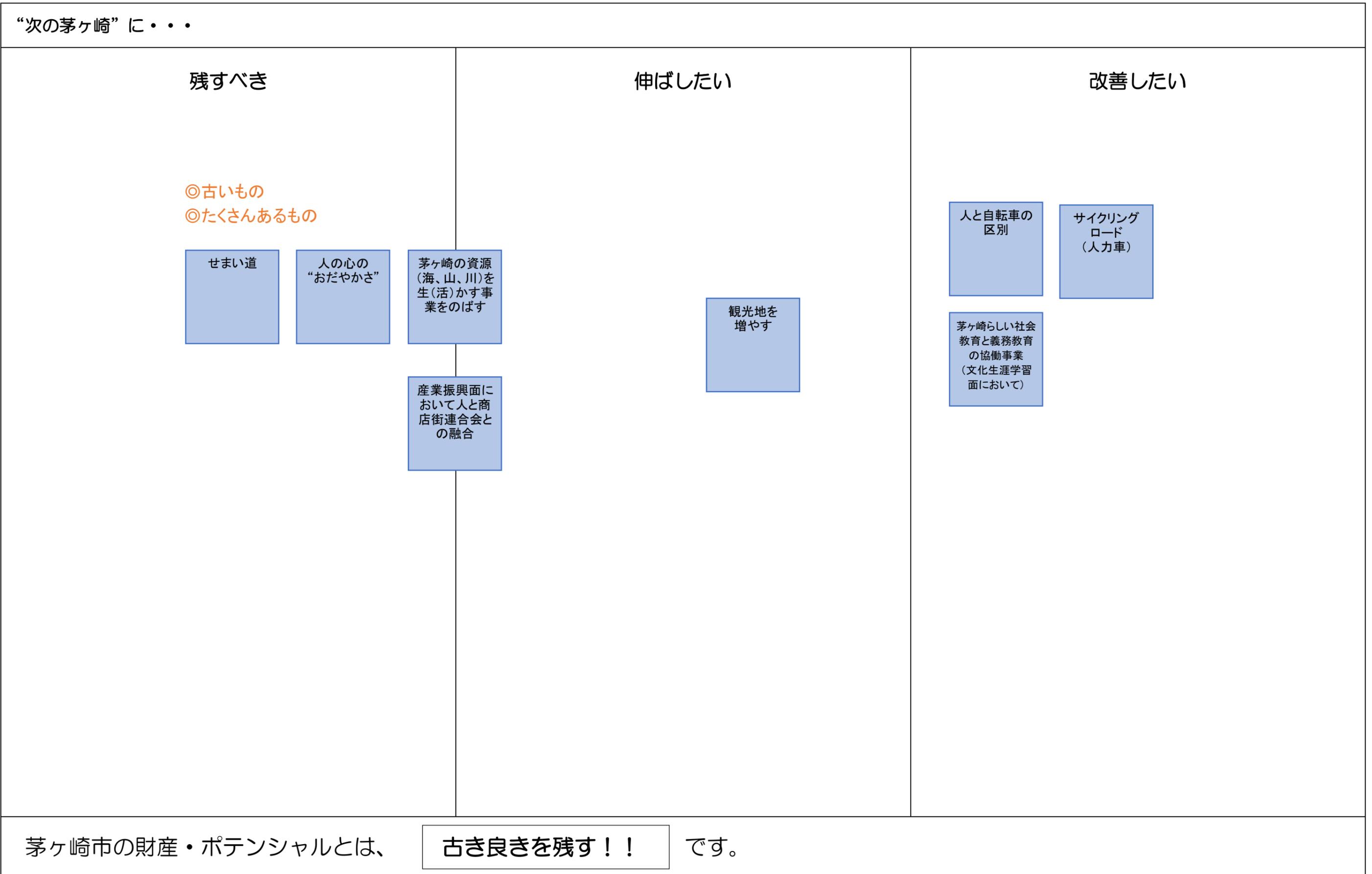
茅ヶ崎市の財産、ポテンシャルは自然に包まれた人のつながりであるとまとめました。自然が豊かで海や山があるということを活かしながら更に良くしていくという意味では、浜降祭などの伝統をもとにした人のつながりが豊かなのではと思います。市民が参加する市民活動が豊かな茅ヶ崎のよさをもっと引き出していくためには、地域の世代を超えた交流、市民の持っている力、今回のような未来会議のようなものをもっと全員参加型で出来るようになるとういのはという話もでした。若い方が市の広報誌などを見る機会は少ないと思います。もっと参加してもらうためにはどうしたらよいかなどを話し合いました。発展という言葉がありますが、量的な発展はこれから難しいのではと思います。これから人口減にもなり、経済的には右肩上がりともいえないので、質的な発展を考えてもっと市民力のようなものを高めていけるまちになると良いと思います。

以上です。

良いところ・強み

悪いところ・弱み





ワークショップ① 「茅ヶ崎市の良いところ・強み／悪いところ・弱みは？」発表記録

「良いところ、強み」について大きく2つに分けて項目があります。1つ目は印象、イメージです。知名度が高い、地元愛が強い方が多い、市民の方々の心に温かみがあるという意見をいただきました。大学内に県外から来た方でも茅ヶ崎を知っている方が多いというお話です。私自身、静岡に住んでいましたが、当時から神奈川県湘南に茅ヶ崎という都市があるということは知っていました。知名度は非常に高いのではという意見が多くでていました。2つ目は都市としての資源が豊富ということです。さきほども海、山、川があるとの話がでましたが、それに加えて人口規模も20万人以上ということで、海、山、川、都市の4つが揃っている都市は日本全国探しても珍しいのではないのでしょうか。写真を撮るのが趣味の方もいらっしゃったのですが、近場で、素材には困らないというご意見もいただきました。「悪いところ」としては、「良いところ」ででた、人の温かさ、温もりが人口が増加していくに伴って薄れてきているのではないかということです。今、人口が24万人ですが、14万人規模だったころの生活状況が近所付き合いなどもあり、人々の温かみがあった気がするとの意見もありました。自転車環境を代表とする交通環境が他都市に比べて良くないとの話もでました。それに対して改善しようという動きもありますが、自転車に乗る方の人数が多くなかなか追いつかないのではとの意見も出ました。

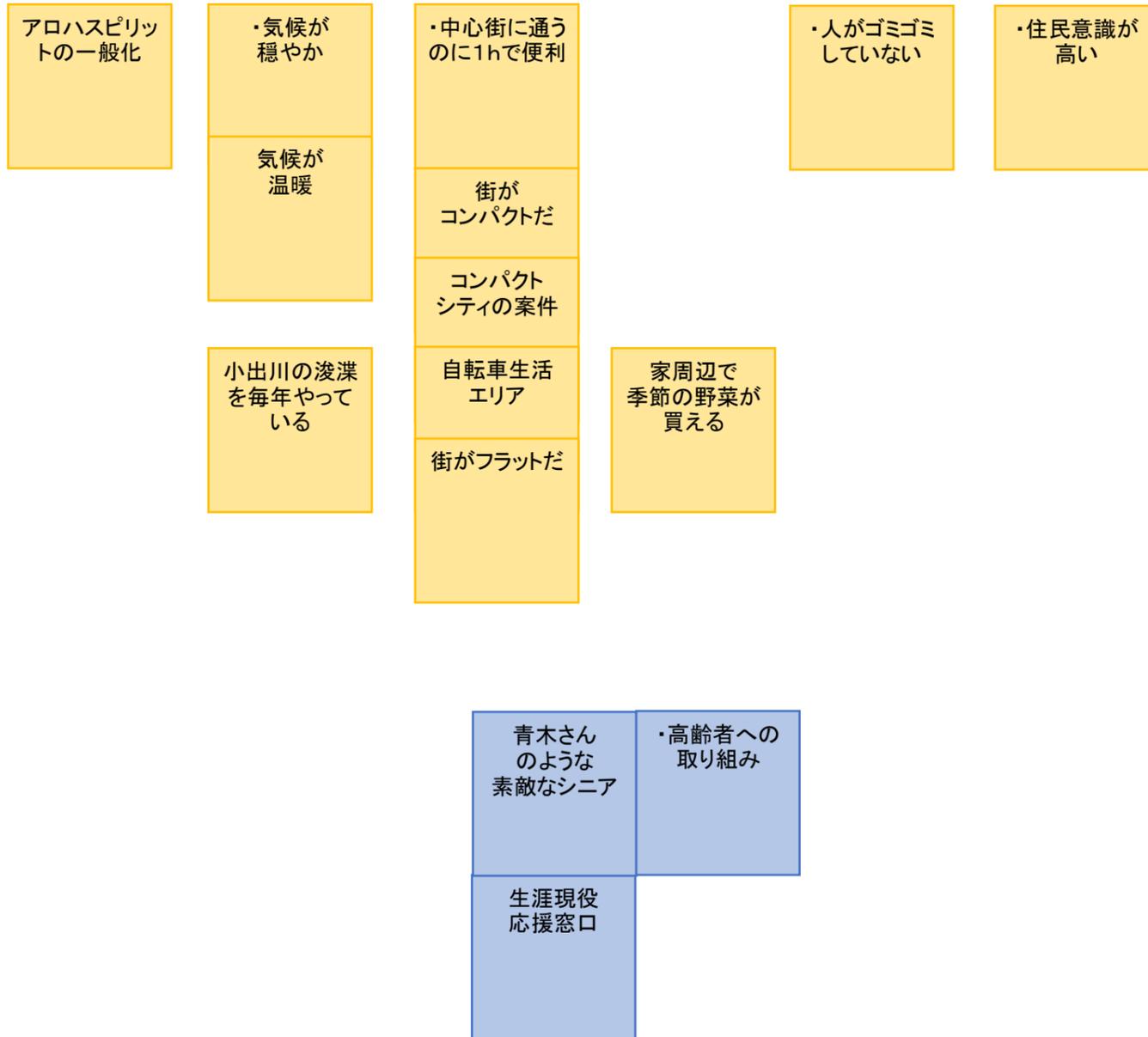
以上です。

ワークショップ② 「“次の茅ヶ崎”で、「30年後も大切に残したいこと」「伸ばしていきたいこと」、「改善したいこと」」発表記録

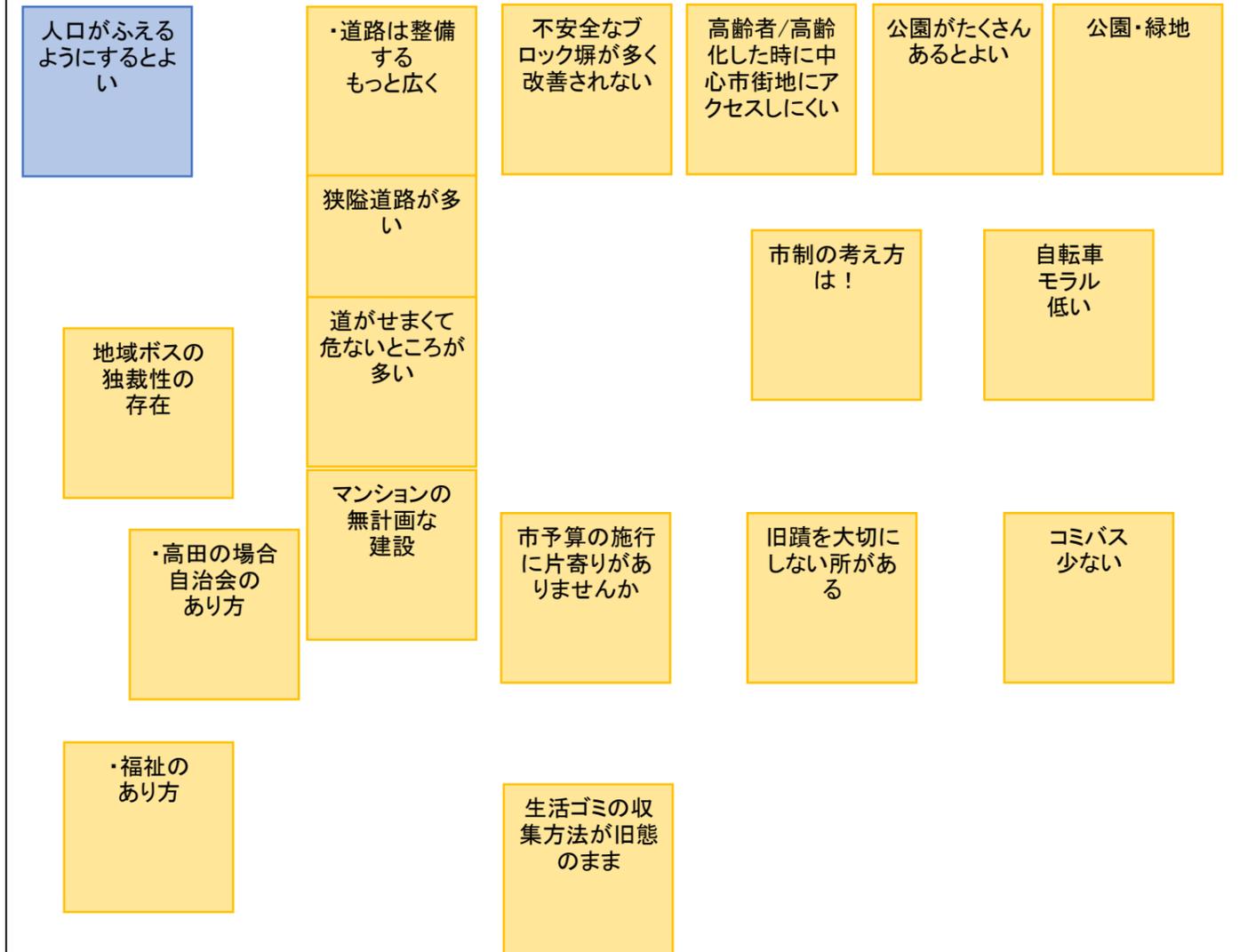
B班は、茅ヶ崎市の財産、ポテンシャルとは「古き良きものを残す」と決めました。「残すべきもの」として、狭い道は沢山のデメリットがありましたが、メリットとして人との距離感が近くなり、挨拶や人の心の温かさなどに気付くということがあると思います。あえて残すことで、人との距離感や温かさを感じることができるのではと考えました。「伸ばしたいところ」として、サザンビーチがあげられます。茅ヶ崎市は海が有名なので、それを伸ばす事業を続け、観光地を増やしていければよいのではと思いました。「改善したい点」は、人と自転車とのトラブルが多いとのことですので、歩道と自転車道を区別するなど、サイクリングロードや人力車で人と自転車のトラブルを解決したいと考えました。

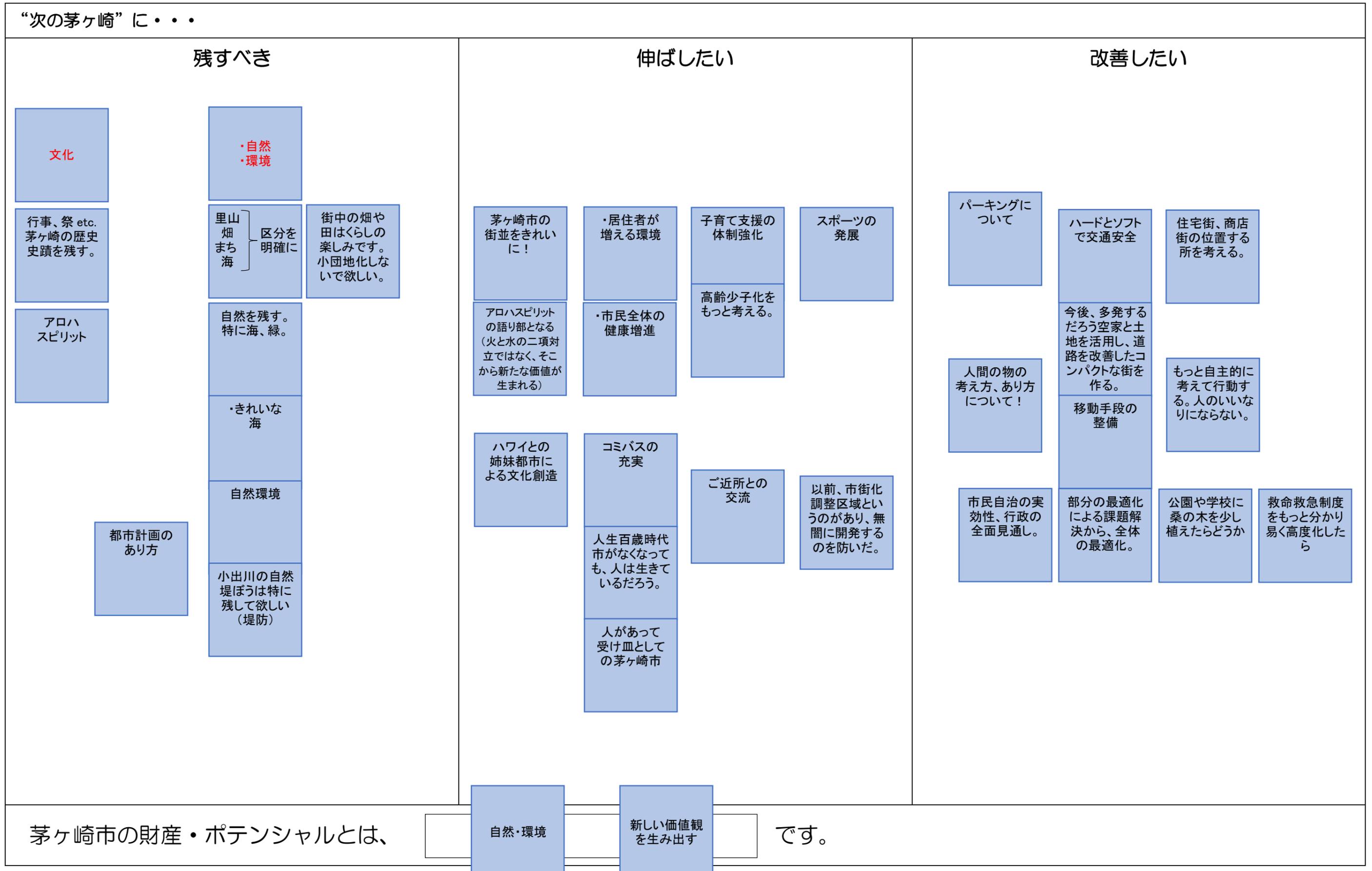
以上です。

良いところ・強み



悪いところ・弱み





ワークショップ① 「茅ヶ崎市の良いところ・強み／悪いところ・弱みは？」発表記録

高齢化や、今後の行政の効率性を心配されている方が多いです。「良いところ」は、茅ヶ崎市に移住してきたときに、受け入れられている感覚が強かった、他市町村から茅ヶ崎市に移住しやすいと意見がありました。他には、気候が穏やかであるなどです。先日も座間や海老名で集中豪雨などがありました。茅ヶ崎市内では被害がなかったこともあり、穏やかな気候ではないかと思われ。中心街に通うのに便利であり、街がコンパクト、自転車での生活エリアが広く、比較的過ごしやすい、活動しやすいまちなどの意見が出ております。高齢者への取り組みということで、ご高齢になられた方に対しての行政側からの働きかけ、文化生涯学習課が窓口となって取り組んでいる内容が比較的多いという意見も出ております。「悪いところ」では、道路が狭いという実情があり、自転車がが多いので危険性が心配されています。自転車への対応、乗る人のモラルや自転車以外で移動する手段というものの整備も必要となってくるのではという意見をいただきました。

以上でございます。

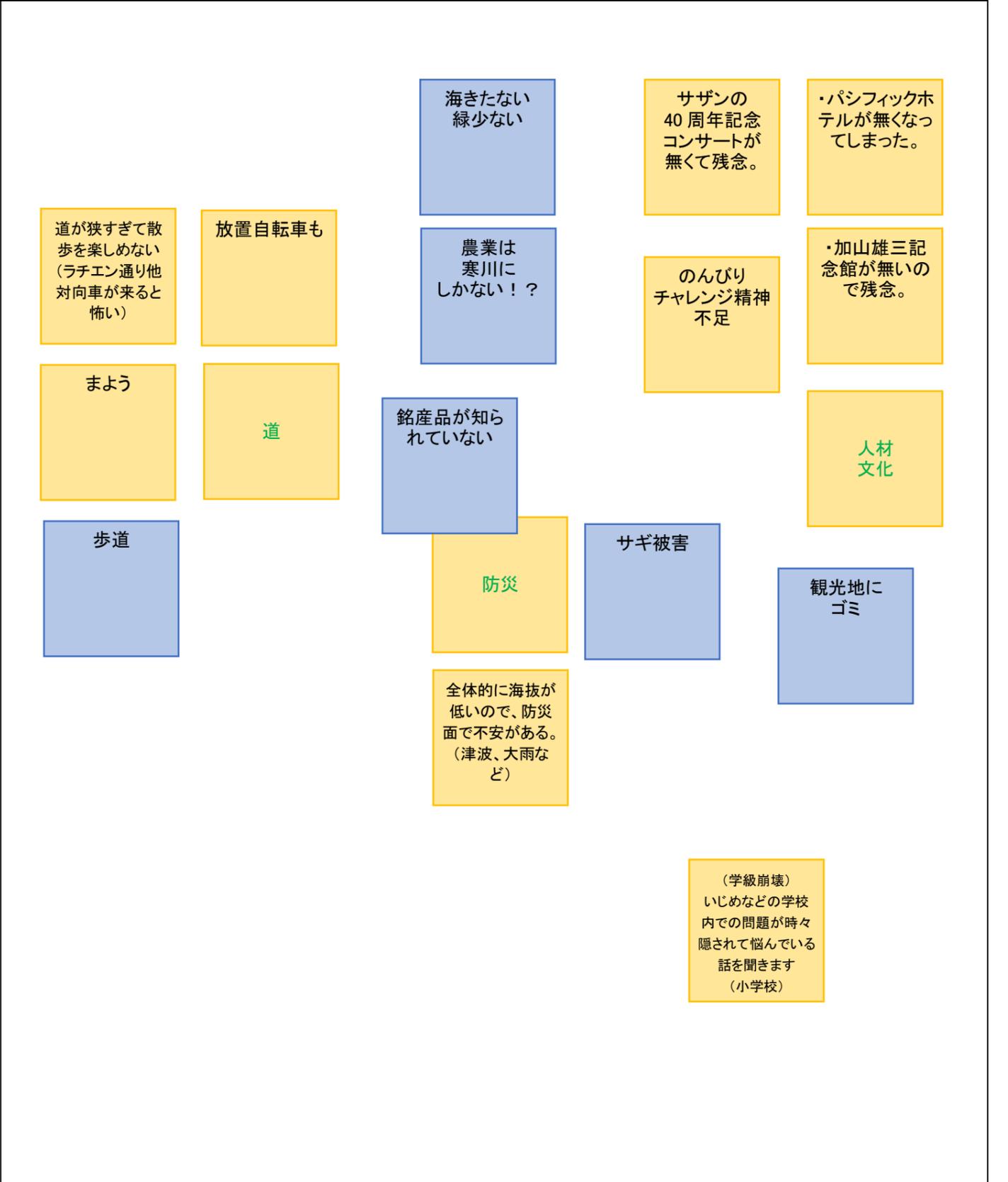
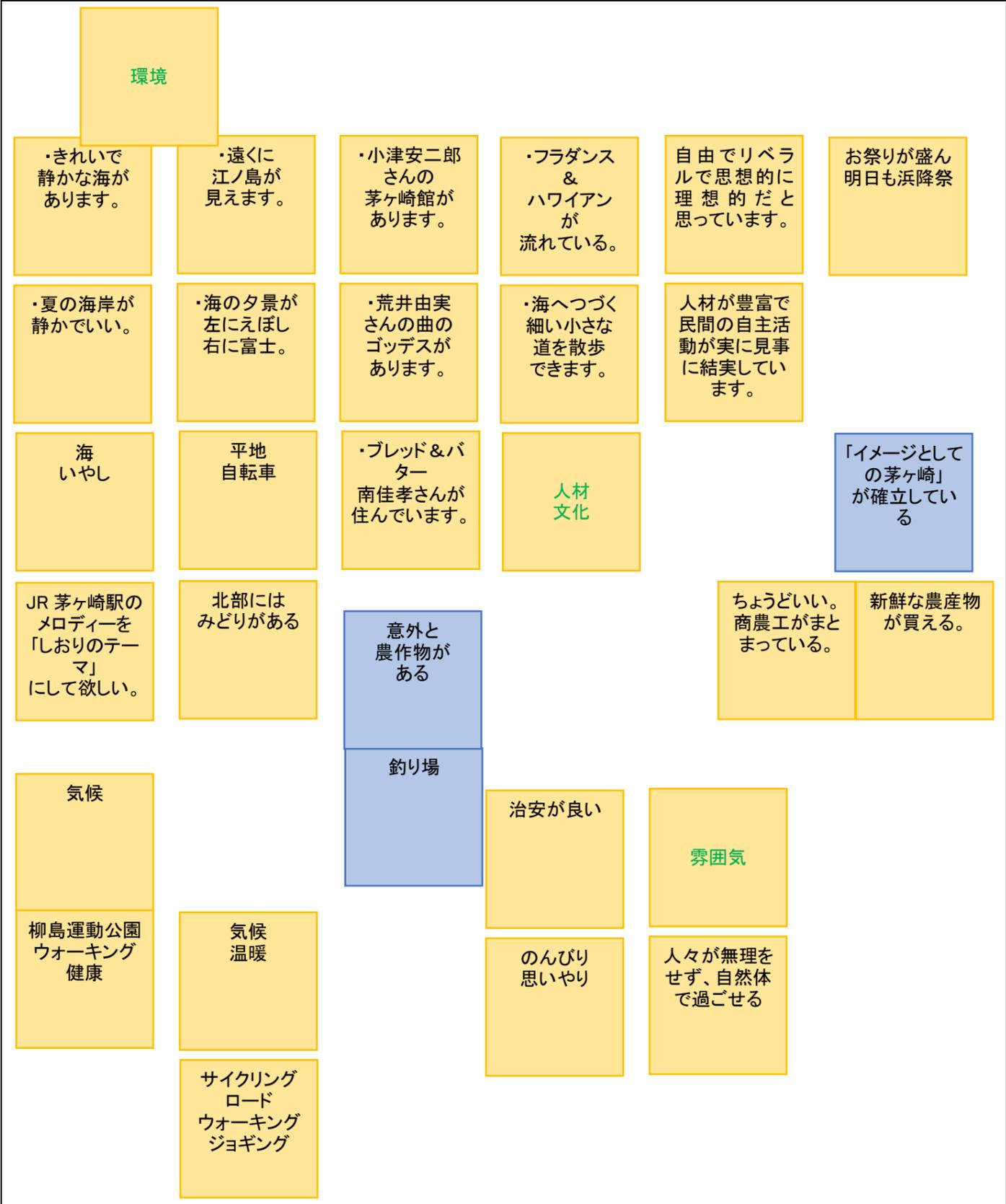
ワークショップ② 「“次の茅ヶ崎”で、「30年後も大切に残したいこと」「伸ばしていきたいこと」、「改善したいこと」」発表記録

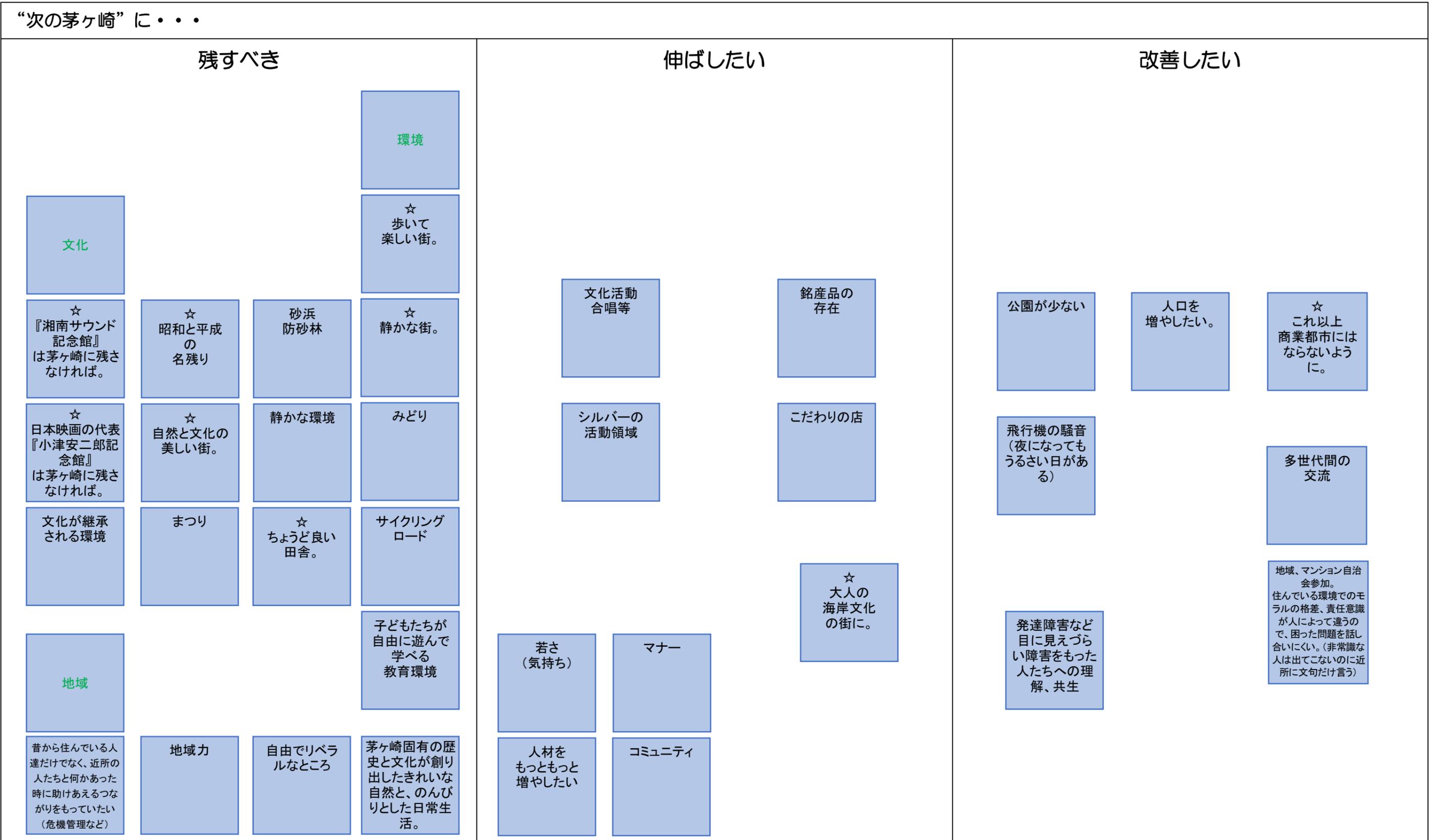
「残すべき点」「伸ばしたい点」「改善したい点」と沢山のご意見を頂戴しております。「残すべきところ」文化・自然・環境でくられるところも含め、「伸ばしたい点」は沢山ありますが、「残すべき点」に注目しました。茅ヶ崎の環境はとてもよい環境です。海や丘陵地があり、しっかりとコンパクトにまとめられたまちということも踏まえると、今後その部分を残していくべきという話になりました。最終的には財産、ポテンシャルとして、自然環境を残すとともに、新しい価値観を生み出せるまち、というのが茅ヶ崎市ではないのかということです。他市町村からの受け入れが充実しているということもあるので、不動的な茅ヶ崎市をいうネームバリューを維持しながら、古い文化を新しい人々と融合させ、新しい価値観を生み出していける、そんな茅ヶ崎市というものを今後も引き続き取り組んでいくことが出来るまちであるという意見をいただきました。姉妹都市のハワイでは、ハワイ島などは島が広がっているという話です。本来交わらない火と水が融合してどんどん島が出来ているなどの具体例などもいただき、そんな茅ヶ崎市にしていったらよいのではないかとということです。古いものを維持しつつ、新しいものを受け入れて新しい価値観を生み出していける、そんな茅ヶ崎になって欲しいということもあり、C 班としては、「自然環境と新しい価値観を生み出せるまち」ということで意見がまとまりました。

以上です。

良いところ・強み

悪いところ・弱み





茅ヶ崎市の財産・ポテンシャルとは、

文化が根付く住みやすい環境

です。

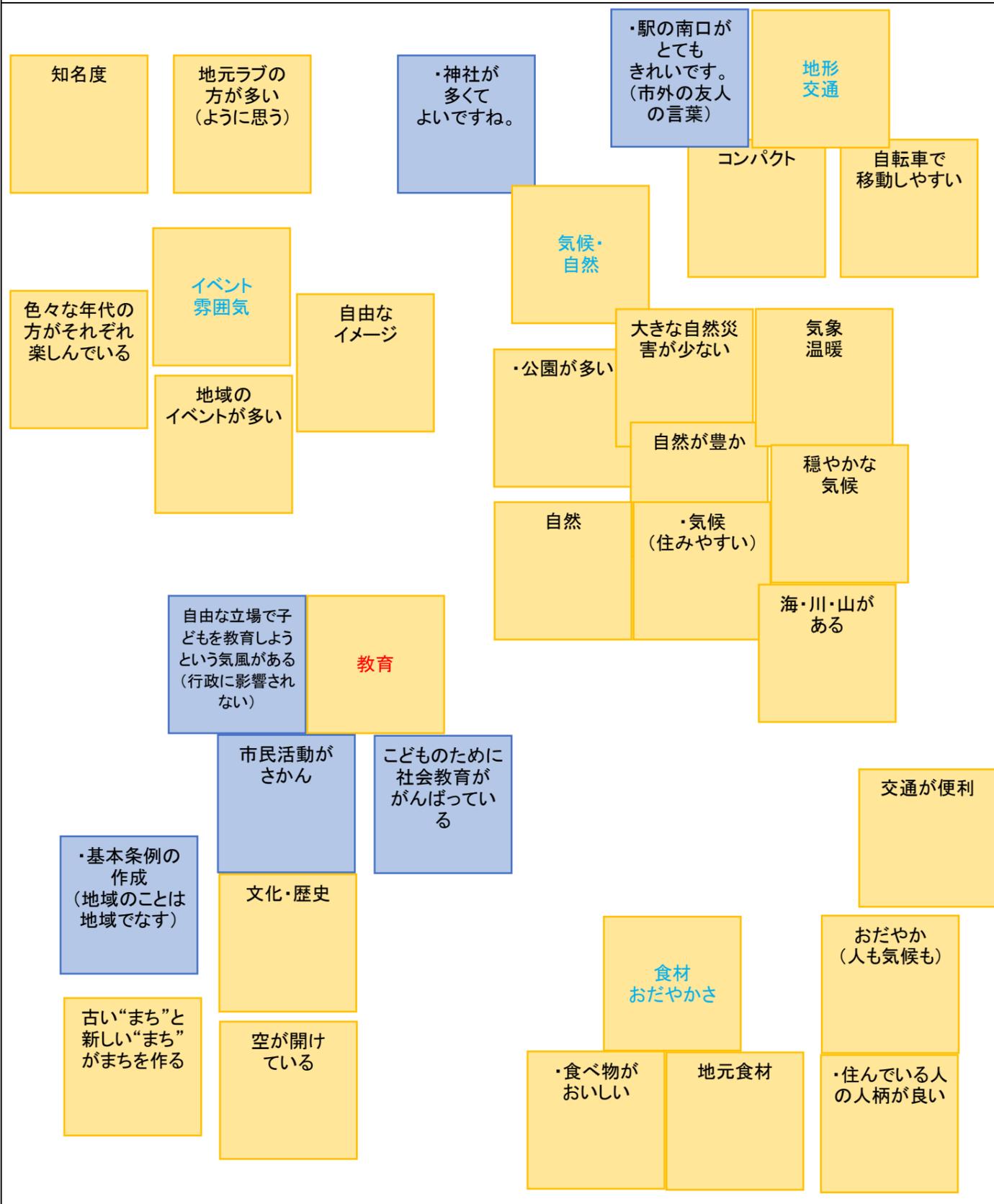
ワークショップ① 「茅ヶ崎市の良いところ・強み／悪いところ・弱みは？」発表記録

グループに分けて考えたのですが、「良いところ」は、環境・気候と人材・文化でまとめました。環境については海が南にあって、北に行くと緑もあります。平坦地が多いので自転車で活動できることが「良いところ」にあげられました。温暖な気候なので、ウォーキングやジョギング、134号線などでサイクリングを楽しまれている方もいらっしゃいます。人材・文化では、小津安二郎さんが茅ヶ崎で執筆している、荒井由実さんの曲に出てきたりなどがあげられます。自主的に活動している方が多く、積極的でよいという意見がでていました。雰囲気としては治安がよい、のんびりしている、人がよいなどがあげられました。「悪いところ」は、道が狭い、迷うなどの意見がでました。人がよいというのは逆に言うと、のんびりしていてチャレンジ精神が不足している人が多いとも言えるのではないのでしょうか。子どもたちの部活などを見ていると、一緒に頑張ろうといった雰囲気です。逆に勝とうという意識が少ないのではとの意見もありました。治安がよいという意見とは逆に、詐欺の被害が多いとの意見もあります。海が近いので防災面での津波の心配や、小学校のいじめ問題などの子どもの安心安全に対する懸念もあがっています。茅ヶ崎には沢山よいものがあるが、まだ知られていないものが多いのではという意見もあがりました。以上です。

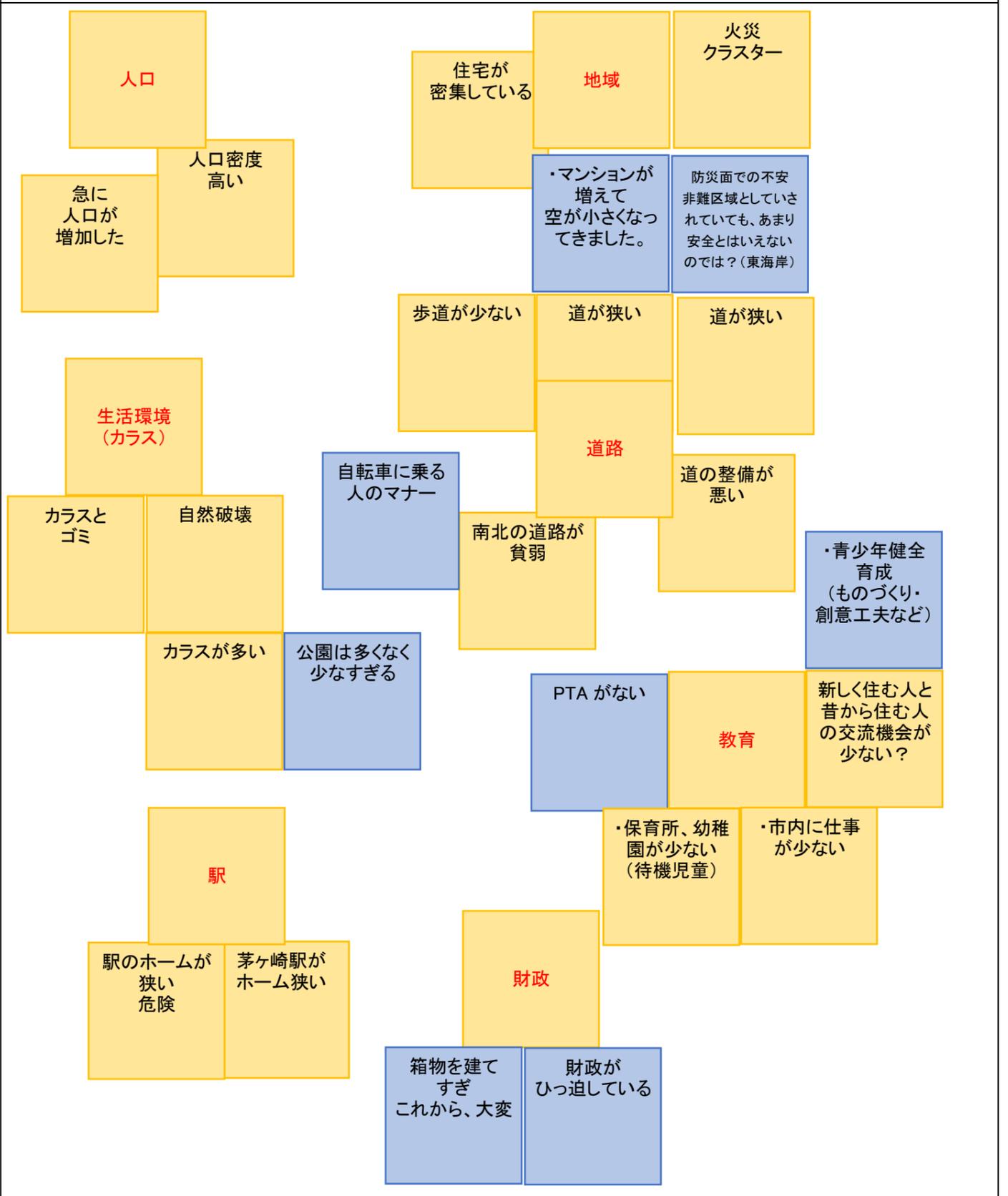
ワークショップ② 「“次の茅ヶ崎”で、「30年後も大切に残したいこと」「伸ばしていきたいこと」、「改善したいこと」」発表記録

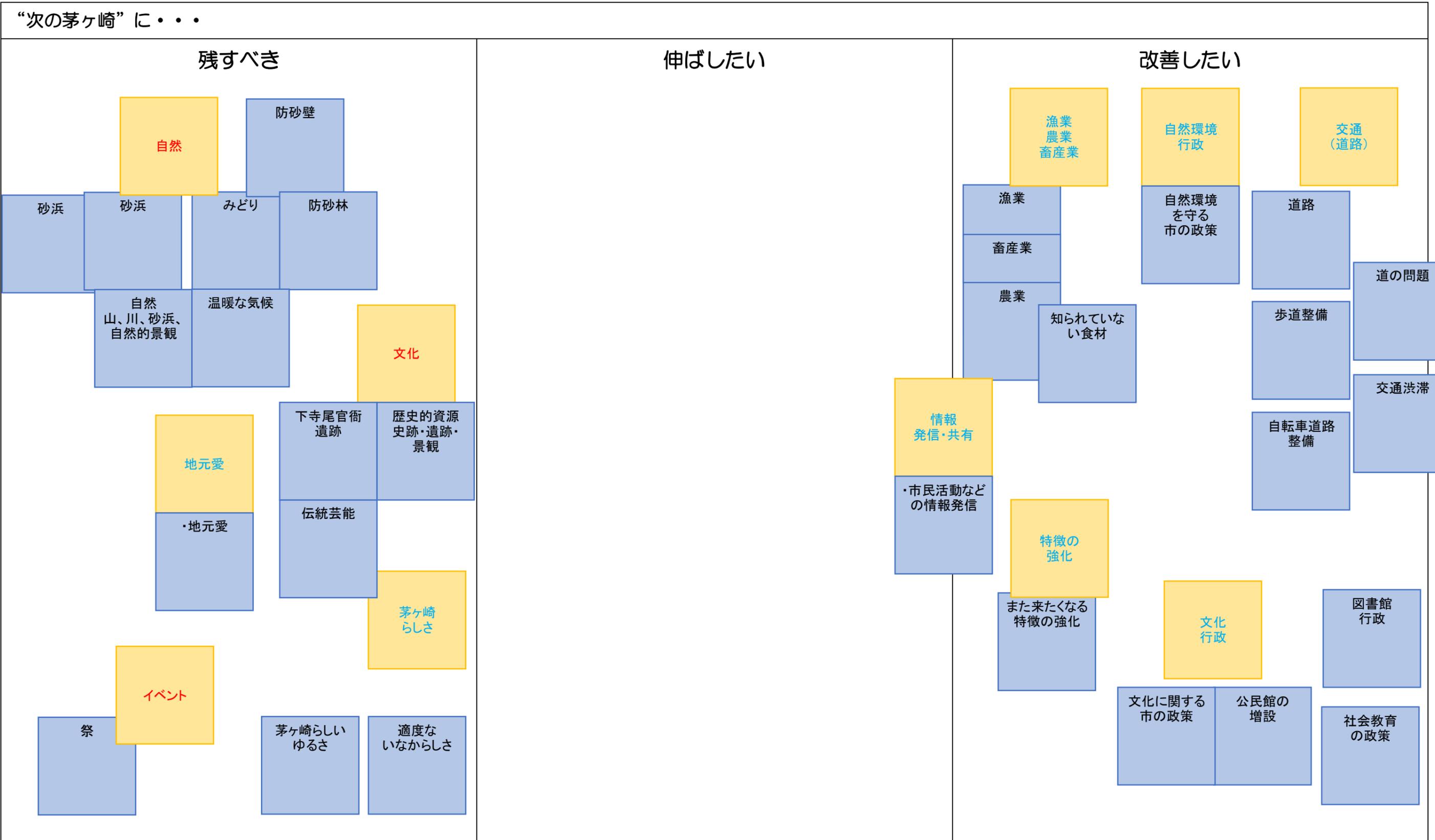
茅ヶ崎は海の近くで環境的には恵まれており、それを背景として色々な文化が根付いています。文化人などもお住まいになり、家なども残っていますが、どうしてそのようになったかという、茅ヶ崎のバックグラウンドとして環境に基づいて文化的な香りが根付いているのだと思います。それは「残すべきもの」なのではと思います。その中で伸ばしたいところですが、茅ヶ崎は他のまちに比べると、80代、90代の方もまちを歩かれたり、自転車に乗られたりしています。肉体的な若さだけでなく、気持ち的な若さが茅ヶ崎の中にはある気がします。そういったものをもっと伸ばしていくことも必要かと考えます。更に、文化的な活動も積極的にされていますが、活動グループが高齢者、若い人で別れてしまっている気がするので、今回のような場で色々な年代の方が一緒にワークショップなどを出来るのは非常に刺激的ですし色々な方法もあるのではと思います。そういった意味でもっと世代を超えたコミュニケーションを伸ばしていけたらと思います。そして残すべき文化的なものを発展させていくということです。文化が根付く住みやすい環境だということが、茅ヶ崎市の財産、ポテンシャルではないかと思えます。そして、そういったところをより伸ばしていくことが「改善したいもの」につながっていくのではないのでしょうか。公園や、道の問題、世代間のコミュニケーションを図るなどを改善することでさらに強めていければと思います。以上です。

良いところ・強み



悪いところ・弱み





茅ヶ崎市の財産・ポテンシャルとは、

私たち、市民

です。

ワークショップ① 「茅ヶ崎市の良いところ・強み／悪いところ・弱みは？」発表記録

最初のグループで一番多かったのは、気候・自然に関することです。大きな自然災害は少なく、自然が豊かで海、山、川があることが茅ヶ崎市を象徴するものではないかという意見をいただきました。公園が多いという意見もいただきましたが、その反面、少ないという意見もありました。その他には、自然破壊の問題に対する意見もありました。地形、交通についてですが、茅ヶ崎市はとてもコンパクトで東西6キロ、南北6キロほどのスペースで、自転車での移動がとてもしやすいです。その反面、南側に住宅が集まっていて道が狭い、歩道が少ないなどの意見がありました。イベント等が多い、人柄がとてよよいという意見もあります。地域のイベントがとて多く、仕事をしっかりして休日もしっかりと遊ぶというのが茅ヶ崎市の市民の方なのではと。その反面、イベントが多すぎてもう少し静かに暮らしたいという方もいらっしゃいます。教育については、茅ヶ崎は自由な立場で子どもを教育しよう、行政から影響されないという意見や、市民活動の参加で社会教育としてとて頑張っているとの意見もありました。その反面、保育園が少なく、夫婦で共働きですと保育園に入れず仕事を辞めざるを得ないという意見もいただきました。

以上です。

ワークショップ② 「“次の茅ヶ崎”で、「30年後も大切に残したいこと」「伸ばしていきたいこと」、「改善したいこと」」発表記録

「伸ばしたい点」はあまりないのですが、「改善したい点」がそこにつながってくるのかと思います。「残すべき点」では自然と文化、イベントなどが茅ヶ崎や湘南全体の特徴かと思っています。「改善したい点」としては、地元産業の漁業、農業、畜産業などの情報が伝えるべき人に伝わっていないという意見がありました。他にも説明会やセミナーなどの情報発信などを強化していくべきなどではないでしょうか。その他にはインフラ的な部分、道が狭いなどの問題もあります。総括として、壊すも残すも人がすることなので、財産とポテンシャルは私たち市民であるとまとめました。

以上です。

<1ラウンド目>

商業振興事業	放課後補習教室事業	市立病院の運営事業	スポーツ推進事業	歩行空間のバリアフリー化事業
	地域コミュニティ促進事業 公民館・コミセン事業に統合	・民間委託 ・質の低下はさせない	・市民にまかせる	道路整備に統合

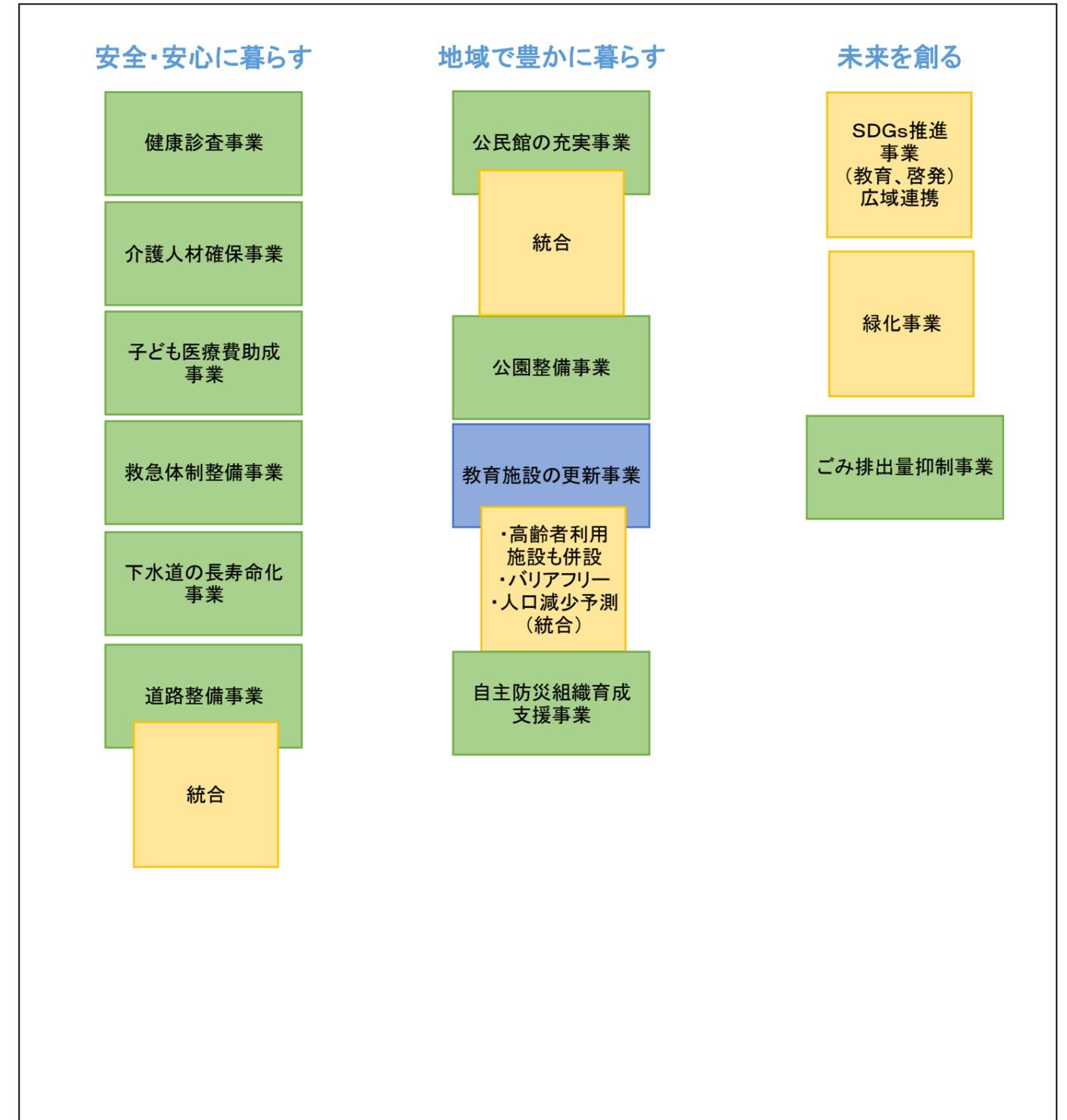
<2ラウンド目>

高齢者がいきいき暮らせる拠点整備事業			
空き家の利活用事業			
職住近接にかかる支援事業			
商業振興事業			

※予算枠シート等に残されていた事業

観光交流活性化事業	グローバル教育事業
-----------	-----------

<バーチャル市長の振り返り>



<その他議論>

茅ヶ崎市の未来を考えるポイント

安全・安心に暮らす

- ・市が担うべきものーインフラ、生命健康 } にかかわるもの

地域で豊かに暮らす

- ・地域交流、かかわりの創出により人を豊かにする
- ・多様な主体のかかわり、多様な力を活かす
- ・未来を創る人が育つ

未来を創る

- ・持続可能な地域
- ・住みたい場所
- ・人間らしく暮らす

「茅ヶ崎市の未来を考えるポイント」発表記録

我々の班は3つにまとめたのですが、まず、安全・安心に暮らすということで、5年目の廃止した事業の時に、市が自前で運営する必要があるのかなのかという所が一つ議論のポイントになりました。その結果、まず、インフラ、生命・健康にかかわるものはやはり市が絶対にやらないといけないということで、安全・安心に暮らすというポイントになりました。事業仕分けをしていくと結局、市が独自でやらなくてもいいのではないかと、例えば、商業振興事業だったり市立病院の運営とかもむしろ民間に任せて質の低下を防いだ方が良くはないかなど、そういう話になりました。そして、我々が安全・安心に暮らすだけではなく、地域でもっと豊かに暮らしていきたいということで、公民館をより充実させ、そこは統合するという考え方になりました。事業として統合したのは、放課後の補習事業だったり地域のコミュニティを促進する事業だったり、こういったものが一斉に集まることによってむしろ市民の方々全員がそれぞれ持っている多様な力をもっともって活かして、みんなで運営をしていくということができていくと、教育施設や自主防災とかに繋がっていき、結果として未来を創る人が育つようなコミュニティが機能する状態になっていくのではないかと考えました。さらに、それでは終わらず、我々はもっと未来を見据えようということで、未来を創る活動として、緑化事業だったり海を綺麗にする事業をまとめた、SDGsの推進事業という新しい事業をつくり、これをもっと教育に啓発していき、SDGsって何なのだろうということをみんなに分かってもらい、一つひとつの目標を設定してそれを達成していくようなこと、結果として未来の子どもたちのための持続可能な地域だったり、我々も本当に住みたい場所であり、結局人間らしく生きられる、暮らせるそんな地域ができれば面白いということでまとまりました。これだったら私も市長になりたいなと思いました。以上になります。

廃止した事業・選択しなかった事業とその理由

<1ラウンド目>

商業振興事業	地域コミュニティ促進事業			
行政がやらなくても人の動きがあれば活性化する	民間でもできる			

<2ラウンド目>

ごみ排出量抑制事業	健康診査事業	公民館の充実事業	市立病院の運営事業
企業にまかせる	個人負担でやる	教育施設の更新と併せて公民館を代替する	民間でも可能

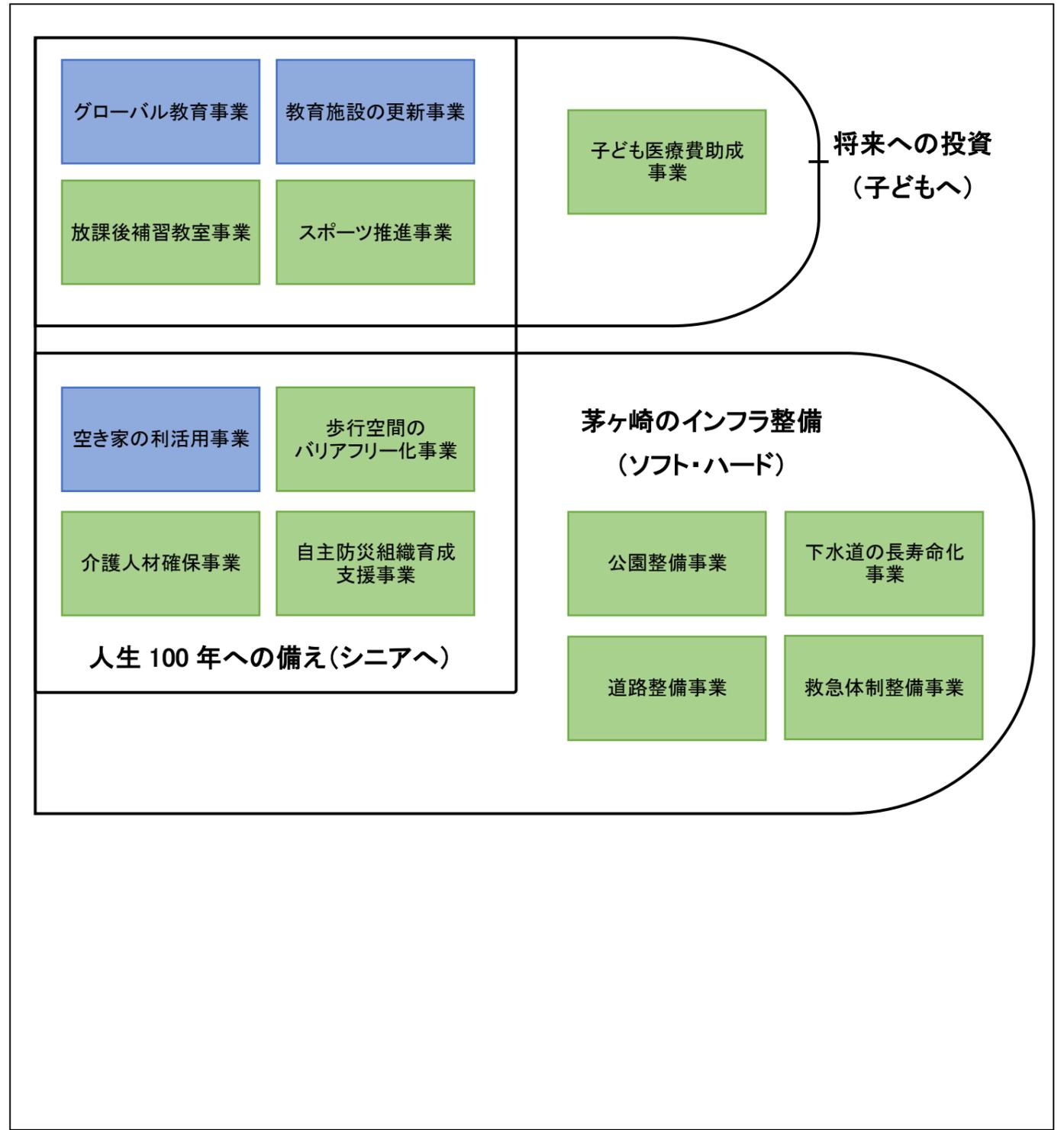
カードが剥がれていたため、グループワーク時の写真から元配置を判断した。

※予算枠シート等に残されていた事業

観光交流活性化事業	高齢者がいきいき暮らせる拠点整備事業	職住近接にかかる支援事業
-----------	--------------------	--------------

茅ヶ崎市の未来のために大切にしたいこと、譲れないこと

<バーチャル市長の振り返り>



<その他議論>

--

茅ヶ崎市の未来を考えるポイント

<p>将来への投資(子どもへ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧混合 ・一緒に学ぶ ・歳入を増やす
<p>人生 100 年への備え(シニアへ)</p>	<p>・その日が楽しくなるような</p>
<p>茅ヶ崎のインフラ整備(ソフト・ハード)</p>	<p>・民間でできないことを市が実施する</p>

シニアが活々と稼げる

「茅ヶ崎市の未来を考えるポイント」発表記録

B グループは、まず大前提でこだわったところが、市政ですので収入が増えなければ何もできない、無い袖は振れないということと、シニアが増加するということは紛れもない事実だということから、全部グルーピングしたところを一気通貫で貫いている考え方として、シニアが生き活きと稼いでいける、そういう茅ヶ崎市をつくるというコンセプトをまず作りました。シニアが生き活きと稼げるというコンセプトで、最初何があるかということで、将来への投資、これは子どもへの投資なのですが、将来への投資においてもシニアと子ども、新旧混合一緒に学ぶ、そういうことで、シニアの経験してきた知恵・知見といったものが子どもにいろいろな授業を通して伝えられる、それを今まではどうしてもボランティアベースということだったと思いますが、しっかり先生ということで収入に繋げて頂く。これは下世話な言い方ですけども、収入が増えれば当然茅ヶ崎市としても税金が増えることになりますので、教育において将来への投資、子どもへの投資においてもシニアの人に稼いで頂くということがまず一つ。次に、人生 100 年への備え、これは我々が事業をグルーピングすると一つひとつが単独のグループにはならない、それぞれが絡み合っていることになるのですが、人生 100 年への備えというところでは、先ほど申しました将来への投資への教育事業に加えて、空き家の利活用だったり、いわゆるシニアの方への必要な整備、これは先ほど前提条件にありましたように、収入がどんどんどんどん減って、税政は苦しくなる一方だということで、最低限何をシニアの活躍のために残さなければいけないかという、人生 100 年への備えとして、その日が楽しくなるようなというコンセプトに基づいた事業を入れて残してあります。最後に、茅ヶ崎のインフラ整備ということで、これも先ほど言いました人生 100 年への備えと絡んでいるのですが、人生 100 年への備えの方は、茅ヶ崎のインフラ整備として言いますとソフトの部分のインフラ整備、一方でハードは我々としては民間では到底できない、そういったインフラ整備、逆に言いますと民間でできるインフラ整備は、選挙には負けてしまうかもしれませんが、いろいろ苦渋の選択で限られた予算枠の中で民間でできるインフラ整備は取り除いてどうしても公的なところでやらなければいけないインフラ整備だけは残したということで、もう一度言いますと、シニアが生き活きと稼げる、そういう前提で将来への投資、人生 100 年への備え、インフラ整備、そういったことでまとめてみました。以上です。

廃止した事業・選択しなかった事業とその理由

<1ラウンド目>

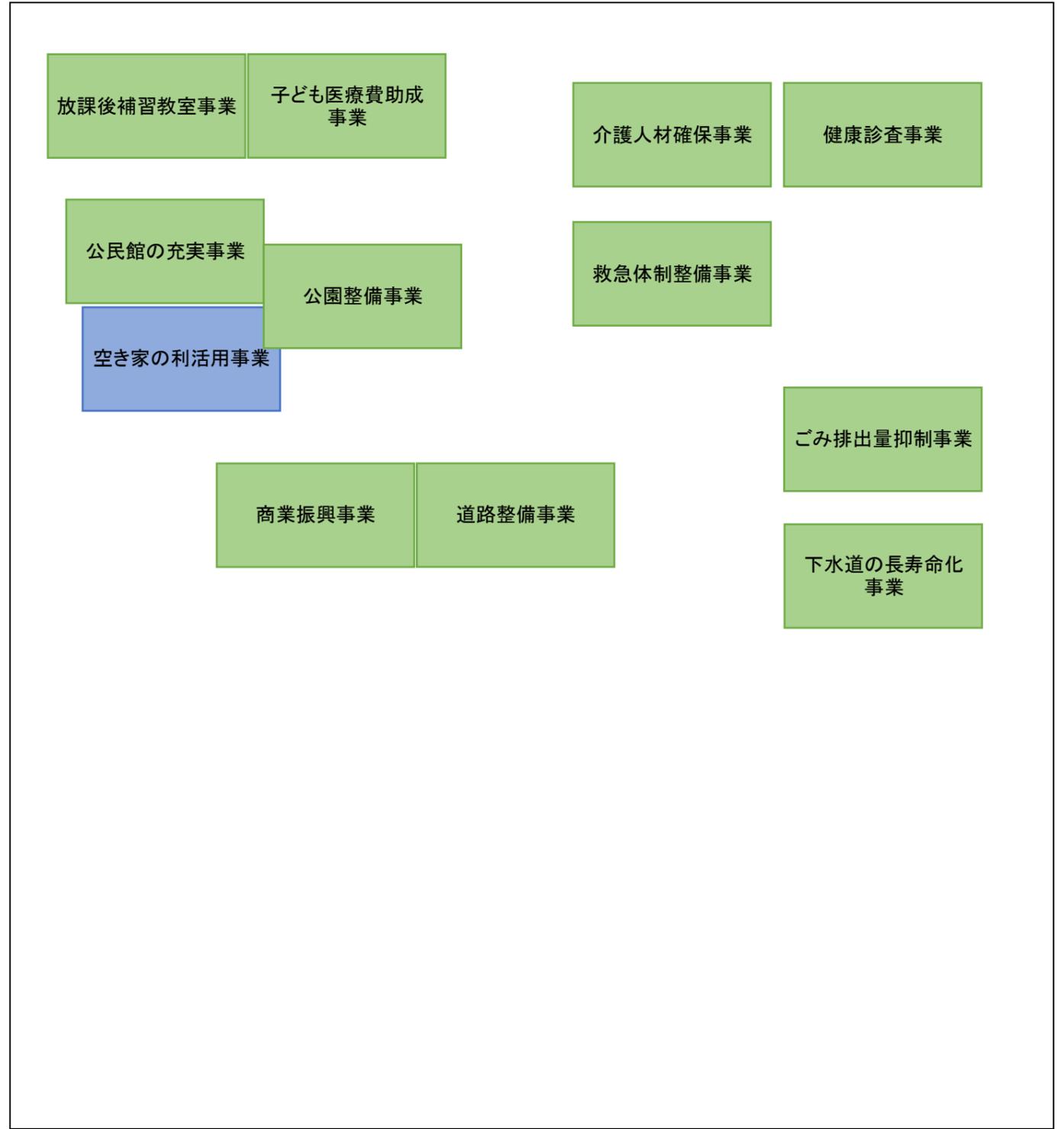
スポーツ推進事業	観光交流活性化事業	高齢者がいきいき暮らせる拠点整備事業	グローバル教育事業	職住近接にかかる支援事業
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> ・民間委託でまかなえる </div>				

<2ラウンド目>

歩行空間のバリアフリー化事業	自主防災組織育成支援事業	地域コミュニティ促進事業	市立病院の運営事業	教育施設の更新事業
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> ・公共施設にはすでにある程度バリアフリーは進んでいる →事業費少ない？道路と統合 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> 地域コミュニティ 自主防災 →・空き家対策 ・公民館事業 ・子供教室 と複合させられるのではないか </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> ・民間委託の可能性 ・近隣の自治体との統一化 ・歳出枠が大きい </div>	

茅ヶ崎市の未来のために大切にしたいこと、譲れないこと

<バーチャル市長の振り返り>



<その他議論>

Empty box for additional discussion.

茅ヶ崎市の未来を考えるポイント

暮らしやすい街づくり

- ・インフラ整備(バス・道路)
- ・市民活動の充実
- ・教育の向上

人への投資

- ・縮小・削減ではなく「稼ぐ」ために何をしなければならないか

「茅ヶ崎市の未来を考えるポイント」発表記録

発表は意識していなかったので上手にみなさんの代弁をできるかわかりませんが、前半でメンバーの方から出たのは、各課から出た課題は要するに行政当局の部署ごとに出た課題ではないかという指摘がありまして、正直言うといっぱい課題はありますが、統合することによってかなり予算が削れたりするのではないかと、そういった議論がずっと交わされていました。もう一つ、議論がちよっとしにくかったのは、予算規模がわからないのです。数字でいくらかかっているのか、これが桁外れに大きい事業だったらメスを入れやすいのですが、小さい事業だったらもう民間に任せるとか、そういったこともできるのではないかという議論がけっこうされていて、面白いなと思っていました。そのような中で、大事なことでは、スポーツ事業は特に柳島の運動場がオープンしましたが、賛否両論、関係者もいらっしゃるかもしれませんのであまり言いませんけれども、残念なことに使われていないです。あれは PFI でやっていますが、あのようなものは行政ではなくてもう民間ですとか市民団体に任せれば良いのではないのかということで、ピックアップされました。それから、第 2 ラウンドの中では、バリアフリーや防災、コミュニティなどテーマが分かれています。この辺を一括で括っていったらもっと違うやり方、予算も削減出来るのではないかみたいな所が出ました。あとは、市立病院は予算規模的には相当大きくて、特別会計の大部分を占めているのだと思うのですが、これも民間の病院とかで役割分担していけば、なくても困らないのではないかと。藤沢、平塚の病院を上手に使ったり、ただ、医療レベルを落とさないということは考えながらもここは相当メスが入っても良いところだということでピックアップしました。振り返りは、要するに、似たようなテーマ、例えば、商業振興事業といっても、道路整備、道路計画と密着しているでしょうし、こういったものはまとめて考えるともっと違ったアイデアが出るのではないかとということで、付箋紙を近付けて貼っています。ポイントとして、暮らしやすい街づくり、これが一番だということで書きましたけれども、もう一つ忘れていけないのは、どうやら今日の議論はいかに人口が減って予算が減っていく中で、どうやって支出を抑えていこうかということが中心でした。あまり面白くないですね。会社なんかですとどうやって予算を増やしてどうやって使うかみたいなことがけっこうできるのですが、あまり元気が出ないテーマが多かったのですが、逆に稼ぐ力、茅ヶ崎市としてやはり稼がないといけないわけです。税収を増やしていかなければならない。だから、稼ぐために人に投資をしていく。こういった施策をもっともっと具体化していく必要があるのではないかと、そんなところも話し合いをしていました。全然うまくまとまっていないと思うのですが、私どものチームの発表は以上で終わります。ありがとうございました。

廃止した事業・選択しなかった事業とその理由

<1ラウンド目>

放課後補習教室事業	職住近接にかかる支援事業	介護人材確保事業	健康診査事業	スポーツ推進事業
・ボランティア活用	・インターネットの活用で対応	必要性があるか不明 民間でできないか	・自己負担	・ジムなどが多い

<2ラウンド目>

観光交流活性化事業	ごみ排出量抑制事業	公園整備事業	高齢者がいきいき暮らせる拠点整備事業
観光交流は民間で対応	民間委託	公園新たに作る必要ない 維持だけよい人口減のため 豊かな自然がある	空き家の活用で対応

茅ヶ崎市の未来のために大切にしたいこと、譲れないこと

<バーチャル市長の振り返り>

道路整備事業	市立病院の運営事業	公民館の充実事業	商業振興事業	グローバル教育事業
下水道の長寿命化事業	子ども医療費助成事業	地域コミュニティ促進事業		
歩行空間のバリアフリー化事業	救急体制整備事業	自主防災組織育成支援事業		
教育施設の更新事業		空き家の利活用事業		

<その他議論>

茅ヶ崎市の未来を考えるポイント

文化・地域・住みやすさの融合

コミュニティの形成

神社の多さ(祭り)

豊かな自然環境

・江ノ島、里山、えぼし岩、富士山、海が同時に見える

動きやすいまち

・自転車中心 ・人口もまちもちょうどよい

・コンパクト

地域でできることは地域へ

「茅ヶ崎市の未来を考えるポイント」発表記録

Dグループで話した内容なのですが、ポイントは4つです。そのポイントを考える建前で事業カードがあるのですけれども、この事業カードはどの市町村、どの自治体でもできるのではないかと、絶対に必要なものでしょう。その前提、そういったことがある中で、茅ヶ崎の未来を考えるポイントはこの4つに集約されるのではないのでしょうかという話になりました。一つ目、文化・地域・住みやすさの融合、コミュニティの形成とか、私が2年前に茅ヶ崎市に引っ越してきた時に驚いたことは神社の多さです。神社を中心としたコミュニティ、祭りといったところが未来を考えるうえで重要ではないですかといった話が出ました。二つ目、豊かな自然環境、これは話にあったのですが、海に行った時にえぼし岩と富士山と江ノ島が同時に見えるので、茅ヶ崎だけでない。あと、山に行ったら里山がある。こういった自然環境があるというところがポイントではないかといったところ。この自然環境があるからこそ、そもそも公園整備とかそんな無駄なことはいらぬのではないかとこの話になりました。三つ目、動きやすいまちづくり、今も自転車中心のコンパクトシティといったところがけっこうあると思うのですが、今は人口もまちもちょうど良いのではないかと考えているので、これ以上広がってしまうと静かな環境とかいったところで保たれないような気がしますという話があり、動きやすいまちづくりといったことがポイントではないかということになりました。最後に、地域でできることは地域へといったところで、こういった選択しなかった事業もあるのですけれども、基本的に今高齢者の方がどんどん増えていっていますといった時にその高齢者の方をどのように活用してコミュニティをつくっていくのかといったところの考え方が一つポイントになるのかなといったところで話し合われました。そういったところから、こういった市長の譲れないこと、大切にしたいことといった所を選択したということになります。以上です。

廃止した事業・選択しなかった事業とその理由

<1ラウンド目>

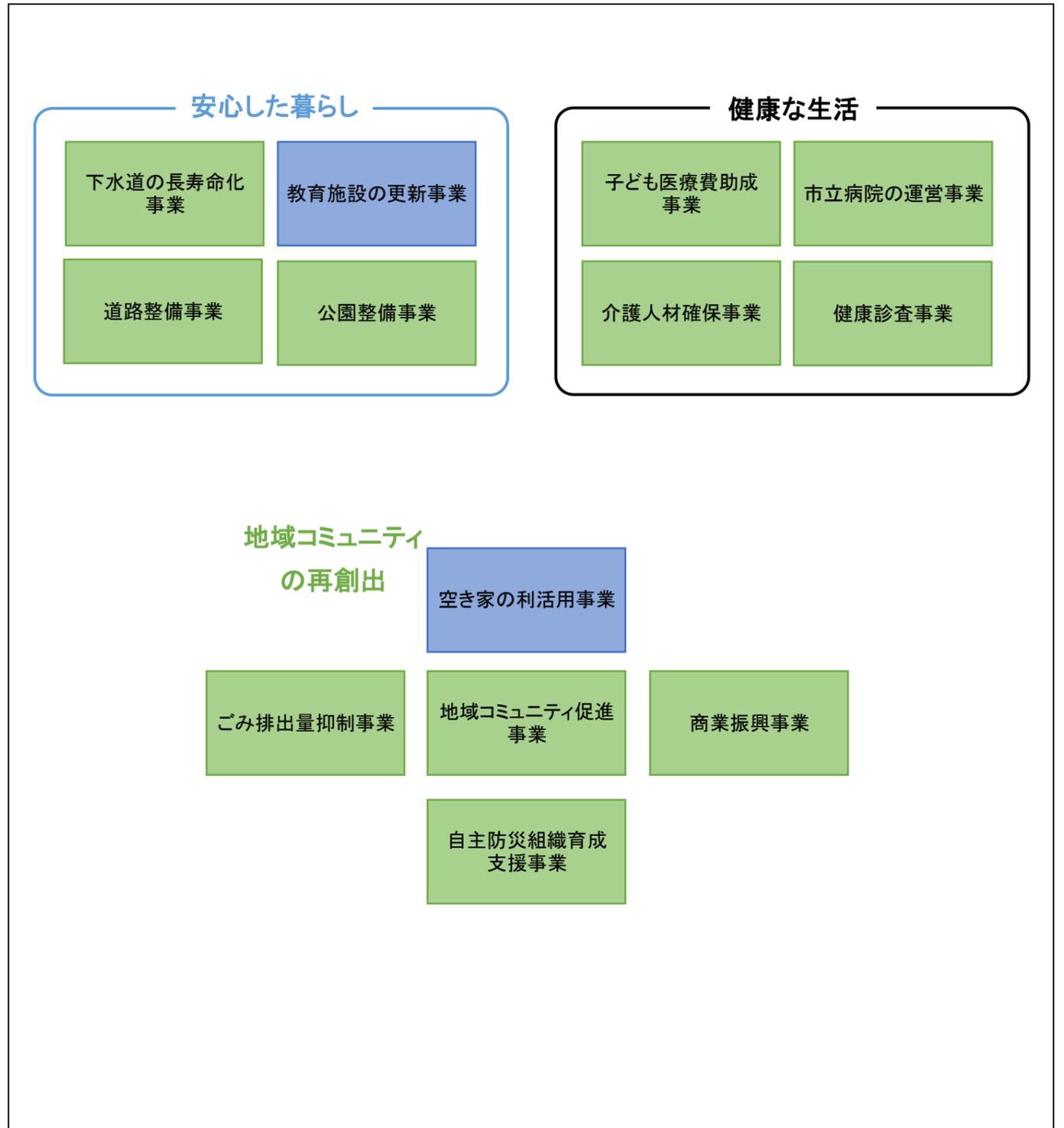
放課後補習教室事業	観光交流活性化事業	グローバル教育事業	高齢者がいきいき暮らせる拠点整備事業	職住近接にかかる支援事業
学習塾は必須ではなく、民間の代替手段があるため	他に優先する事業がある	市で今対応する事業ではない	地域コミュニティを促進するで対応可	

<2ラウンド目>

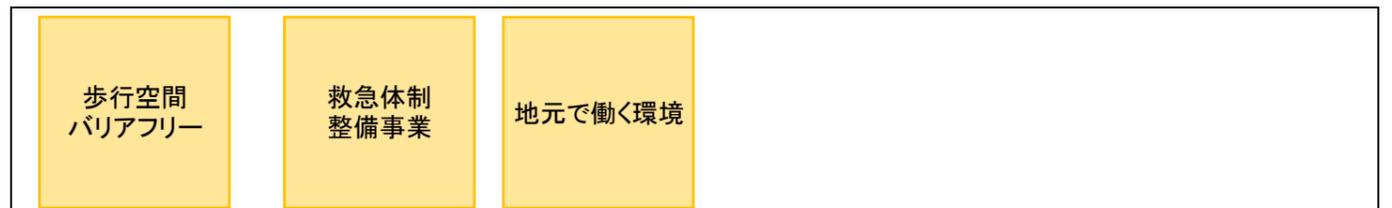
公民館の充実事業	スポーツ推進事業	歩行空間のバリアフリー化事業	救急体制整備事業
空き家を活用していくことで対応をしていく	行政が担うべきではなく、民間の活力や知識を活用すべき	1ラウンド目で優先して実施し、終了したため	

茅ヶ崎市の未来のために大切にしたいこと、譲れないこと

<バーチャル市長の振り返り>



<その他議論>



茅ヶ崎市の未来を考えるポイント

地域コミュニティの再創出

大きな事業を行うのではなく、既存のもの(空き家など)を活用してコミュニティを創出する

安心した暮らし

行政でないとできない事業

健康な生活

安心した暮らしを行うための基本

「茅ヶ崎市の未来を考えるポイント」発表記録

私たちのグループでは今いくつか色々やったのですが、地域コミュニティの再創出、安心した暮らし、健康な生活という3つの視点で考えてみました。まず、一番上にあるように地域のコミュニティの再創出ということで、ここの中には空き家の利活用とかごみの排出量抑制、地域コミュニティ促進事業、商業振興、自主防災組織などをうまくやることによって、自主防災組織にしても地域に住んでいる人、まず商店街の人たちが例えば消防団などやったりするので、商業振興をしていかないと、商業が無くなってしまうとそういうふうな地域を下支えしている大事な人たちが消えていってしまうということで、こういったことをやっていく。ここで、繋がってくることによって活発になってくる。それから、安心した暮らしということで、当然、自分たちが生活していく中では下水を流していますけれども、その中の長寿命化事業。ただし、これについては、25年後にもう終わっていなければならないことなので、ここに入るのではなくて、計画的に本当はもう終わっている。教育施設の更新事業は、当然、ここでは25年経った後には人口が減ってくるので、再整備というか、あるものを更新するだけではなくて、集約化とかその他のことも出てくるだろうと。公園の整備事業、道路の整備事業があるのですが、これについては、公園に人を、子どもたちを集めてしまうのではなくて、コミュニティの再創出に関係するのですが、このところに例えば道路の整備とも関係するのですが、要するに、私は70歳ですけれども、昔子どもたちは近くの道路で遊んでいました。そのかわり、昭和40年くらいに始まったモータリゼーションで道路から追い出された。それで危ないからといって公園がどんどん作られてきた。そこで何が起こってきたかというと、例えば、今色々なところで保育所、学校を作ろうとすると子どもの声がうるさい、騒音だという話が出てくる。それが、私たちが地域から子どもを外に出してしまった。だから、それをもう一度自分たちの住んでいるところに戻してくることでコミュニティを再創出してくるというような形をやったらどうかと。それから、健康な生活。当然、そうやっていくには自分たちは健康でなければいけない。だから、子どもの医療費の助成事業や市立病院をもっと活性化してきちんとやっていく。健康診断は基本の基本です。当然、高齢化していますから、介護人材をきちんとやっていくという、ここは憲法で保障されている部分の一番の根っこのところだと思っています。それから、外してある事業、高齢者がいきいき暮らせる拠点整備事業なども含めて、そういうものをわざわざ作らなくても、あるものを利用して再活性化してはどうでしょうか。公民館の充実事業も外してあるのは、コミセンなどもあるので、それももう一度考え直してはどうかということ。それから、わざわざ大きな事業を作らなくても、例えば空き家をうまく使えば、高齢者がいきいき暮らせる拠点整備事業も作らなくても。それから、大勢集まらなくても、5~10人集まるくらいの方が良いのではないかとということで、全部空き家に含まれるのではないかと、という形でやりたいと思っています。

ポイントの振り返り	未来像で描きたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心に暮らす ・地域で豊かに暮らす ・未来を創る 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までどおりの暮らしを見直す ・未来を創る人が育つ ・持続可能な地域

未来像のフレーズ出し

<p>安全・安心</p>	<p>今まで通りはNG 本当に必要なことを見極める機能</p>	<p>まちの中の緑が増え、クラスターの課題が少なくなっている。</p>	<p>市民力活用最大化 事業の最小化</p>	<p>ごみ排出</p>	<p>今必要なことを情報公開する</p>	<p>必要なものを必要な分だけ</p>		
<p>地域</p>	<p>・空き家が地域の中心的なスペースとして生まれ変わり 空家などを利用し、計画的に緑地や公園ができ地域の人が集まれ、子どもたちが遊べる場がたくさんある。</p>	<p>・教育施設の更新事業 シニアが学校で授業をする</p>	<p>市民のもつノウハウの継承 何かを学ぼうとしたら、十分な情報やその場があるまち 町人 上級学校とのつながり</p>	<p>現役世代の地域との関わり マチ 異分野(部局)間が連携し、課題を統合的に取り組んでいる。</p>	<p>行政と市民の「協働」 ↓ 市民協働 市民・企業 大学・団体の連携 市民・団体・市役割の最適化</p>	<p>市と市民と民間の協働 ヒト 世代を超えた活発な交流</p>	<p>人がすむまち。静かに豊かに暮らす。 多様な世代の交流</p>	<p>・公民館やコミセン事業の統合 全員が関心を示す流れを作る</p>
<p>未来</p>	<p>町 観光都市 or (and) 居住都市 1人ひとりの幸せ度最大化 1人ひとりの力が最大化するコミュニティ 観光・工業化、人口増にこだわらない。</p>	<p>マチ SDGsを政策に取り込んだ持続可能な政策が実行されている。</p>	<p>町人 “茅産茅消”の食事 農地が確保され、地場産のものが供給され、水田も残っていてお米は、小・中学校の給食に供給されている。</p>	<p>全員がMY畑を持っている 自然をいつまでも大切に</p>	<p>まちのTV見える化 子どもが生まれても育てやすい環境、保育園は充実し保育士さんの地位も向上している。 何も無いことをプラス評価する。</p>	<p>町人 里山地域の活用 北部のコア地域は、保全され、斜面林は寄付され、市民・地域の人が保安全管理している。そこが市民の憩いの場になっている。生物多様性が保たれている。</p>	<p>市に関心を持ち、市民同士が議論する場が確保され、市民が行政に主体的に参加している 市役所職員の副業、越境学習</p>	<p>この人がいるから行きたい茅ヶ崎</p>

未来の茅ヶ崎市での暮らし(ショートストーリー)

2050年頃 40代子ども2人夫婦は、朝タブレット端末にきた情報をチェックし、地域の課題について意見を発信。

子どもは学校に行き、祖父母も学校で教えたり、企業や市民の交流の場として機能している。

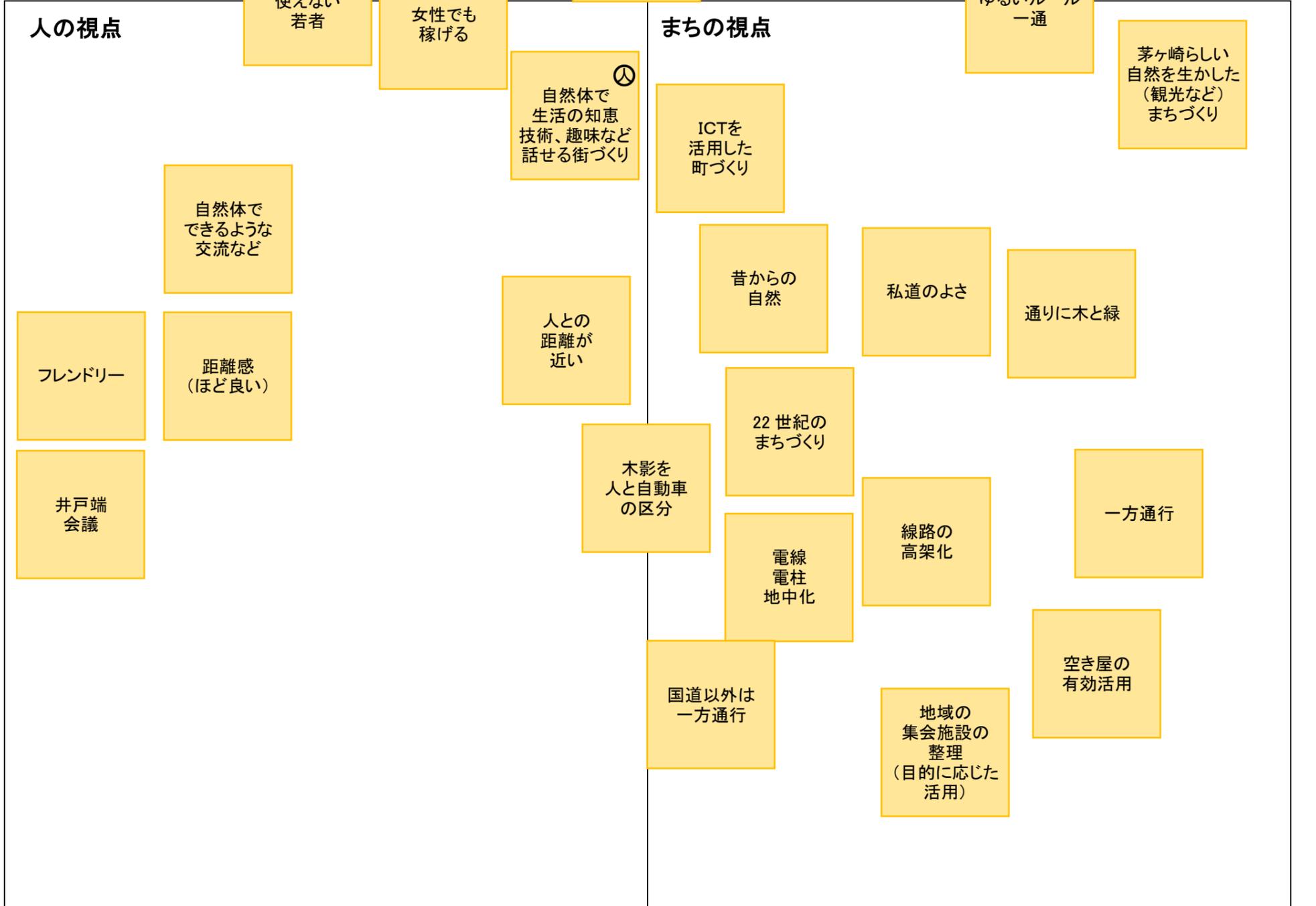
いろいろな人が交流でき、意見を言え、未来について考えることで持続可能な茅ヶ崎になる。

Aグループのショートストーリーですが、2050年頃の40代夫婦と子ども2人という家庭を設定して考えました。「2050年頃、40代の子どもが2人夫婦は、朝タブレット端末に来た情報をチェックし、地域の課題について意見を発信。子どもは学校に行き、祖父母も学校で教えたり、企業や市民の交流の場として機能している。いろいろな人が交流でき、意見を言え、未来について考えることで持続可能な茅ヶ崎になる。」このようなショートストーリーを考えました。まず、前回の第2回のポイントとして、安全・安心に暮らす、地域で豊かに暮らす、未来を創るという3本の柱を軸に未来像で描きたいことを考え、安全・安心に暮らすというところから、「今までどおりの暮らしを見直すこと」、「地域で豊かに暮らすというところから、未来を創る人が育つということ」、「未来を創るという柱から、持続可能な地域をつくるということ」の3つを未来像で描きたいこととして考え、それらをショートストーリーに反映させました。「朝タブレット端末に来た情報をチェックし・・・」ということなのですが、2050年頃ということで今よりもさらにデジタルな技術が発達していると考え、朝タブレット端末で、デジタルで交流できる場をコミュニティとして作り、市役所などから「こういうことがありますよ」という情報を発信したり、市民レベルから「こういうイベントをやったり、こういうことで困っているので誰か助けてくれませんか」と投げかけたりするような、官民が双方で意見を自由に言い合えるような場を提供し、尚且つそれを実際にできる場として学校を使うという考えました。今より子どもが減ってきている分、学校の空いたスペースを子どもだけで使う場ではなく、子どもや大人、リタイヤした祖父母世代、企業、市役所の方も一緒に交流できる場として使えるようにし、学校施設のスペースを複合施設として利用することを考えました。例えば、子どもたちが学校で学んでいるところに、祖父母世代が学習サポートとして子どもたちに教えたり、逆に祖父母世代が子どもたちと交流することで活力をもらったり。あるいは、企業や市役所の方が実際に来て市民たちと交流する場を築くことによって、新しい発見をつくったりできるのではないかと考えました。全ての軸として共通することが、世代や仕事、いろいろな生活の場の垣根を越えて、一つの茅ヶ崎市民として出会える場をつくり出すということをテーマに考えました。以上です。ありがとうございました。

未来像のストーリーづくり

ポイントの振り返り	未来像で描きたいこと
<p>・古き良きを残す！！</p> <p>・将来への投資(子どもへ)</p> <p>・人生 100 年への備え(シニアへ)</p> <p>・茅ヶ崎のインフラ整備(ソフト・ハード)</p>	<p>①将来への投資 ②人生 100 年への備え</p> <p>③茅ヶ崎のインフラ整備を行うことで、古き良き茅ヶ崎を残していく。</p>

未来像のフレーズ出し



未来の茅ヶ崎市での暮らし(ショートストーリー)

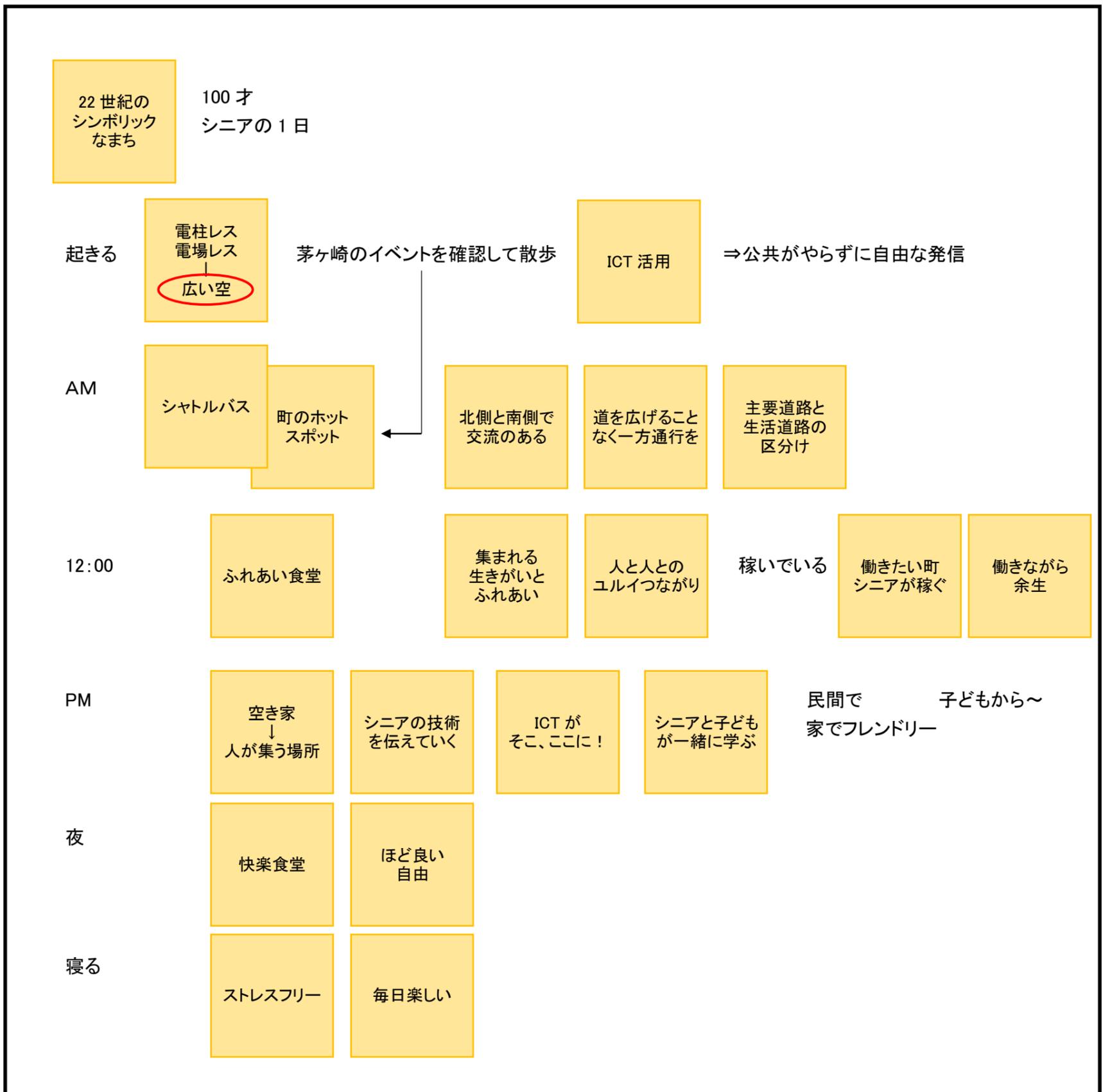
22世紀の茅ヶ崎シニアの1日

朝 5:00	自宅のICT情報をチェック
AM	シャトルバスで海岸まで(北から南へ)
正午	ふれあい食堂では知り合いの店でお金を使う→人が動くことでお金と知識が循環！→せまい道を安心しててくてく歩いて行く(一方通行)。
PM	民家でシニアが子供に伝える→シニアは稼ぎ子供は学ぶ→子供を持つ親が引っ越してくる！
夜	快樂食堂で勉強(ICT情報)→シニアのスキルUP
寝る	翌日の情報をチェック
	毎日楽しい。(平日)大人が(うろうろしている街 交流する)

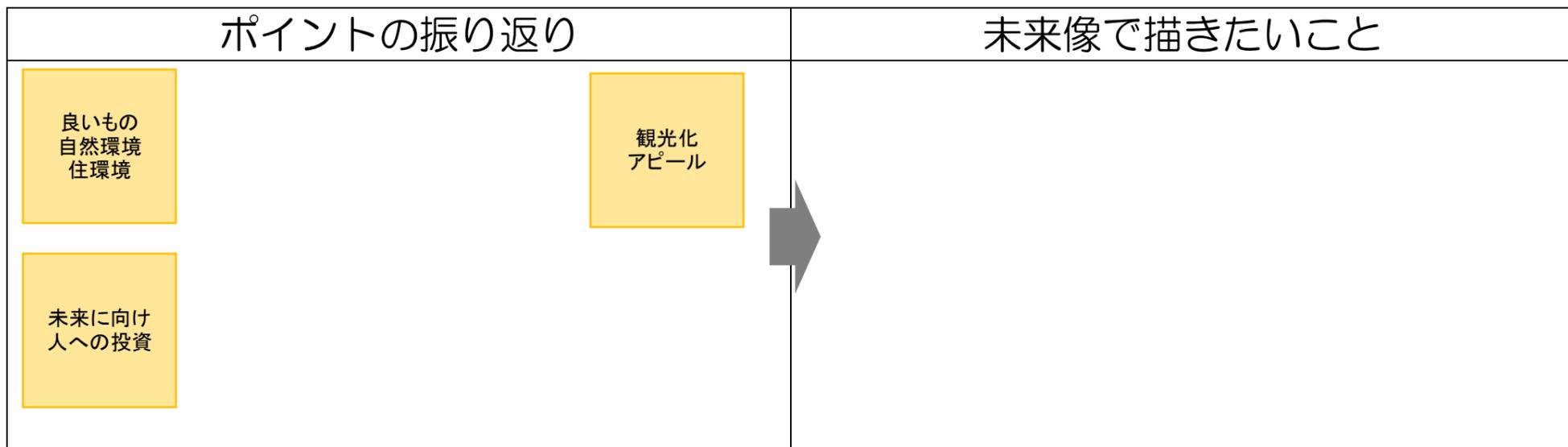
Bグループでは、将来への投資、人生100年への備え、茅ヶ崎のインフラ整備を行うということを茅ヶ崎市の未来を考えるポイントとし、「古き良きを残す」ことが茅ヶ崎市の財産・ポテンシャルであるという結論でした。「古き良き」というのは、古いものは本当に古いものだけではなく、昔からある海、山、川を含めた「古き良き」を残すということです。キーワードをいろいろ出したのですが、人の視点では、フレンドリーや人と人の繋がりというのを重視したいと考えており、まちの視点では、ある程度ICTも活用して、茅ヶ崎の狭い道をそのまま活かして、犬を散歩している人同士が触れ合う、挨拶できるようなまちづくりを重視したいと考えています。なお、未来像のストーリーづくりの模造紙にあるだけではなく、ホワイトボード*にも載せています。

ショートストーリーですが、22世紀の茅ヶ崎シニアの1日を描きました。市の北部に住んでいる男性を想像して下さい。この人が朝起きて、市からICTを活用した情報端末が配られているので、それを見て天気が良いので、シャトルバスで海岸、南の方まで行きます。通常、バスに乗って茅ヶ崎駅まで行って通勤する人は多いのですが、この方はその逆方向で駅から海まで乗っていきます。お昼にはふれあい食堂というまちのホットスポットがありまして、知り合いの女性の方が手料理を作っているので、そこでお昼を食べる。そうやってお金を使うことで人が動くこともあり、知識も循環する。ふれあい食堂までは狭いけれど安全・安心な道となっており、歩いて行くことができます。国道みたいに車の往来が激しい道ではありません。午後は、民家で子どもに知識を教えるような寺子屋のような場所があり、そこではシニアがボランティアではなく有料で教えています。有料なので、与える知識にも責任が伴いますので、自分も勉強しなければいけません。こういった場所で子どもが学べるので、子どもを持つ親が他のまちから茅ヶ崎に引っ越してきますので、市の税収も上がります。さて、夜は快樂食堂という、お酒も出しますが、別のフロアでは勉強もできるような場所があり、そこでシニアは例えばプログラミングを他のシニアから教わることによってスキルをアップすることができます。自分も勉強するというのは先ほど言った話になります。夜寝る時は翌日の茅ヶ崎情報をチェックします。その中には、例えば小出川で桜が咲いているという情報もあったり、彼岸花が咲き始めたなどの話もあったりするので、茅ヶ崎市内での人の交流が促進されます。そのことによって流れ、循環が生まれて、毎日楽しい茅ヶ崎市になります。大人が交流するというと、うろろしているようにも見られますが、それでも自然なまち、自然体で居られるというのが、茅ヶ崎の未来ではないかというのが、我々Bグループのストーリーになります。

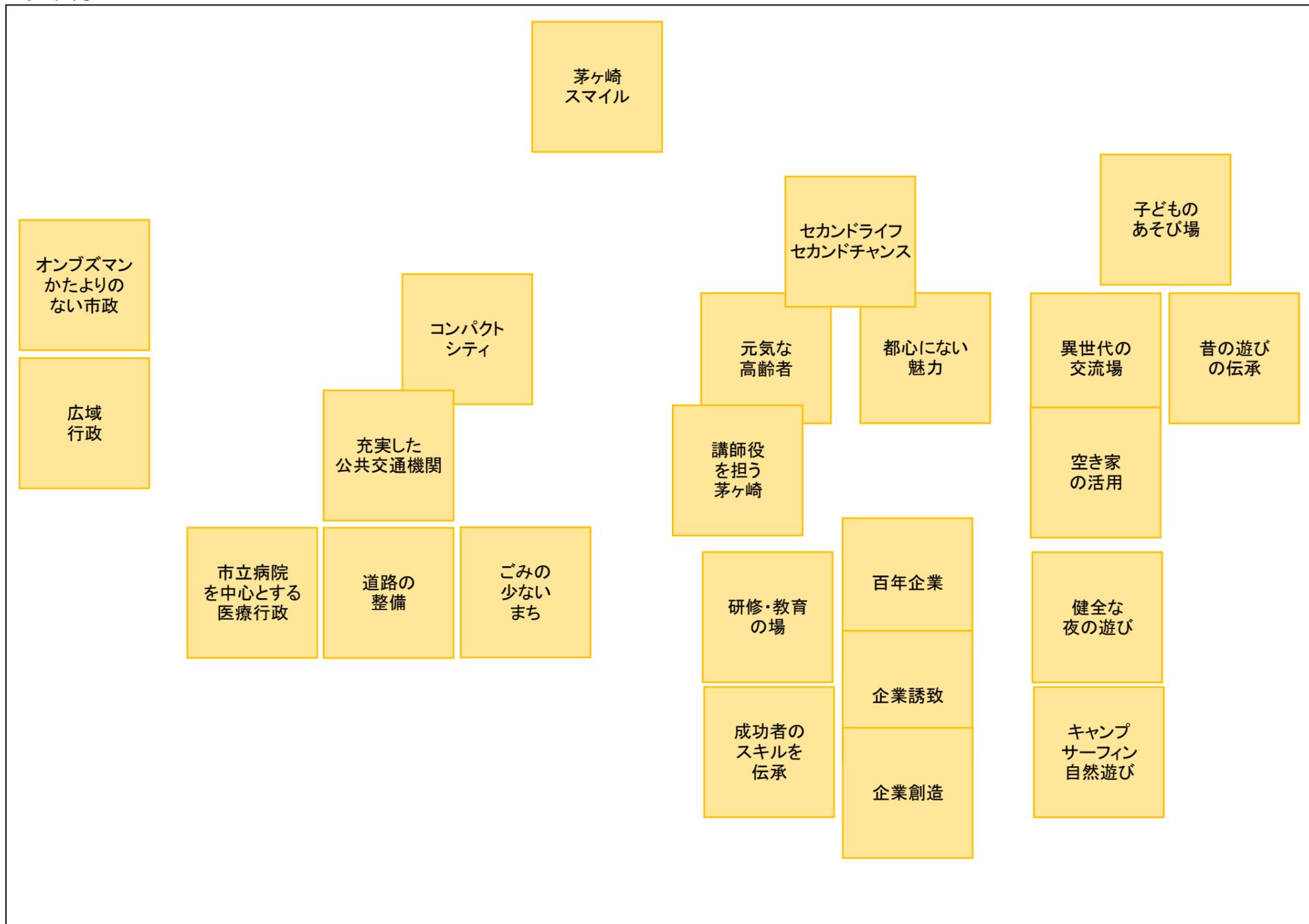
※ホワイトボード結果



未来像のストーリーづくり



未来像のフレーズ出し



未来の茅ヶ崎市での暮らし（ショートストーリー）

・茅ヶ崎には異世代交流できる空間がある。

そこは研修・教育の場で、高齢者は遊び方や教育を若い者へ伝え、働き手の世代では各地から人材が集まり成功スキルの伝承が行われている。

各地から人が集まる理由は、海・山・キャンプ場など自然豊かで、夜の遊び場があるからだ。

多世代が輝ける土壌があるので、まちには、「茅ヶ崎スマイル」があふれている。

一方、まちのインフラでは道路・交通機関網が整備され、また、ディスプレイ等ごみが少なくなる仕組みが取り入れられ、「茅ヶ崎スマイル」を促進している。

フレーズとしては、「茅ヶ崎スマイル」という言葉が良い言葉だという意見が出てきたので、それをまず根底に置き、4つのポイントとして、こんなまちになったら良いなどいうことを整理しました。一つ目に、「行政が何かに偏った見方ではなく、広域に見て、何に重点を置くかをもう少し見ることができれば良い」という話が出ました。二つ目に、「コンパクトシティとして、それを活かしたまちづくりが進んでいると良い」、三つ目に、「道路の整備については、人が多いところはほとんど南側に集中しているため、南側の道路の整備や公共機関を充実して、まち全体的に行き来しやすくなると良い」という話が出ました。そして四つ目として、ごみについては、市民の意識もあると思いますが、「行政の取組でごみの少ないまちになると良い」という話が出ました。

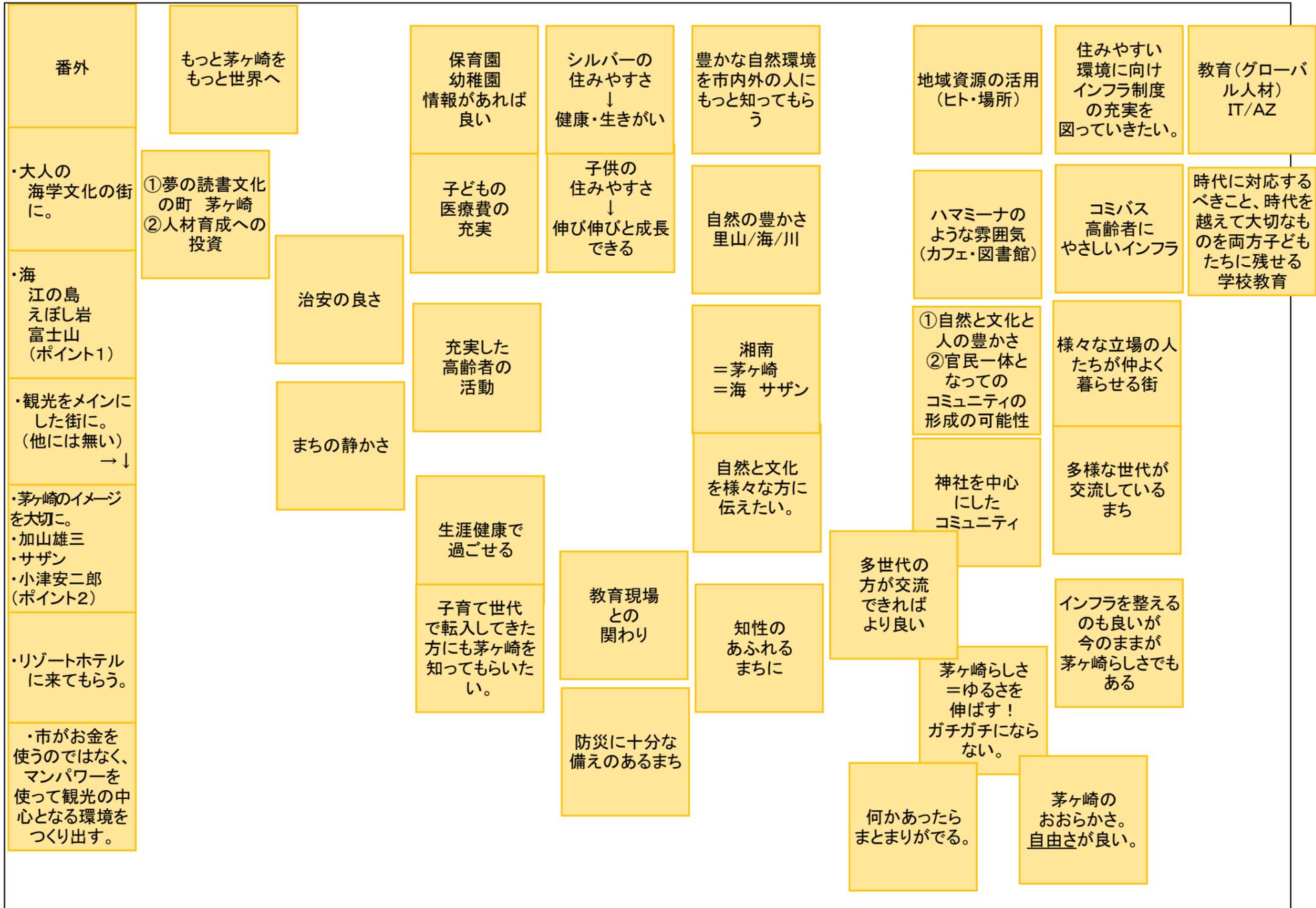
最初に申し上げた「茅ヶ崎スマイル」という言葉なのですが、子どもも高齢者の方も笑顔が溢れるまちになってほしいということから、「セカンドライフ・セカンドチャンス」という言葉が出てきました。この「セカンドライフ・セカンドチャンス」を実現するために、二つの場をつくっていくことが重要であると考えます。一つ目の場として、退職されて今まで働いてきた方が、空き家などの場所を使って次の世代に教える場、各地からそういう技術のある方が茅ヶ崎に集まって研修したり教えあったりしてスキルを磨き合えるような場を提供できると良いと思います。そうした結果、百年企業やみんなで考えた企業の創造など、百年続く茅ヶ崎で、地産地消だけでなく人も培い、茅ヶ崎でまた活かしていける場が創造されます。もう一つの場としては、子どもの遊び場です。そこは、今、子どもたちがボール遊びができないとか、習い事で忙しいとか、ゲーム遊びに夢中だとか、少し引きこもりやすい環境にあるので、子どもたちが生き生きと遊べるような空き家や空き地などをそういう場として活用し、そこに大学生のボランティアが活躍して、遊んでもらったり勉強を教えてもらったりする場があると良いと思います。また、地域の主婦や仕事をしていない方、高齢者の方なども見守ってくれる場になったら良いと思いました。

ストーリーとしては、茅ヶ崎に異世代交流できる空間がある。そういった場所で研修、教育の場、高齢者に遊び方や教育を若い方に伝え、働き手の世代では、各地から人材が集まり、成功スキルの伝承が行われている。各地から人が集まる理由は、自然です。そういった自然の魅力で良い人材が集まって輝ける場になれば良いなど思っています。そういった方々が集まった時に夜も遊べる場もあるととっても楽しいのではないかなという意見はありました。茅ヶ崎スマイルが世代を問わず見ることができるまちというのが、Cグループのストーリーです。

未来像のストーリーづくり

ポイントの振り返り	未来像で描きたいこと
<p>文化が根づく住みやすい環境</p> <p>コミュニティの形成～地域でできることは地域へ</p> <p>豊かな自然環境</p> <p>動きやすいまち</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; height: 60px; background-color: #fff9c4;"> 地域資源を市内外の人に知ってもらう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; height: 60px; background-color: #fff9c4;"> 茅ヶ崎らしい自然生活環境を残していく </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin: 10px 0;"> ➔ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; height: 60px; background-color: #fff9c4;"> 開かれた地域コミュニティの形成 </div>

未来像のフレーズ出し



未来の茅ヶ崎市での暮らし (ショートストーリー)

私の10年後は75才。今日は海を見ながらcafeで朝食。えぼし岩を写真にとりインスタに投稿。みんな「いいね！」を押してくれる。

これからスポーツジムで身体を調整。健康長寿でいるために運動は欠かせない。

午後は、小・中学生に学習のボランティア。勉強だけでなく、昔遊びや読みきかせもおこなっている。

明日は、茅ヶ崎のまち歩きだ。らちえん通りを中心に文化を感じるツアーだ。そこには、シニアだけでなく子育てママもやってくる。茅ヶ崎のあんなこと、こんなことを話す情報交換の場だ。

最近、茅ヶ崎に住みはじめた人が参加することも多くなってきた。

もうすぐ浜降祭。担ぎ手にならないかと声をかけ、地域の伝統文化を知ってもらい、たくさんの人に参加してもらおうことで、コミュニティを充実させていきたいと思う今日この頃だ。

我々の考える茅ヶ崎のポイントは、やはり、文化が根づく住みやすい環境です。住みやすい環境というのは、高齢者にとってどうなのか、または子どもにとってどうなのか、いろいろあると思うのですが、一つにはコミュニティの形成がされていて、地域でできることは地域でやっているというようなことかなと思います。その背景にあるのは、豊かな自然環境であり、動きやすいまちです。茅ヶ崎の背景にある利点を活かし、それらを踏まえて、文化が根づく住みやすい環境を作っていきたいという想いです。

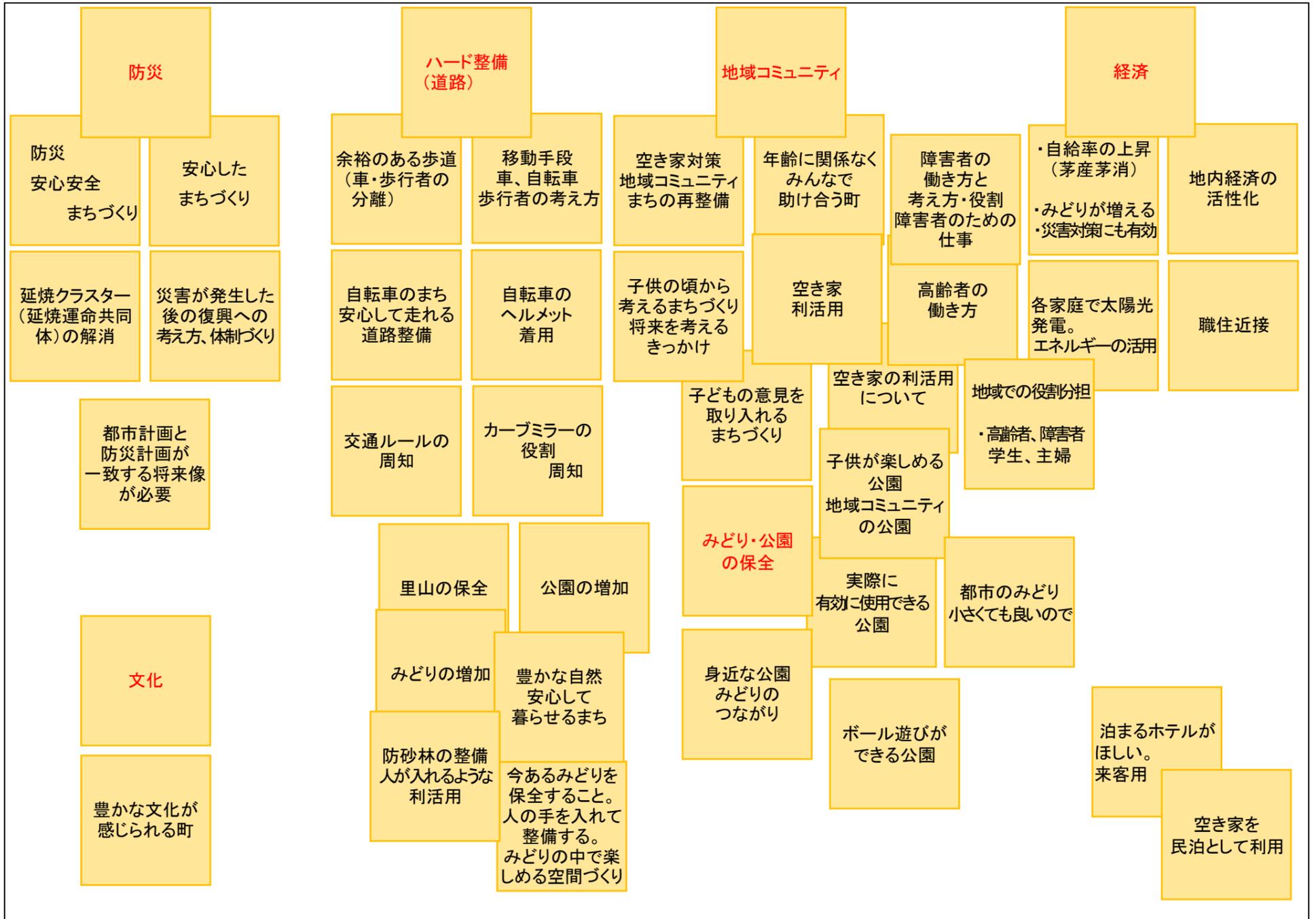
そういう中で、未来のショートストーリーを描いてみたのですが、この時私が10年後にはどうなっているのだろうと考えました。今65歳なので、10年後は75歳になっていますけれども、その時のストーリーを簡単に紹介させていただきます。私の10年後は75才。今日は海を見ながらcafeで朝食。えぼし岩を写真にとりインスタに投稿。みんなに「いいね！」を押してもらっています。これからスポーツジムで身体を調整。茅ヶ崎にはスポーツジムが民間施設として4つ、市の施設としても2つあり、人口の割には6つもスポーツジムがあります。健康長寿でいるために運動は欠かせません。午後は、小・中学生に学習のボランティア。75歳まである程度働いたので、75歳以上はボランティア活動に専念するという形です。勉強だけでなく、昔遊びや読みきかせも行っています。明日は、茅ヶ崎のまち歩き。らちえん通りを中心に文化を感じるツアーです。そこには、シニアだけでなく子育てママもやってきて、茅ヶ崎のあんなこと、こんなことを話す情報交換の場になっています。最近、茅ヶ崎に住みはじめた人も多くなりました。もうすぐ浜降祭。担ぎ手にならないか声をかけ、地域の伝統文化を知ってもらい、たくさんの人に参加してもらおうことで、コミュニティを充実させていきたいと思う今日この頃です。こういう10年後で、相変わらず私は健康維持し、いろんな地域との繋がり、コミュニケーションの中で充実した日々を送っています。私の話だけになって申し訳ないのですが、そんなことを読みました。

色々大切なキーワードがあるのですが、最終的には、「茅ヶ崎の自然環境の良さを活かしたい」ということ、また、「茅ヶ崎独特のゆるさ」、これは説明するのは非常に難しいのですが、恐らく、自然環境として海が近いとか気候が温暖であるとか、そういうことを背景にして、精神的なゆるさみたいなものが心地良く、茅ヶ崎市の良さであると考えます。そういう茅ヶ崎の良さというのは10年後も活かしていけるようなまちづくりを図ってほしいというのがDグループの希望です。

未来像のストーリーづくり

ポイントの振り返り	未来像で描きたいこと
<p>・財産・ポテンシャル(可能性)は、「私たち、市民」です。</p> <p><大切にしたいこと></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安心した暮らし 2. 健康な生活 3. 地域コミュニティの再創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・余裕のある道路が整備されている街 (自動車・自転車・歩行者の分離) ・豊かな自然が確保され、安心して暮らせる街 ・年齢に関係なく、みんなが助け合う街

未来像のフレーズ出し



未来の茅ヶ崎市での暮らし(ショートストーリー)

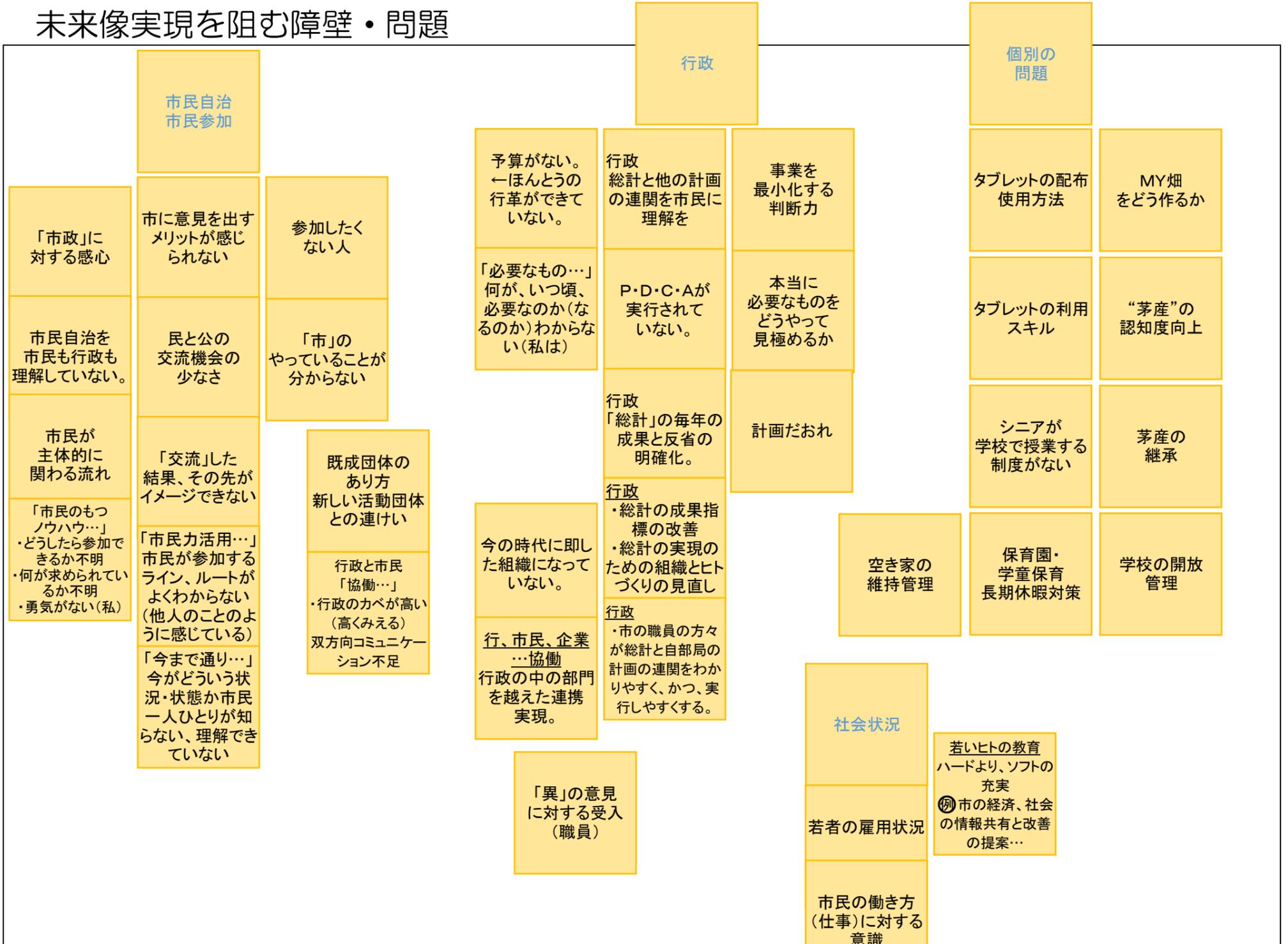
- ・おじいちゃんは朝早くから、おばあちゃんは近所の空き家に集まる友人達と農業を教えている。
- ・お兄ちゃんは片道2時間通勤の父を見て、茅ヶ崎市を活性化する為、誰でもかつやくできる会社を茅ヶ崎で起業したいと考えている。
- ・お母さんとおばあちゃんは、おじいちゃんの農園で採れた野菜で昼ごはんを作っている。
- ・お姉ちゃんは、安心して整備された道路で自転車通学をしている。
- ・ボクと弟は、近所のみどり豊かな公園で虫捕りをしている。
- ・午後はお母さんが地域のみんなで防災について話をしている。

三世代家族の1日というのを考えました。家族構成としては、主人公は小学6年生の「ボク」です。「ボク」は生まれも育ちも茅ヶ崎で農業をしている祖父母と住んでいて、お父さんは2時間かけて通勤していて、お母さんは在宅で働いています。お兄ちゃんが大学4年生でこれから就活というところで、お姉ちゃんは高校生、弟はこれから幼稚園に通うという家族の1日を考えました。おじいちゃんとおばあちゃんは近所にできた空き家を活用したコミュニティで、集まった人たちに農業を教えています。お兄ちゃんに関しては、片道2時間かけて通勤しているお父さんを見て、そんな生活は嫌だと考えて、茅ヶ崎市内で誰でも活躍できるような何か仕事を創出できるような起業を考えている状態です。お母さんとおばあちゃんは、地産地消として、おじいちゃんが作った野菜を使って自分の家で昼ごはんの準備をしています。お姉ちゃんは、最近きちんと整備された道路があるので、それを使って自転車で通学をしている状態で、ボクに関しては弟と一緒に近所にできた緑豊かな公園で遊んでいます。午後は、お母さんは地域のみinnで防災について市の方の話聞きに行く、というような1日を送っています。

Eグループでは、ポイントの振り返りで、「安心した暮らし」、「健康な生活」、「地域コミュニティの再創出」という3つをポイントとして挙げました。それらを踏まえ、ストーリーとして、例えばお姉ちゃんがきちんと整備された道路で通学できるような道路面のハードの整備状況、空き家を活用したコミュニティの状況、空き地をきちんと整備して子どもも安心して遊べるような公園を確保すると同時に緑の保全という側面も実現している状況、お兄ちゃんが地元で働こうとしています、地元できちんと都内まで通勤しなくても茅ヶ崎で快適に暮らしながら仕事ができる環境、そして、食料自給率が茅ヶ崎は低いという話もあったので、農業の文化も守りながら生活している姿などを、三世代家族の1日として考えました。

2050年頃 40代子ども2人夫婦は、朝夕タブレット端末にきた情報をチェックし、地域の課題について意見を発信。
 子どもは学校に行き、祖父母も学校で教えたり、企業や市民の交流の場として機能している。
 いろいろな人が交流でき、意見を言え、未来について考えることで持続可能な茅ヶ崎になる。

未来像実現を阻む障壁・問題



障壁・問題の解決策

障壁・問題					解決策						
市民自治 市民参加	市政に対する市民の意識	市民への市からのアプローチ	参加のメリットがわからない	参加の結果がイメージできない	参加結果の見える化(本当の姿)	教育(小さいころから市政にかかわっていることを知る)	広報(様々な手段、人づて)				
行政	計画だおれ	異なった意見をうけ入れない職員	オープンにしない	市民のためのPDCAがない	総合計画を策定しない。個別計画で。	市民と双方向コミュニケーションする職員(過程の議論)	行政の組織改革(もっと連携)	マイナス点課題の公開	議会の完全ボランティア	成果主義(管理職試験) 年功序列 終身雇用	廃止
社会状況	若い人の教育ハード重視	若者の雇用	茅産の衰退(後継者問題)		ITリテラシー(ソフト)教育(経済・社会状況)	一次産業の充実 茅産の継承					
個別の問題											

我々は元々、「未来像」の中で、朝、タブレット端末で来た情報をチェックして、地域の課題に対して自分が発信したり、色々な人と交流しながら意見を言えて、未来に対して考えることで「持続可能な茅ヶ崎」をつくっていく、といった未来像を考えています。何が一番問題か、大きくは二つのことについて話をしたいと思います。個別の問題はさておき、大きく言うと、「市民自治」、「市民参加」ということです。自分たちがどうしたら地域の課題などについて理解し、参加していくことができるのか、ということと、行政はどのようなあり方であればいいのだろうか、という二つのことに関して考えました。

まず、「市民参加」においては、皆さんのように市民参加の企画に参加されている方は違うかもしれませんが、市の情報、市政に関する情報はなかなか耳にも入ってこないし、アンテナにも引っ掛からないという人が多いのではないかと思います。では何故、市民の意識がそこまでいかないかというと、そういったところに参加しても自分の意見は反映されないのではないかと、参加することによって、結果的にメリットはあるのか、といった点に疑問があるからではないかと思いました。もう一つ、「市の方からのアプローチ」という意味では、本当に市の方が市民に参加して欲しいという意思を持って発信出来ているのかどうか、ということが一方であるのではないかと思いました。

「市民参加」におけるそういった問題に対しては、まず、市民参加企画の結果について、良いことだけを発信するのではなく、こういったことが上手くいきませんでしたといったことも情報として見える化し、本当の姿が見えるようにするとよいと思います。もう一つは「教育」ということで、中高生の方々を対象にしたワークショップも開催されていると思いますが、中学校の授業の中でそういった企画を必ずやっていると良いのではないのでしょうか。今、茅ヶ崎市ではこんなことが課題になっている、それに対して自分たちで提案していく、といったような課題解決ワークショップのようなものを必ずやっていたり、もっともっと広報活動も頑張る必要がある、といったことが、「市民参加」についての解決策です。

「行政」については、何が問題かと考えると、そもそも総合計画の冊子が分厚すぎて重すぎるということです。作っただけで計画倒れになってしまうといったことがあるのではないのでしょうか。市民のためのPDCAというものが回っていないのではないかとということです。異なった意見を受け入れない職員がいるという意見がグループの方からも結構出ているのですが、こういったことをやりますと決めてから市民に公表するので、反対意見があっても計画と違うから受け入れられません、といった形のコミュニケーションがとて多いといった話もありました。それに対する解決策として、総合計画はもう策定しないということを考えました。個別の分野別にも、細かく法律に基づいて計画が立てられているので、総合計画はむしろ、その方向性を指し示すような簡素なものではないかという話です。もう一つは「市民との双方向のコミュニケーションをする職員」が増えてくるとよいということです。つまり、このようにできました、という結果を示すのではなく、こう考えているところですがどう思いますかといったように、家庭の議論を市民に示し、意見を先に取り入れながら実際に結論付けていくといったようなコミュニケーションです。あとは、よく言われる「行政の組織改革」ということで、縦割りの状況の中で連携をしると言われながらも、どちらがボール、主導権を持っているかはっきりしない、といったところを、今の時代に合った組織に変えていく必要があるということです。あとは、「マイナス点の課題の公開」、今課題になっていることというのをもっと表に出していくということです。鋭い意見としては、「議会は完全にボランティア化」すればよいのではないかとということで、議員さんも市民参加型で誰でも参加できる形にするという意見がありました。また、「成果主義」ということで払ってあげばよいのではないかと意見も出ました。

個別な話に関しては、そこまで出来なかったのですが、「未来像」の中のタブレットを使うという意味では、ただ端末を配るのではなくて、どう活用していけるようになるかというソフト面での教育であったり、持続可能な未来をつくるということでは、一次産業が衰退してきていて、「茅産」の衰退というのが目立ってきているということもあるので、そこを充実させる必要があるということです。どう解決していくかまでは議論が出来ませんでしたが、一次産業の衰退、後継者問題等に関しては、市民全員が関わりながらやっていくことが必要なのではないかと話になりました。

未来像（未来の茅ヶ崎市でのショートストーリー）

22世紀の茅ヶ崎シニアの1日

朝5:00 自宅のICT情報をチェック

AM シャトルバスで海岸まで（北から南へ）

正午 ふれあい食堂では知り合いの店でお金を使う→人が動くことでお金と知識が循環！→せまい道を安心しててくてく歩いて行く（一方通行）。

PM 民家でシニアが子供に伝える→シニアは稼ぎ子供は学ぶ→子供を持つ親が引っ越してくる！

夜 快樂食堂で勉強（ICT情報）→シニアのスキルUP

寝る 翌日の情報をチェック

毎日楽しい。（平日）大人が（うろうろしている街
交流する

未来像実現を阻む障壁・問題

人

人材の確保
（市内の）集客
（他市）

多世代の交流

人と自転車

防犯

ICTへの
対応健康
長寿

もの

空家の利活用

インフラ整備
の計画
（長期的に）

狭あいな道路

景観

複雑な交通
（駅近）

電柱地中化

歩道空間の確保

ICTへの
対応

駐車場がない

金

財源

障壁・問題の解決策

障壁・問題	解決策
財源の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社茅ヶ崎・路上パーキング ・シニアが活躍・ベンチャーサポート
集客	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの量産
人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・語ってもらえるようなまちづくり

若者代表としての視点から発表したいと思います。「未来像実現を阻む障壁・問題」として、「人・もの・金」の三つから考えました。大きくは、「人」は人材や集客、多世代の交流などを考え、「もの」はインフラ系や、自転車や歩道の空間の確保を考えました。「お金」は財源について考えました。

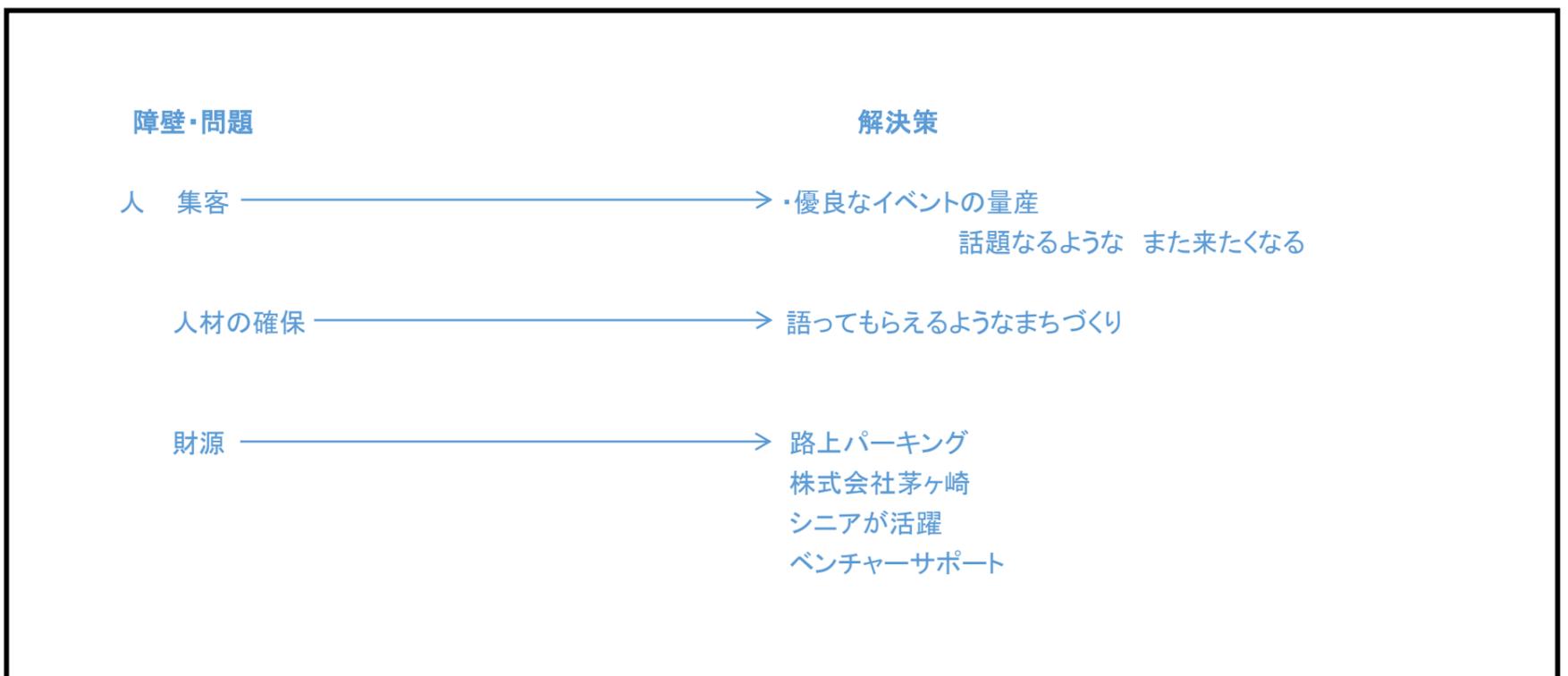
「障壁・問題」の解決策として、「財源の確保」というところでは、お金は天下の回りものとしてお金の循環を大切にしていこうと考え、「株式会社茅ヶ崎」は、市民を株主と考えるお金を食欲に稼いでいこうというアイデアです。その一例として、路上パーキング、海外にあるような路上に駐車できるものをつくり、1回千円などで、1時間の利用だと割高だが、1日の利用なら得だと思わせ、1日中茅ヶ崎にいてもらう作戦です。「シニアが活躍」というのは、ふれあい食堂でシニアに活躍してもらい、ボランティア精神でお金を稼いでもらい、税金を潤して欲しいという願いです。ベンチャーサポートは、今は学生でも起業する人が増えてきていますので、大学と茅ヶ崎市が連携して茅ヶ崎で起業するメリットをアピールしたり、サポートしたりできたらよいのではと考えました。

「集客」では、イベントの量産ということを考えています。今年10月にはサザンオールスターズの楽曲と花火が融合したイベントがありますが、ツイッターで情報が拡散されていて、行きたいと評判になっています。そういったものがあると、皆茅ヶ崎に来たくなったり、魅力に気付いてくれると思う。そういった理由から、イベントの量産してはどうかと考えました。

「人材の確保」としては、茅ヶ崎市にはプロ野球の山本昌さん、宇宙飛行士の野口聡一さんなど、すごい方たちがいるので、そういった人たちに、お金で雇うのではなく、ボランティアとしてお話を聞かせてもらえる場をつくるようなまちづくりを目指したいと思いました。

この三つが、Bグループで前回考えた未来像、つまり「将来の投資」や「人生100年への備え」、「茅ヶ崎のインフラ整備」を行うことで古きよき茅ヶ崎を残していく、ということを目指していくための障壁の解決策だと思います。

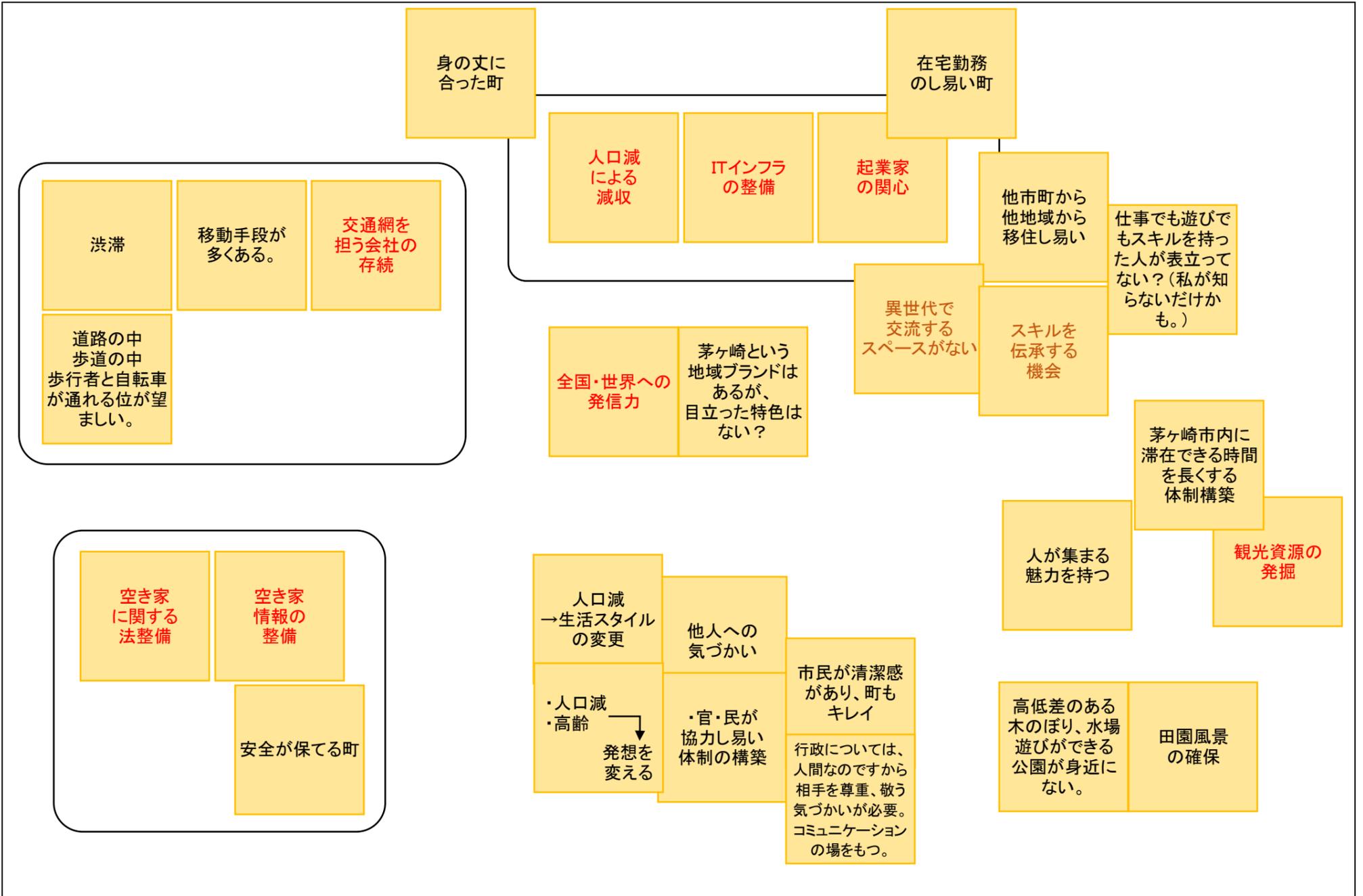
※ホワイトボード結果



未来像（未来の茅ヶ崎市でのショートストーリー）

茅ヶ崎には異世代交流できる空間がある。
 そこは研修・教育の場で、高齢者は遊び方や教育を若い者へ伝え、働き手の世代では各地から人材が集まり成功スキルの伝承が行われている。
 各地から人が集まる理由は、海・山・キャンプ場など自然豊かで、夜の遊び場があるからだ。
 多世代が輝ける土壌があるので、まちには、「茅ヶ崎スマイル」があらわれている。
 一方、まちのインフラでは道路・交通機関網が整備され、また、ディスプレイ等ごみが少なくなる仕組みが取り入れられ、「茅ヶ崎スマイル」を促進している。

未来像実現を阻む障壁・問題



障壁・問題の解決策

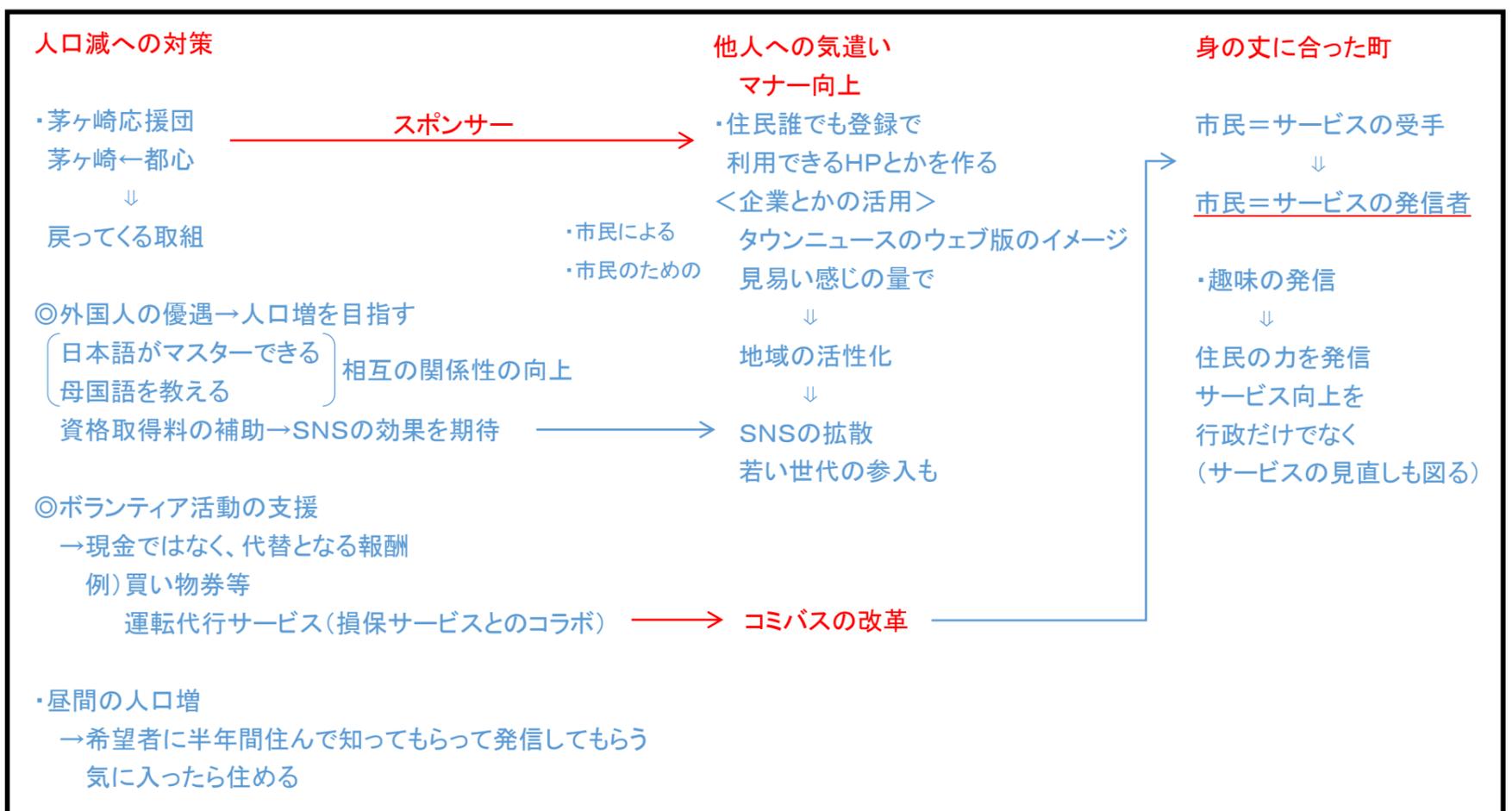
障壁・問題	解決策
人口減への対策	<ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎応援団を作り、都心から戻ってこれるしくみを作る。 ・外国人への優遇。地域住民と外国人との相互利益のしくみを作る。 ・ボランティア活動支援と昼間の人口増への取り組み。
他人への気遣い・マナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・住民誰でも登録、利用できるHP等を作成し、様々な分野でスポンサーを募り、地域から情報発信し、お互いで理解し合える関係性を作る。
身の丈に合った町づくり (財源・収入の減少を考慮した取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・住民からのサービス発信。行政だけのサービス提供を見直し、住民の力を表現できる体制を構築し、茅ヶ崎市に見合ったサービスを提供する。

私たちは「未来像」の中で「茅ヶ崎スマイル」というキーワードにしました。笑顔が素敵な茅ヶ崎というのが根本にあって、セカンドライフ、セカンドチャンス、第二の人生を茅ヶ崎でもう一回掴んでいこう、ということを前回まで議論していました。そういった未来像を目指すにあたって、障壁や問題は多々ありましたが、三つぐらいに厳選しますと、一つは人口減です。茅ヶ崎は平成32年をピークに減少傾向に転じると言われています。この問題は、茅ヶ崎だけではなく、日本全国で起きていて、東京都でも多摩地域はもう人口減に転じています。ここでよく議論になるのは、隣の平塚や寒川、藤沢から人口を持ってくるにはどうしたらよいかということです。子どもの医療費の助成で、藤沢よりも優遇したら茅ヶ崎に来るのではないかなどといった議論もありますが、正直、隣の自治体と競争してもあまり意味がないと私は思っています。一つの処方箋としては、人口減は、これから数十年は仕方ない、それを前提にどうしたらよいかといった現実的な見方が大事だと思っています。それが、三つ目の「身の丈にあったまちづくり」につながるのですが、そういった議論をしました。もう一つは、外国人を本当に受け入れていこうということです。ただ、これは我々が思っている以上に生半可な覚悟では難しい問題だと思っていて、それなりの覚悟と仕組みが必要だと思っています。「人口減への対策」として、少し戻りますが、茅ヶ崎の応援団を作っていこうと思います。茅ヶ崎で生まれて茅ヶ崎で学んで茅ヶ崎で育った方が、都心に出てビジネスで成功していたりします。先ほども茅ヶ崎市出身のプロ野球選手も話題に出ていましたが、そういった方々を応援団にして、もっと茅ヶ崎に脚光を集めていこうと思っています。これは私のアイデアですが、そういった方々を副市長などに迎えて、茅ヶ崎に帰ってきて欲しい、茅ヶ崎で茅ヶ崎のためにビジネスをやりたい、といったことを訴えてもいいのではないかと思います。それから、外国人の方々をもっと沢山呼び込んで、働き手、住み手を増やしていくということも手段としてはあるのではないかと思います。

あとは、二つ目の「他人への気遣い・マナーの向上」ですが、色々なことをやるにしても、隣近所の顔が見えない、会話をしたことがないということがあって、どんな取り組みをやるにしても、そこを突破できないと困るといった話がありました。色々議論をしたのですが、一つの解として「市民の、市民による、市民のためのウェブサイト」を立ち上げたらよいのではないかとアイデアがあります。皆さんホームページを日常にご覧になっていると思いますが、市のホームページ、企業のホームページ、サークルのホームページなど色々ありますが、それぞれを見なくてはなりません。そうではなく、茅ヶ崎市民がいつでも見たいようなウェブサイトを立ち上げるといったことを提案したいと思います。そのためには、一般社団法人等を立ち上げて、基本的にはボランティア参加型で、市民の人が市民のために手作りで作っていくということです。例えば趣味の世界でも、私はこんなことが出来ます、こんな人を探しています、といった情報をどんどんアップして頂くようなサイトを立ち上げたらどうかと思います。今は小学校からプログラミングを教えていると聞いているので、小学生、中学生にも参加してもらってよいと思います。自分たちのまちをウェブサイトを通じて作っていくことに子どもたちも巻き込んでいくということです。運営費に関しては、茅ヶ崎出身の起業家の方たちにスポンサーになっていただき、お金を出してもらおうことを考えています。せめて、茅ヶ崎に帰って来なくても、茅ヶ崎のためにお金を少し協力してください、あなたの会社の広告も出します、といった形で資金を調達してやっていくという形もあるのではないかと考えています。それから、ボランティアの話も出てきましたが、皆さん異論もあるかもしれませんが、ボランティアという無償だという概念もあると思います。でも、海外では日本と違ってちゃんとお金を貰っています。私のボランティアの定義は、本来ビジネスだったら1万円もらうところを、ボランティアなので千円で結構です、というのが本当のボランティアなのではないかと思います。これからボランティアの力をもっと市民の中から拡大していくために、例えば高齢者のお手伝いをした時に、千円、二千元といったお金ではなく、茅ヶ崎コインというような地域通貨などをもらえて、それが茅ヶ崎市内のお店だけで使えるというように、人のために役に立つことをしたら、地元で何か買えるコイン、地域通貨がもらえるといった循環をつくるのも1つの手段かと考えました。

それから、一番下の項目は意外な言葉かもしれませんが、何と言っても人口減の時代ですので、茅ヶ崎市の市税収入の40数パーセントが市民税だと思っていますが、これは当然今後減っていくと思います。稼ぐ力がつかなければ減っていきます。一つの案として、「身の丈に合ったまちづくり」をしていきたいと思いますという提案です。業界関係者の方がいらっしゃったら大変恐縮ですが、私が常々思っていることなのですが、コンビニエンスストアは本当に24時間必要でしょうか。私はそうは思いません。夜遅くまで開いていて朝早くから開いているのは良いことですが、本当に24時間やっている必要があるのか、いつも疑問に思っていました。夜は夜でしっかり休んだらよいのではないかと思います。これは一つの例ですが、「身の丈にあったまちづくり」というのをこれから日本全体でやっていかないと、とてもじゃないですが疲弊する人が沢山出てきてよくないと思います。最初の東京オリンピックでは高度経済成長で勢いよく走っていきました。人口が増えて、企業が沢山お金を稼ぎました。次の東京オリンピックは2回目です。そろそろこの辺りで日本人は生き方を変えた方がいいのではないかと考えていて、身の丈にあった無理をしないようなまちづくりを茅ヶ崎からやっていってほしいのではないかと考えています。

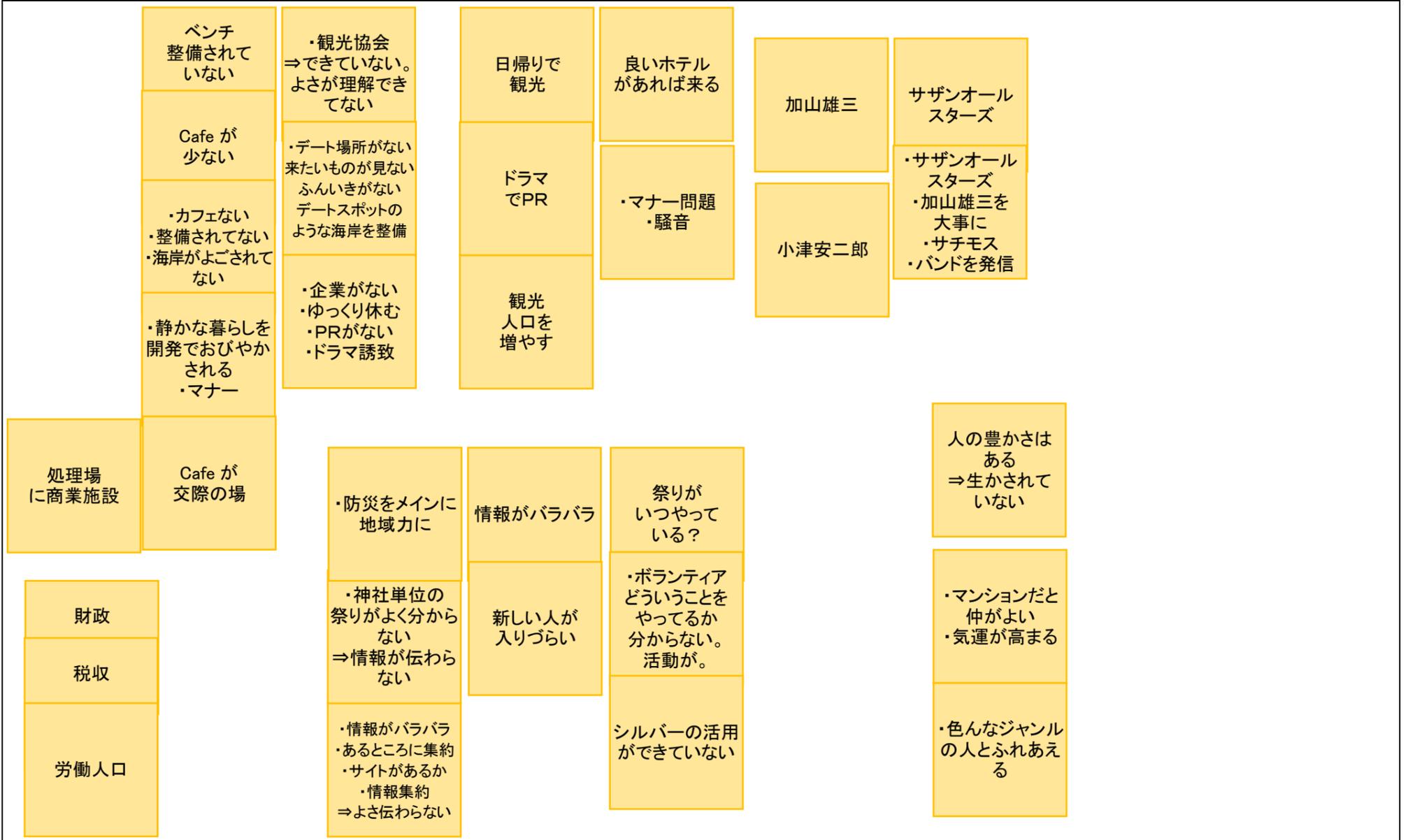
※ホワイトボード結果



未来像（未来の茅ヶ崎市でのショートストーリー）

私の10年後は75才。今日は海を見ながらc a f eで朝食。えぼし岩を写真にとりインスタに投稿。みんな「いいね！」を押してくれる。
 これからスポーツジムで身体を調整。健康長寿でいるために運動は欠かせない。
 午後は、小・中学生に学習のボランティア。勉強だけでなく、昔遊びや読みきかせもおこなっている。
 明日は、茅ヶ崎のまち歩きだ。らちえん通りを中心に文化を感じるツアーだ。そこには、シニアだけでなく子育てママもやってくる。茅ヶ崎のあんなこと、こんなことを話す情報交換の場だ。
 最近、茅ヶ崎に住みはじめた人が参加することも多くなってきた。
 もうすぐ浜降祭。担ぎ手にならないかと声をかけ、地域の伝統文化を知ってもらい、たくさんの人に参加してもらおうことで、コミュニティを充実させていきたいと思う今日この頃だ。

未来像実現を阻む障壁・問題



障壁・問題の解決策

障壁・問題			解決策				
公園が活用されていない	観光(デート)スポットがない	観光資源をPRできていない	野球場、公園の再開発を民間にお金を地域におとしてもらう仕組みを 茅ヶ崎異人館、カフェ	海岸線の有効活用			
情報発信	情報が集約されていない	地域の情報が分からない (ボランティア、市民団体の活動、シルバーの活用)	リンクを貼る市のHPからハブになる	項目を増やすのではなく見やすさを重視	地域のページを作る		
	防災情報が乏しい		詳細な情報 ↓ 対話を増やす	ラジオ防災	ITを活用して発信	意識付け イベント(防災、yahoo-Google等と) 連携い ↓ 防災、観光等	観光と防災をリンク

D グループでは、前回考えたショートストーリーを見ながら、何が課題なのか考えていきました。前回、まず「海を見ながらカフェで朝食」とありますが、そもそも海を見ながらカフェで朝食をとれる場所、環境が無いのではないのでしょうか。「写真をインスタに投稿」といった時に、情報発信を個人がして、きちんと「いいね」を押してもらえる、茅ヶ崎の良さを知ってもらえるような環境がないのではないかと考えます。また、「健康長寿でいるために」と言っても、健康長寿とはどうやったら出来るのかや、ボランティアに関する情報は、現役世代の30代、40代になると、シニアの世代とギャップがあるのではないかと思います。「昔遊びや読み聞かせ」なども行われているのかどうかも分かっていなかったり、まち歩きや情報交換の場に住み始めた人が参加できていないとか、地域の伝統文化等でも、住まれている方は知っている、県外から来た方は分かっていないのではないかと、といったことが最初の話になっています。

そして、「未来像実現を阻む障壁・問題」の話の中で、今 B グループでも話があったような財政や税収についての話も出てきました。財政や税収の問題をどのように解決していくかとなった時に、観光や茅ヶ崎の良さである自然と環境のよさということ、文化人、加山雄三、小津安二郎、サザンオールスターズ、こういったところがきちんと使われていないのではないかと、思います。観光でも、周辺には藤沢市だと江ノ島がありますが、茅ヶ崎市にはデートスポット的なところがなかったりと、色々な資源が整理されていないといったこともあるのかと思います。「防災の問題」でも、防災の情報があまり整理されておらず、情報はあるのだけれど分からない、といったことがあるのではないかと話し合われました。

そういった中で、解決策として3点出てきました。まず、「障壁・問題」として、「公園の活用」、「観光スポット」、「観光資源が PR できていない」といったことがあります。それを解決するためには、例えば、柳島のスポーツ公園もありますが、野球場もあってきちんと野球場として使われていなかったり、野球場としか使われていなくて、周りが有効活用できていないとなってくると、1つに集約するような1つの組織を地域で作っていくということも1つあるのではないかと思います。なので、柳島をスポーツの拠点としていく、それ以外の地域は違う拠点として作っていくというのも一つあるのではないかとということです。

もう1つは「海岸線の有効活用」で、茅ヶ崎は自然、海があるところがとても強みだと思っています。その海岸線をもっと有効活用することで、茅ヶ崎に日帰りや宿泊してもらえるような観光が必要なのではないかと思います。少し前に、Aikoさんのイベントがあった時に、ビジネスホテルが一軒しかなくて、そこが満室だったと聞いています。そういったことをできるだけ海岸線沿いのエリアで解決できればよいのではないかとということが挙げられました。

「情報発信」では、情報があまり集約されていないことがあるような気がします。私は3年前に茅ヶ崎に引っ越してきたという背景があり、茅ヶ崎の情報がほとんどわからないまま、引っ越してきたということがあります。そういった時に、市のホームページをハブにして、そこから色々な情報がリンクされているようにするなど、一つの茅ヶ崎の情報を力として、色々なWebの検索に掛かるような仕組みがあるとよいのではないかと思います。

最後に「防災情報」ですが、防災情報が乏しいと思います。海岸沿いに住まれている方だと、標高のデータがないと、津波でここが沈んだらどうなるかはハザードマップでわかりますが、想定範囲といわれると、想定が正しいのか中々分からないので、詳細な情報が欲しいです。例えば、標高データなどで、なんとなくという想定範囲ではなくて、自分で実際に、標高データ等が分かるが大事ではないのでしょうか。災害時は、ピンポイントで情報が知ることができるラジオの情報が必要なのではないかとすることも挙げられました。実は、茅ヶ崎市には市の防災ラジオがあるらしいのですが、そのPRがあまり出来ていないように思います。ITの活用、今はマイクでエコーがかかっていて、殆ど情報が分かりません。そういったところでもっとITが活用できないかと思っています。最後に、「観光と防災」ですが、防災情報だけであれば普段使わないのでなかなか難しいと思いますが、それと観光を結びつけることで、1つのマップというかGIS的な使われ方ができればよいのではないかと話されました。

前回、Eグループは「3世代のショートストーリー」という考えでしたが、今回は「障壁・問題」ということで、そもそもショートストーリーの話の前段になるかとも思いますが、情報をどうやって知るか、どのようにやり取りしていくかというところに課題があるのではないかと話になっています。

1つは「情報をまず知る機会」です。今回Eグループに、茅ヶ崎市の色々なことは知らずに参加したのですが、グループの中に条例などにとても詳しい方がいらっやっで、とても勉強になりました。そういった情報が市のホームページ等でもっと気軽に見ることができたらいいのではないかと感じました。今回、大きい茅ヶ崎市全体の枠組みとなってくると、中々時間もなくて調べるのも難しいので、もう少しテーマを絞って話し合いする場があるといいと思います。私は今回、子どもがいて無理やり親に預けて参加しているのですが、やはり、子どもがいらっやる方はこういう場には参加しづらかったりするので、子どものいる方がこのような場に参加できる機会があるとよいのではないかと感じました。

「市民参加のあり方」では、我々市民ももっと積極的に参加をしなければいけないと、今回自分自身が感じました。ただ、このようなかしまった場というのは中々参加しづらいため、もう少し気軽に職員の方と意見交換できる場があるとよいのではないかと感じました。また、出した意見に対しても反映されている箇所が分かりやすくなると、もう少し皆さんの参加意欲も高まるのではないかと感じました。

次からは少し具体的なことになりますが、ショートストーリーの中で「空き家を活用する」という話が出ていましたが、そもそも空き家がどれくらいどこにあるのかがわからないので、市のホームページ等から見られるようになればよいと思いました。他の市区町村ですと、市のホームページ上で空き家が見られたり、中古でどれくらいの価格で売り出しているなど見られたりするところもあるので、そういった情報があるとよいというのと、その場所をどのように有効活用できるかなど、市民の方が気軽にアイデアを出せるような仕組みになるといいかと思いました。空き家の問題だけではなく、茅ヶ崎市の中でこういうことが困っている、ああいうことに困っているという方が沢山いらっやると感じますが、それを解決できる方も沢山いらっやるはずで、それが表には全く出てこないということもあるので、その辺りのマッチングを市の方でやっていただくとよいと思います。例えば、サイト上でこういうことに困っている人がいます、というのがあって、私が助けられますといったような挙手性で、同じ市民の中で助け合いができるとよいと思いました。細かくは色々出てはいるのですが、情報という切り口で、こういったところが障壁になっている気がするのと、この辺りが課題解決していけたら利益になるかと感じました。

※ホワイトボード結果

課題	解決策(アイデア)
<ul style="list-style-type: none"> ・防災 どのように対策？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアごとの対策
<ul style="list-style-type: none"> ・安心して歩ける道路 	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄でも安心して歩ける道路 時間を区切って使う
<ul style="list-style-type: none"> ・職・住近接 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅ワークなど市の仕事ができたら ・IT企業誘致 ・障がいのある方も働きやすい社会

2.4. 参加者アンケート

概要

ワークショップについての感想では、「茅ヶ崎市の良いところ、課題を認識できた」、「茅ヶ崎市で生活していくことが楽しみになった」など、茅ヶ崎市の現状や良い面、悪い面を知ることが出来たという意見や、様々な市民と議論・交流出来たことを評価する意見が見られた。一方、「市民アンケートや市民満足度調査統計等資料も含めて進めた方が良かった」、「最初に、今の総合計画の考え方や課題などをレクチャーしてもらえるとずっと良かった」など、計画策定の背景となる情報提供が欲しかったという意見も見られた。

総合計画策定や市政全般についての意見では、「市政の難しさを認識出来た」、「市職員の努力が実感できた」などの意見が見られ、市政への理解が深まったことが伺えた。一方、「総合計画は毎年、市民参加で見直し、柔軟に改定する仕組みを検討して欲しい」、「八十余りある長期計画の毎年、せめて三年に一度、「成果と反省」を市民に分かり易く公開する仕組みがあるとよい」、「全員が参加出来る街作りが出来たらいい」など、市民参加や情報公開の深化を求める意見も見られた。

意見一覧

<p>観光事業、働き手を増やす為の何か…など財源確保は大切（市民の高齢化も問題なので）ですが、治安の良さ、静かなまちといった、市の良さはなくさないで欲しいと思います。環境を（海、松林 etc.）を守るという点を考えても、住みやすさをまず優先したいです。</p> <p>教育に携わる者として、子どもたちが個性を伸ばし、自由な気風の中で学んでいける学校作りを今後も続けていって欲しいです。</p> <p>教育委員会や教職員に一部の偏った思想を持つ人が介入することのないよう（例えば教科書選びなど）自由でニュートラルな教育環境を守っていければ…と考えています。</p>
<p>茅ヶ崎市の良いところ、課題を認識できたいい会議でした。</p>
<p>パシフィックコンサルタンツのチームのサポートにより、スムーズな運営が出来たと思います。重要な点はやはり、茅ヶ崎の未来像について、しっかり茅ヶ崎の強み弱みを踏まえて、考え抜くことだと思いました。今回の結果が次期総合計画の策定に反映されることを期待しています。</p>
<p>結論として、大変満足しています。</p> <p>① テーマが難しいものにも関わらず、適切なナビゲーションでやり易かった。</p> <p>② チーム（B チーム）メンバーがそれぞれ知見を持ち、意見を言ってくれて自分自身が勉強になった。</p> <p>③ 市政、行政の難しさを今更ながら認識出来、知見が広がった。</p> <p>想いは出し切ったと思います。</p>
<p>既に出ている市民アンケートや市民満足度調査統計等資料も含めて進めた方が良かった。</p> <p>出された意見を十分活かして欲しい。</p> <p>総合計画は大部でなく市民に分かり易く作って欲しい。</p> <p>総合計画は毎年、市民参加で見直し、柔軟に改定する・出来る仕組みを検討して欲しい。</p>
<p>これまで自分の住んでいる街にほとんど関心を持たずに過ごしてきた、今回夫から参加してみないかという話があり参加しました。</p> <p>これから先、茅ヶ崎市で生活していくことが楽しみになりました。</p>
<p>参加出来て良かったです。</p> <p>市民が直接触れ合うことは本当に大切だと思いました。（市職の皆さんとも会話出来て良かったです）</p> <p>今後もこのような活動が継続されますように希望します。</p>
<p>様々な年代の方とコミュニケーションを取ることが出来る非常に良い機会となりました。</p> <p>議論をするにあたり、詳細な情報をもっと頂けると良かったです。</p>
<p>初めて会議に参加させて頂きました。</p> <p>茅ヶ崎の未来像という道路、ゴミ、ベッタウン的なコンパクトな町という感じですが、人間の心の問題がおざなりになり過ぎてはいないでしょうか。自分勝手すぎて、自分さえ良ければ良い、相手が傷ついているのを知らない、人に対して思いやり、気配り、困ったときの手助け、マナーをもっと考えたらいかがでしょう。</p>
<p>今回のワークショップに参加し、新しい方々に会え、意見交換が出来てとても良かった。皆、茅ヶ崎の未来に誠実に向き合っていたことが嬉しい。</p> <p>4回のワークショップで終わりなのはもったいないと思う。</p>

<p>出来れば最初に、今の総合計画の考え方や現状の課題などをレクチャーしていればもっと良かったと思う。</p> <p>職員が参加してくれたが、ずっと続けて参加できなかったのがちょっと残念である。</p> <p>人数が多くても良いので、今後の地区別懇談会などの市民参加の時もっと柔軟に根本的なことを市民が発言し易いようにやって欲しい。</p>
<p>大変勉強になりました。ありがとうございました。</p> <p>三十数年前、木造の駅舎を出た時、潮風がさわやかに通り過ぎました。</p> <p>それから、ずっと茅ヶ崎の他にはない心地良い香気を感じています。</p> <p>これからいつまでも、この空気を残して下さい。</p> <p>今後とも茅ヶ崎市役所職員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。</p> <p>宜しく願い申し上げます。</p>
<p>学生ならではの意見を発信していきたかったのですが、周りの方にサポートされていく形だったので、まだまだ勉強不足だと感じました。多世代の交流の場に初めて参加し、様々な意見を聞くことで茅ヶ崎市についてより深く知ることが出来ました。</p> <p>市民参加の活動が今後あればまた参加したいと思います。</p>
<p>幼児から高齢者までイキイキと暮らせる町になるといいなと改めて思いました。</p> <p>幼児と小学生の娘を持つ母親として必要と感じているのは放課後、安心して充分遊べる場所です。</p> <p>大人目線ではなく、子どもたちが行きたくなるようなそんな場所が地区ごとにあるのが理想です。</p>
<p>自分より圧倒的に「市政」というものに詳しい方に話を聞けたり、実際に活動されている方の話を聞けたり、自らも議論に参加出来たりと、とても有意義な時間を過ごさせて頂きました。</p>
<p>定年退職した現在、自分の住む茅ヶ崎についても知識を深め、少しでも役に立てばと考えています。</p> <p>茅ヶ崎にはスポーツジムも多く、シルバーが健康のため、通っていることを知りました。</p> <p>今後の高齢や人口減に向けてシルバーの役割はより大きくなっていくと思います。私も何が出来るか考えていきたいと思いますので宜しく。</p>
<p>大変勉強になりました。</p>
<p>市単独の範囲内でも出来ることを頑張ってください。例えば、茅ヶ崎の緑化海岸の美化などなど。</p> <p>次期総計に私たちの想いが反映されれば幸いです。宜しく願い致します。</p> <p>総計の他、八十余りある長期計画の毎年、せめて三年に一度、「成果と反省」を市民に分かり易く公開していけるような仕組みが出来るとありがたいです。</p> <p>市の職員の方々の人事評価で、市民が求めた幸せについて成果をあげた職員が高評価を得られるようにお願い致します。</p> <p>今回、本WSに参加して、班の他の方の意見や市のHPなどで、市や職員さんの大変なご努力とそれがいかに市民に伝わっていないのかが実感できました。これからも、市民として色々な活動に積極的に参加していきたいと思えます。</p>
<p>今回茅ヶ崎未来会議に参加して、自分が住んでいる街について「自分事化」で考えることが出来ました。</p> <p>市民に権限委譲をして、全員が参加出来る街作りが出来たらいいなと思えます。</p> <p>また機会がありましたら参加できればと思えます。</p>